シ ラ バ ス

令和6年度

広島文化学園大学大学院

看護学研究科

博士前期・後期課程

目次　　博士前期課程

専門領域			教育科目	開講	科目担当者	頁
共通科目			特別研究Ⅰ	前	大学院看護学専攻教授	1
			特別研究Ⅱ	後	大学院看護学専攻教授	2
			特別研究Ⅲ	前	大学院看護学専攻教授	3
			特別研究Ⅳ	後	大学院看護学専攻教授	4
			看護学研究法特論	前	岡本陽子　小林敏生　塩谷久子　金澤寛　中村哲	5
			看護研究法Ⅰ	前	前信由美	6
			看護研究法Ⅱ	後	山内京子　岡本陽子	7
			看護研究法Ⅲ	前	中村瑞子非	8
			看護理論特論	後	石川孝則　佐藤敦子	9
			看護倫理特論	後	内藤直子非	10
			看護政策特論	後	馬庭恭子非	11
			看護教育特論	後	内藤直子非	13
			看護管理特論	後	山内京子	14
			フィジカルアセスメント特論	前	岩本由美　棚﨑由紀子	15
			臨床薬理学特論	前	前信由美　奥田泰子　森田克也非	16
			病態生理学特論	前	岩本由美　奥田泰子　土肥敏博非	17
専門科目	看護教育・管理学分野	看護教育学領域	健康科学特論	前	中村瑞子非	18
			看護基礎教育特論	前	石川孝則	19
			看護基礎教育方法論特論	後	石川孝則　前信由美	20
			適応看護理論特論	後	前信由美　岩本由美	21
			看護援助技術論	前	石川孝則　田村和恵　前信由美	22
			看護実習教育特論	後	石川孝則　田村和恵	23
			精神看護基礎教育特論	前	佐藤敦子　浅香真由巳　大塚文併	24
			精神看護基礎教育特別演習	前	佐藤敦子　浅香真由巳	25
			小児・青年期発達心理特論	前	岡本陽子　堀井順平　八島美菜子併	26
			母子看護基礎教育方法論特論	後	山内京子　進藤美樹	27
			母子看護基礎教育方法特別演習	後	山内京子　進藤美樹	28
		看護管理学領域	看護管理特論Ⅰ（人的資源管理）	後	山内京子	29
			看護管理特論Ⅱ（組織マネジメント）	後	山内京子	30
			看護管理特別演習Ⅰ	後	山内京子	31
			看護管理特別演習Ⅱ	後	山内京子	32
	臨床看護学分野	成人看護学領域	クリティカルケア看護学特論Ⅰ（人間存在）	前	前信由美　岩本由美　佐々木由紀	33
			クリティカルケア看護学特論Ⅱ（危機とストレス）	前	前信由美　岩本由美　小林敏生　堀井順平　佐々木由紀	34
			クリティカルケア看護学特論Ⅲ（フィジカルアセスメント）	前	岩本由美　前信由美　森山美知子非	35
			クリティカルケア看護学特論Ⅳ（重症患者の病態生理）	前	前信由美　廣橋伸之非	36
			クリティカルケア看護学特論Ⅴ（クリティカルケア・治療管理）	前	前信由美　藤本和恵　廣橋伸之非　森田克也非	37
			クリティカルケア看護学演習Ⅰ	後	前信由美　岩本由美　藤本和恵　森山美知子非	38
			クリティカルケア看護学演習Ⅱ	後	前信由美　藤本和恵　佐々智宏非	40
			クリティカルケア看護学演習Ⅲ	後	前信由美　岩本由美　掛田崇寛非　佐々智宏非	42
			クリティカルケア看護学演習Ⅳ	後	岩本由美　前信由美　佐々智宏非　長岡孝典非	44
			クリティカルケア看護学実習Ⅰ	前	岩本由美　藤本和恵　佐々智宏非　島内淳二非	46
			クリティカルケア看護学実習Ⅱ	前	岩本由美　前信由美　佐々智宏非　島内淳二非　戸田美和子非　中山智代美非	48
			クリティカルケア看護学実習Ⅲ	前	岩本由美　前信由美　佐々智宏非　島内淳二非　戸田美和子非	50
		高齢者看護学領域	高齢者看護学特論Ⅰ（高齢者看護の基盤）	前	奥田泰子　松本啓子非　北木弥生非	52
			高齢者看護学特論Ⅱ（高齢者の健康生活評価）	前	奥田泰子　北木弥生非　加藤愛子非	54
			高齢者看護学特論Ⅲ（高齢者の疾患と検査、治療）	前	奥田泰子　土肥敏博非	56
			高齢者看護学特論Ⅳ（高齢者と家族）	前	奥田泰子　加藤愛子非　佐々木由紀	58
			高齢者看護学特論Ⅴ（高齢者制度・政策とサポート）	前	奥田泰子　棚﨑由紀子　久常節子非　川本雪江非　藤元歩非	60
			高齢者看護学演習Ⅰ	後	奥田泰子　下山真澄非　久保田浩子非　岡田望非　川本雪江非　古山陽子非　加藤愛子非　北木弥生非	62
			高齢者看護学演習Ⅱ	後	奥田泰子　佐々木由紀　田村和恵　三村静香非　平山順子非　北木弥生非　加藤愛子非　濱本千春非	64
			高齢者看護学実習Ⅰ	通	棚﨑由紀子　奥田泰子　北木弥生非　岡田望非　加藤愛子非　神開知子非	66
			高齢者看護学実習Ⅱ	通	棚﨑由紀子　奥田泰子　北木弥生非　五十嵐美和非	68
			高齢者看護学実習Ⅲ	通	棚﨑由紀子　奥田泰子　北木弥生非　新内香菜子非　加藤愛子非　神開知子非	70
			高齢者看護学実習Ⅳ	通	奥田泰子　棚﨑由紀子　濱本千春非　古山陽子非	72
	広域看護学分野	在宅看護学領域	在宅看護学特論	前	塩谷久子	73
			在宅看護学演習	後	塩谷久子	74
		学校保健看護領域	学校保健看護学特論	前	岡本陽子　三木とみ子非　御村ひさ子非	75
			学校保健看護学演習	後	岡本陽子　三木とみ子非　御村ひさ子非	76
		地域看護学領域	公衆衛生学特論	前	中村　哲	77
			公衆衛生看護学特論	前	岡本陽子　久常節子非	78
			地域保健政策論	後	岡本陽子　久常節子非	79
			国際感染症特論	前	中村　哲	80
			国際看護学特論	前	岩本由美	81
			国際看護特別演習	前	岩本由美　中村　哲	82

目次　博士後期課程

専門領域		教育科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	担当教員	頁
看護学共通		看護学研究特論	2		1年前期	岡本陽子・小林敏生・前信由美・奥田泰子・塩谷久子	1
臨床看護学分野	母子看護学領域	母子看護学特論		2	1年前期	岡本陽子・渡邉　満・山内京子 堀井順平	2
		母子看護学特別演習		2	1年通年	岡本陽子・山内京子・渡邉　満 御村ひさ子非	3
	成人看護学領域	成人看護学特論		2	1年前期	前信由美・岩本由美・田村和恵 小林敏生・森山美知子非・土肥敏博非 廣橋伸之非・樋田一徳非	4
		成人看護学特別演習		2	1年通年	前信由美・岩本由美・田村和恵 小林敏生・森山美知子非・土肥敏博非 廣橋伸之非	5
	高齢者看護学領域	高齢者看護学特論		2	1年前期	奥田泰子・棚﨑由紀子	6
		高齢者看護学特別演習		2	1年通年	奥田泰子・棚﨑由紀子	7
広域看護学分野	在宅・地域看護学領域	在宅・地域看護学特論		2	1年前期	塩谷久子・中村　哲	8
		在宅・地域看護学特別演習		2	1年通年	塩谷久子・中村　哲・松原みゆき非	9
看護学近接科学		特別講義Ⅰ（人体構造機能・薬物代謝）		2	1年後期	小林敏生・森田克也非	10
		特別講義Ⅱ（放射線環境・住環境）		2	1年後期	金澤　寛・小林敏生・岡　隆光非	11
		特別講義Ⅲ（栄養代謝・生体物質科学）		2	1年後期	中村哲・中村瑞子非	12
看護学特別研究		看護学特別研究Ⅰ	2		1年通年	岡本陽子・小林敏生・前信由美・奥田泰子・塩谷久子	13
		看護学特別研究Ⅱ	2		2年通年	岡本陽子・小林敏生・前信由美・奥田泰子・塩谷久子	14
		看護学特別研究Ⅲ		2	3年通年	岡本陽子・小林敏生・前信由美・奥田泰子・塩谷久子	15

看護学研究科博士前期課程シラバス

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0001	特別研究Ⅰ	2	30	必修	1年次前期	大学院看護学専攻教授

ねらい	研究をするとは知的好奇心をたくましくし、ある問題について深く追求することである。自己の研究動機を明確にしつつ、先行研究や指導教員の力をかりながら、研究課題について問題解決できるための方法について決定し、「看護教育学」「臨床看護学」「広域看護学」の各専門領域において履修し演習した学習内容から文献レビュー、文献検討を並行させて研究課題が集約できるよう指導する。研究者としての倫理について論じることが出来るよう指導する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	4月；個々の研究課題に沿って個別指導開始 ・学生は研究課題に対するイメージを自由に論述する	研究課題がイメージできる	自己の研究課題解決に類似した参考文献及び自己の研究方法に即した参考文献は自身で検索する。
2	・学生個々の研究課題に対して、研究動機を明確にする	研究動機を明確に述べることができる	
3	・学生個々の研究課題に対して、問題解決できるための方法について議論する	研究的問題解決の方法が理解できる	
4	・学生個々の研究課題を明確にするために、文献検索、及び文献のクリティークを行う	文献検索、文献クリティークについて自己学習ができる	
5	文献検索の方法を教授する	文献検索の方法が理解できる	
6	文献クリティークの開始 ・文献クリティークとは、	文献クリティーク、文献クリティークの基準が理解できる	
7	文献クリティークの実際 ・学生個々の課題と量的研究論文のクリティーク	量的研究論文の文献がクリティークできる	
8	文献クリティークの実際 ・学生個々の研究課題と質的研究論文のクリティーク	質的研究論文の文献がクリティークできる	
9	文献クリティークの実際 ・学生個々の研究課題と実験研究論文のクリティーク	実験研究論文の文献がクリティークできる	
10	文献検索及び文献クリティークの結果から研究課題を焦点化させる	自己の研究課題の焦点化ができる	
11	研究課題を焦点化することにより、自己の研究課題を明確にする	自己の研究課題を明確に述べることができる	
12	研究課題を明確にし、研究目的について論じる	自己の研究目的を明確に述べることができる	
13	研究目的をイメージして研究の概念モデルを検討する	研究の概念モデルについて理解できる	
14	研究課題を表明するために、研究背景、動機、目的を明確にし、文章化する	研究背景、動機、目的について論理的に記述することができる	
15	研究目的を明確化する	研究目的を明確に文章化できる	
16	自己の研究課題について指導教員に文書で報告する	自己の研究課題について、レポート提出ができる	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
研究テーマに即したオリジナルティー・プライオリティーのある研究課題が明確になるための文献クリティークができ、研究目的とその目的を達成するに相応しい概念枠組みの構築ができる。	提出された自己の研究課題の妥当性による評価 評価方法は学則に準じる。	自己の課題解決に向けた自主的な探求と、集められた資料の分析・論理的な文章の作成等、論理的思考法と分析的思考法を含めた学習が求められる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0001	特別研究Ⅱ	2	30	必修	1年次後期	大学院看護学専攻教授

ねらい	自己の研究動機を明確にしつつ、先行研究や指導教員の力をかりながら、研究課題について問題解決できるための方法について決定し、「看護教育学」「臨床看護学」「広域看護学」の各専門領域において履修し演習した学習内容から文献レビュー、文献検討を並行させて研究テーマを集約する。また、指導教員は研究テーマに関する概念枠組みの構築、研究デザインを経て学生が自主的な研究計画の作成ができるよう教授・指導する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	4月；個々の研究課題に基づいて指導教員が決定される。	自己の研究課題解決に向けた論理的な研究計画書が作成できる。	自己の研究課題解決に類似した参考文献及び自己の研究方法に即した参考文献は自身で検索する。
	2	個々の研究課題に沿って個別指導開始		
	3	個々の研究課題に即した文献検索及び文献のクリティークを行い、研究目的を明確にする。		
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11	10 月；2年次生の研究中間発表会に参加		
	12			
	13			
	14	2 月；2年次生の研究最終発表会に参加		
	15	研究計画書完成 研究内容に即して倫理審査を受ける		
	16	完成した計画書は指導教員に提出		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	研究テーマに即したオリジナルティー・プライオリティーのある研究目的とその目的を達成するに相応しい概念枠組みの構築、研究デザインが内包された研究計画が作成できている。	研究課題に即した研究計画書作成により単位が認定される。	自己の課題解決に向けた自主的な探求と、集められた資料の分析・論理的な文章の作成等、論理的思考法と分析的思考法を含めた学習が求められる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0019	特別研究Ⅲ	2	30	必修	2年次前期	大学院看護学専攻教授

ねらい	研究計画に基づき、研究対象・研究方法によっては倫理審査を受け、データ収集・分析が積極的な研究活動が展開できるよう教授・指導する。

教育内容	授業概要		授業到達目標	使用図書等
	1	研究計画に沿って研究開始	自己の課題に即した研究方法によってデータ収集と整理・分析ができる。	自己の研究課題解決に類似した参考文献及び自己の研究方法に即した参考文献を適宜、自身で検索する。
	2	データ収集と整理・分析		
	3	分析されたデータの妥当性の検証		
	4	結果の説明を適切に文章化		
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	自己の研究計画に即した研究方法によってデータの取集と整理ができ、分析できる。	データの取集とデータの整理ができ、分析した報告書によって学則に準じ、評価する。	自己の課題解決に向けた自主的な探求と、集められた資料の分析・論理的な文章の作成等、論理的思考法と分析的思考法を含めた学習が求められる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0020	特別研究Ⅳ	2	30	必修	2年次後期	大学院看護学専攻教授

ねらい	研究計画に基づき、研究対象・研究方法によっては倫理審査を受け、データ収集・分析・考察という研究一連の過程を経て、科学論文たる研究論文を作成させ、期日までに提出できるなど、積極的な研究活動が展開できるよう教授・指導する。

教育内容	授業概要		授業到達目標	使用図書等
	1	データ収集・分析・考察を行う。	研究論文〔修士〕が完成する。	自己の研究課題解決に類似した参考文献及び自己の研究方法に即した参考文献を適宜、自身で検索する。
	2	科学論文としての体裁を整える。		
	3	抄録を書く。		
	4	抄録に基づいて発表準備を行い、指定された期日までに必要書類を提出する。		
	5	10月;中間発表会		
	6	発表会での助言を自身の研究に反映させる。		
	7	1月末日;論文完成・学生部提出		
	8	2月;論文審査〔主査・副査の決定〕		
	9	審査時の助言を適切に論文に反映させる		
	10	審査時の助言を適切に論文に反映させる		
	11	縦覧用論文を期日までに学生部に提出する。		
	12	最終発表会用資料を期日までに学生部に提出する。		
	13	2月;最終発表会		
	14	論文は審査され、研究科委員会にて合否が判定される。		
	15	3月 31 日までに研究論文を5冊製本し、教務課に提出する。提出された論文は大学院研究室・図書室に保管される。		
	16			

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	自己の研究計画に即して研究がすすめられ、科学論文として相応しい修士論文が完成する。	期日までに提出された論文は論文審査委員会による口頭試問を受け、学則に準じた評価を為す。	自己の課題解決に向けた自主的な探求と、集められた資料の分析・論理的な文章の作成等、論理的思考法と分析的思考法を含めた学習が求められる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	看護学研究法特論	2	30	CNS必修	前期	岡本陽子・小林敏生・塩谷久子・金澤寛・中村哲

ねらい

看護の実践の場において専門的な知識・技術の向上や開発を図るための研究活動が行えるように、必要な研究法を理解し、研究計画書作成、研究の進め方、研究倫理、研究の質管理方法、研究発表、研究論文作成方法を例示しながら、レポート作成と討論により具体的に修得できるようにする。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	看護研究の特徴・文献レビュー・論文クリテーク・研究の社会的価値とオリジナリティの高い研究計画とは（小林）	オリジナリティのある研究計画を立てるための準備ができる。	1）福田吉治・山縣然太郎・島内節他：保健医療福祉の研究ナビ 金原出版 2007 2）操 華子・松本直子著 臨床看護研究の道しるべ 日本看護協会出版会 2006 3）Kuyper, B.J Bringing up scientist in the art of critiquing research Biosciences, 特に 41(4):248-250 1991 4）ウヴェ・フリック著 質的研究入門 春秋社 2004
2	研究計画書作成方法、目的、仮設の立て方、研究デザインの選択・予測される結果・タイムスケジュール（小林）	目的・仮設の設定を含めて、妥当な研究計画の作成方法とそのプロセスが理解できる。	
3	看護における研究倫理 本学における研究倫理審査申請書作成方法（小林）	研究倫理審査に合格できる計画の立て方が理解できる。	
4	研究フィールドの選択・調整・依頼手続・パイロットスタディとその分析とその方法（小林）	パイロットスタディができる準備が整えられる	
5	看護における質的研究法（塩谷）	看護の質的研究の計画と進め方の概要が理解できる。	
6	看護における質的研究法の研究計画と研究のプロセス（塩谷）	同上	
7	目的に基づく適切な調査票作成・データ入力・データ分析法の選択（岡本）	調査計画と分析方法の概要が理解できる。	
8	研究の信頼性・妥当性検証を意図した適切な調査研究法（岡本）	調査の信頼性、妥当性の検証方法の概要が理解できる。	
9	公衆衛生学・疫学的調査法に基づく研究計画と研究プロセス（中村 ）	実験的研究の計画と進め方の概要が理解できる。	
10	公衆衛生学・疫学的調査法における分析と解釈（中村）	実験的研究における分析と解釈ができる。	
11	モデル事業・アクション研究の計画と分析・評価方法（小林）	介入研究法の概要が理解できる。	
12	仮説検証型研究における研究法（実験研究法）の目的別研究デザイン（金澤）	介入研究計画書とデータ収集・分析法の概要が理解できる。	
13	研究の質管理としての研究プロセスの信頼性・一貫性・妥当性を高める方法（金澤）	研究の質管理方法が理解できる。	
14	研究結果・考察・結論の示し方、学会発表、論文作成方法（塩谷）	研究発表、論文作成法が理解できる。	
15	研究費申請方法と採択のキーポイント、全体のまとめ（塩谷）	研究費申請方法が理解できる。 まとめで研究の進め方が理解できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
1）研究のオリジナリティ・テーマ・目的・方法を理解し研究計画書を作成する基盤を理解できる。 2）研究目的に到達するために適切な研究デザインを選択する方法が理解できる。 3）研究の質管理の方法、プロセスを理解できる。 4）研究発表の方法・研究論文の作成方法を理解できる。	1)テーマごとのレポート作成 40% 2)テーマごとの発表・質疑・討論 40% 3)情報収集・分析力・討論での意見を活用して自己の研究の進め方に活用する能力 20%	1）学生の課題レポート作成・発表・討論により、自己学習法がより確実に進められる方法を修得する。 2)科目の到達度評価をチェックリスト・アンケートにより実施し、理解が不十分な点を補充しながら進める。 3）学生には積極的に質疑・討論に参加することを期待する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0002	看護研究法Ⅰ	2	30	選択	前期	前信由美

ねらい	グランデッドセオリー・エスニックセオリー・参加観察法などを用いた質的研究の意義、方法についての学習を通して、自己の課題(研究テーマ)解決に向けて適切な質的研究法選択ができるための基礎的理解につながるよう教授する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	授業概要の説明 看護研究方法の一つとしての質的研究の意義	看護研究方法としての質的研究の意義が理解できる。	ウヴェ・フリック 『質的研究入門』 ジャニズM．ローパー 『エスノグラフィー』 その他必要文献は都度提示する。
	2			
	3	1．看護学研究領域に使用された内容分析法を用いた研究の評価、 国内・国外における研究論文の検討	内容分析に関する論文クリティークができる。	
	4	2．内容分析法を用いた研究法の演習に適した資料の選択　2)データ化　3)カテゴリー化	内容分析の実際的方法がわかる。	
	5	3.ラベリングの演習	ラベリング演習を通して技法が理解できる。	
	6	4.事例研究	質的研究の一つとしての事例研究の位置づけが理解できる。	
	7	5.歴史研究	質的研究の一つとしての歴史研究の位置づけが理解できる。	
	8	7.現象学的・解釈学的研究	観察した事象の現象学的・解釈学的方法について理解できる。	
	9	研究演習(フィールドワーク) 質的研究方法の一つ参加観察法について理論的に学習する。 看護学部卒直後者、看護実務者、看護専門学校等専任教員の研究方法に関する基礎的理解力を考慮して、看護実践フィールド研究に適していると価値づけられている参加観察法の基本を自研究例等を用いて教授する。 1．参加観察法の意義(参加観察による利点と限界) 2．参加観察者の立場(完全なる観察者・参加的観察者・観察的参加者・完全なる参加者)と看護実践者の立場 3．フィールドノートの取り方と分析(Personal Note,Observation Note, Theoretical Note, Methodological Note) 4．自己のフィールドノートの分析;自己の日々の看護実践および教育実践から参加観察法での分析を行い、プレゼンテーションする。	参加観察法で得られたデータの分析を実際に行い、プレゼンテーションができる。	
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16	参加観察データ報告を文章化する。	文章化したものを指定された期日までに提出できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	グランデッドセオリー、エスニックセオリーなどを用いた質的研究の意義、方法について基礎的理解ができる。	フィールドワーク報告、小論文、学会発表体験等を総合的に判断、学則に準じ、単位認定する。	講義、演習、フィールドワーク(参加観察)、プレゼンテーション、学会発表体験

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0003	看護研究法Ⅱ	2	30	選択	後期	山内京子・岡本陽子

ねらい	看護研究の役割とあり方について理解する。 看護研究（主に量的研究）の基礎的知識とその過程を理解する。 看護研究における倫理と評価について理解する。 量的研究の種類や特徴、長所・短所、データ収集・分析、結果・考察表記、方法、クリティークの視点等を理解する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	看護研究のためのデザイン 準実験研究・相関的研究 調査研究・評価研究 （山内）	看護研究に必要な手法の一つとしての量的分析手法の基礎を学ぶ。 研究課題を分析・解析するための手法を選択することができ、活用・応用することができる。	各講義時に資料等配布する。 必要文献は都度提示する。
	2			
	3			
	4			
	5	方法論的研究 文献研究 （山内）	研究課題を解決するため必要な方法論を修得することができる。	各講義時に資料等配布する。 必要文献は都度提示する。
	6			
	7	データ収集（サンプリング） 観察法 面接法 質問紙法 （山内）	データ収集（サンプリング）の実際について必要な手法を修得できる。	各講義時に資料等配布する。 必要文献は都度提示する。
	8			
	9			
	10			
	11	データ分析（量的データ分析） 記述統計 推測統計 多変量解析 （岡本）	データ分析（量的データ分析）の実際について必要な手法を修得できる。	各講義時に資料等配布する。 必要文献は都度提示する。
	12			
	13			
	14			
	15			
	16	総括（レポート・発表等） （山内・岡本）	本教科の学習成果として、レポート・発表をすることができる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	看護を研究する上での量的研究の特殊性・理論性を理解し、量的研究のプロセスの概要について理解できる。 さらに、院生自身の関心領域の文献を系統的検索・検討していくことのできる基盤づくりとする。	講義・演習等への出席状況及び参加状況、講義受講準備状況、発表内容、態度・姿勢等を含めた総合評価	講義にのぞむにあたり参考文献・資料等を提示・配布するので、熟読し、各自レディネス状況を高めておくこと。講義が進むにつれ課題・問題意識が深まるので、さらに事前事後学習を重ね、研究手法を修得する努力を期待する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	看護研究法Ⅲ	2	30	選択必修	前期	中村瑞子

ねらい	主題となる内容に沿って、どのような研究方法で実施することが妥当なのかを理解し、研究の進め方について学ぶ。 看護研究を進める上で必要となる、実験的研究手法についての基本的理解と、実践に必要な方法論を理解する。 研究に重要な科学的かつ論理的な思考方法や研究者としての必要な倫理について理解を深める。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	研究法の比較	実験的研究のほか、観察研究、質問紙研究などとの違いを理解する。	適宜資料を配付 参考図書 「看護研究の進め方・論文の書き方」 早川和生　著 医学書院 「看護研究のためのやさしい統計学」 内海滉　著 医学書院
	2	研究計画の考え方	実験的研究を進める上でのポイントと実験的研究の特徴を理解する	
	3	研究計画の進め方① 仮説の設定・独立変数・従属変数についての理解	研究仮説の設定、独立変数と従属変数の関係について理解する。	
	4	研究計画の進め方② 剰余変数・実験群・対象群についての理解	剰余変数とその統制と実験群と対照群の割り当てについて理解する。	
	5	要因計画法の理解①　要因計画とは何か	分散分析の考え方と要因計画の構造について理解する。	
	6	要因計画法の理解②　要因計画に基づいた分析とは何か	被験者の配置や、具体的な計画の手順について理解する。	
	7	研究倫理	研究における被験者に対する倫理的配慮について理解する。	
	8	データの整理と統計法	研究結果の解釈に必要な統計分析の基本的な考え方について理解する。	
	9	測定の信頼性，妥当性	測定されたデータの信頼性や妥当性の見方について理解する。	
	10	結果の解釈と考察	データからどのようにして数字の意味するものを読み、考察するのかを理解する。	
	11	科学論文のまとめ方	論文の読み方書き方について、基本的なことを理解する。	
	12	実験研究の実際①　研究の遂行に必要な科学的かつ論理的な思考方法についての理解	実際に興味あるテーマの論文を検索し、内容について批判的検討を行う。	
	13	実験研究の実際②　先行研究から研究の進め方について学ぶ	先行研究から、自分の研究計画に必要なエッセンスをつかむ。	
	14	実験研究の実際③　実験計画、実験的研究方法についての基本的理解と基本的方法論の理解	先行研究を参考に、実験計画を立て、分析方法について検討する。	
	15	まとめ		
	16	レポート提出		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	看護を研究する上で実験的研究の実践に必要な方法論を理解し，自らの興味あるテーマについて、論文検索・収集や論文のクリティークを行い、実際に実験計画を立案することができる。	講義・演習等への出席状況及び参加姿勢、レポート課題、最終的な実験計画への取り組みとその内容等を含めた総合評価	講義中に配付する資料や参考図書を利用し、予習・復習を行う。 講義の課題以外でも、普段から論文検索を行い、数多くの論文に触れることで、自らの学習に必要な課題を見つけ、学習する態度を望む。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0007	看護理論特論	2	30	選択	後期	石川孝則・佐藤敦子

ねらい	看護理論は看護の本質を探求するものである。本論では，卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論と看護現象との関係についての理解を深め、看護が科学であるとの見解を、日常生活と健康、健康と看護・教育との関係の中で、批判的思考の過程を通して、看護実践に適用することができるよう教授する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	看護理論授業概要の説明と看護理論学習の意義及び諸外国で開発された各理論概要について（石川）	看護実践上の課題を諸理論との関係でその論点を見出すことができる。	『看護理論家とその業績』アン・マリナー・トメイ・マーサ・レイラ・アリグッド著 『看護覚え書』ナイチンゲール著
2	ナイチンゲール看護論（ナイチンゲール教育哲学）（石川）	人々の健康と日常生活上の問題をナイチンゲール看護論において理解することができ、看護実践と科学との関係を導き出すことができる。	
3	― 理論と実践の一致 ― そして観察から看護実践へ（石川）		
4	ヘンダーソン看護論 （ニード論）（石川）	ヘンダーソン看護論について理解を深め、看護の対象者のニーズを人の基本的欲求から導き出すことができる。	その他、手元資料は別途提示する。
5	基本的欲求とニード把握（石川）		
6	ロイ適応看護理論（適応システムとしての人間理解）（石川）	ロイ適応看護モデルの4つの適応様式について理解し、看護実践に適用できるための知識が得られる。	
7	適応看護モデルと看護過程 症状別事例（ホメオスタージスの失調としての現象）（石川）		
8	オレム看護のセルフケア不足理論（佐藤）	セルフケア不足理論について理解し、看護実践に適用できるための知識が得られる。	
9	普遍的・発達的・健康逸脱によるセルフケア要件とセルフケア不足（看護診断）（佐藤）		
10	ペプロー人間関係の看護論（佐藤）	ペプローの対人関係のプロセスの構造的概念と精神力動的人間関係論を看護実践に適用できる知識が得られる。	
11	看護師－患者関係の演習（ロール・プレイ）とプロセス・レコードによる対人関係評価（佐藤）		
12	オーランド看護過程理論（佐藤）	オーランドの看護過程理論について理解し、実践に適用できる知識が得られる。	
13	事例提示による演習；プロセス・レコードを用いた分析（佐藤）		
14	コルカバの安楽（comfort）理論（石川）	コルカバの安楽（comfort）理論について理解を深める。	
15	事例による安楽探求（石川）	実際にケアを実施した事例から患者にとっての安楽を探求し、解決策を講じる。	
16	課題レポート提出（石川・佐藤）	看護専門職者として実際に看護実践した事例を提示し、基盤となる諸理論を適用した課題報告と共に自身の看護観について論じた報告ができる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
看護が科学であるとの見解を、日常生活と健康、健康と看護・問題解決・教育との関係の中で、批判的思考の過程を通して、看護専門職者として看護実践の基盤となる諸理論を患者のニード（現象）把握につなげ、実践に適用できる知識が身につく。	学則に準じ、課題レポート内容を評価し、単位認定する。	相互情報交換、ディスカッション、講義、演習、PBL、ロールプレイ、プレゼンテーション等多彩な学習方法

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	看護倫理特論	2	30	選択	後期	内藤直子

ねらい	看護倫理の中心課題は、看護専門職としてのケアはいかにあるべきかを探ることであり、看護者の責務として医療現場における倫理的課題を解決していくための方法を探究することである。そのため患者の権利を理解し、臨床倫理的原則を踏まえることにより、看護現場における倫理的問題・葛藤を多方面から検討し、倫理的判断・意思決定が出来る能力を養う。また倫理的問題・葛藤に対峙する関係者間の倫理的調整・支援を行うために必要な知識を修得する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	医療・看護現場で起きている倫理的問題の検討 ・何が倫理的問題なのか？	臨床現場において起こりうる倫理的問題・課題を指摘できる。	参考書 ①サラT.フライ他著 片田範子,山本あい子訳:看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイドー,日本看護協会出版会,2005. ②トニー・ホープ著 児玉聡,赤林朗訳:医療倫理,岩波書店,2007. ③赤林朗編:入門・医療倫理1,勁草書房,2006. ④アン・j・デーヴィス他著,小西恵美子監訳:看護倫理を教える・学ぶ―倫理教育の視点と方法,日本看護協会出版会,2008. ※その他、文献等は適宜提示する
2	倫理学の基本的な考え方 ・「倫理」とは何か ・医療倫理の原則と重要概念	倫理の概念について説明でき、医療倫理の原則を挙げ、説明できる。	
3	倫理と法 ・憲法における基本的人権 ・医療における患者の権利	憲法で保障されている基本的人権と、医療における患者の権利について説明できる。	
4	医療従事者と倫理 ・生命倫理、医療倫理、看護倫理 ・医療従事者と倫理綱領	生命、医療、看護倫理について説明でき、各医療専門職の倫理綱領が理解できる。	
5	看護実践と倫理 ・倫理的視点と看護実践 ・看護師の責務(法的責任、倫理的責任)	看護倫理の主要概念が説明でき、普遍的な道徳・倫理的原則を挙げ、説明できる。	
6	医療従事者と患者関係;事例検討1	医療従事者と患者関係の対等性について論じることができる。	
7	インフォームドコンセント;事例検討2	患者主体の医療におけるインフォームドコンセントの重要性が理解できる。	
8	自己決定;事例検討3	患者主体の医療における自己決定の重要性が理解できる。	
9	守秘義務・個人情報保護;事例検討4	患者主体の医療における守秘義務・個人情報保護の重要性が理解できる。	
10	看護実践における倫理的問題・葛藤への対応の事例検討・・・①小児ケア	小児ケアにおける倫理的問題の提示と、課題を議論・探究することができる。	
11	看護実践における倫理的問題・葛藤への対応の事例検討・・・②高齢者ケア	高齢者ケアにおける倫理的問題の提示と、課題を議論・探究することができる。	
12	看護実践における倫理的問題・葛藤への対応の事例検討・・・③クリティカルケア	クリティカルケアにおける倫理的問題の提示と、課題を議論・探究することができる。	
13	看護実践における倫理的問題・葛藤への対応の事例検討・・・④脳死と臓器移植	脳死と臓器移植における倫理的問題の提示と、課題を議論・探究することができる。	
14	看護実践における倫理的問題・葛藤への対応の事例検討・・・⑤終末期医療	終末期医療における倫理的問題の提示と、課題を議論・探究することができる。	
15	総括と討議	これまでの学習について総合的に考察する。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
1 生命・人間の尊厳や人権について知識を持つことができる 2 看護現場で遭遇する諸問題に対して、患者の人権を擁護し、自律して倫理的判断や意思決定ができ、実践に活用できる	学習目標到達度について、学生アンケート(授業チェック)により評価するとともに、課題発表、課題探求状況、討論への参加度、レポートの作成、及び出席状況により総合的に評価する。	・講義・演習・ディスカッションにより学習課題を深める。 ・事例検討では、事実の把握、論理的分析、合理的・倫理的思考を修得する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x 0013	看護政策特論	2	30	選択	後期	馬庭恭子

ねらい	看護政策論を理解する前提としてわが国の統治機構、殊に立法、行政を再確認すると共に政策決定のプロセスが理解できるようにする。看護政策に深く関係する社会保障論、その中の医療制度、医療保険制度、介護保険制度、診療報酬制度、医療法等法律について理解し、看護実践の中で生かせる視点が持てるようにする。それを踏まえて看護制度史、保助看法について深く法律を読み込み理解を深めるようにする。現行の保助看法で、看護職が専門職として認知される内容となっているか等も含め、看護の質向上のために、看護政策について自己の思考プロセスを述べ、提言をまとめて働きかけを可能にする方法を理解し、行動化の方策を検討できるようにする。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	わが国の統治機構を概説し主として立法行政、法律案が成立するまでの過程、閣法、議員立法等	立法行政について再確認ができ、政策決定のプロセスが理解できる。さらに閣法、議員立法について理解できる。	・保健師助産師看護師法 60 年史 保健師助産師看護師法 60 年史編集委員会編集 ㈱日本看護協会出版会平成 21 年・看護職者のための政策過程入門 著者 見藤隆子他 ㈱日本看護協会出版会平成 19 年・現代社会保障論 著者 里見賢治 平成 19 年 ㈱高菅出版 ・介護保険制度と政策形成過程 著者 島津 淳 久美株式会社 平成 20 年 ・看護六法 ・厚生労働省並びに日本看護協会等の取り組みの政策資料 ・その他必要図書文献は適宜提示する
2	社会保障論について世界（主としてイギリスのベヴァリッジ報告、アメリカ社会保障法等）の社会保障制度の発展を概観し、わが国の社会保障政策の歴史と、その取り組み課題	「社会保障」とはという総論が理解でき、わが国の社会保障政策の歴史と現状課題が理解できる。	
3	介護保険法制定（H9 年）の合意形成プロセスから施行（H12 年）に至るまでの経緯	介護保険制度の現状と課題について理解できる。	
4	介護保険制度において看護職が保健・医療・福祉の連携、統合等で果たす役割について	保健・医療・福祉の連携、統合等で看護職が果たす役割について理解できる。	
5	医療制度並びに医療保険制度について	医療制度並びに医療保険制度について現状課題が理解できる。	
6	医療制度改革関連法案の成立の経緯	医療制度改革関連法案の成立経緯からについて政策課題が理解できる。	
7	後期高齢者医療制度成立について	医療制度改革関連法、続く高齢者の医療制度改革を理解し、現状と課題が理解できる。	
8	医療法についてこの法の目的、医療提供の理念、国・地方公共団体の責務等法律について概説し看護職員の現況を検討 診療報酬制度全般を論じ、その中での看護の果たす役割と評価	・医療法で問われる医療職の責務、特に機能分化の意義を理解しつつ看護職の責務が理解できる。 ・診療報酬制度と看護の評価、その意義と現況の問題点が理解できる。	
9	看護制度の歴史とそこに関わる政策との関連と看護を巡る重要な動き	看護制度の歴史とそこに関わる政策との関連について理解できる。	
10	看護に関わる保健医療行政との関連等	看護制度の歴史とそこに関わる政策との関係、一連の看護制度史65年の概要を理解できる。	
11	保健師助産師看護師法の成立の過程	保健師助産師看護師法成立の過程と意義について理解し、取り組みの課題について理解する。	
12	保健師助産師看護師法の成立後の改正法、今日的課題と取り組み課題及びその方法	保健師助産師看護師法成立後の取り組み課題とその方法について検討できる。	
13	看護職者と政策について、看護師等の人材の確保の促進に関する法律	看護師等の人材の確保の促進に関する法律など、看護政策の重要性、その実現プロセスが理解できる。	
14	看護現場に影響を及ぼす法令等。看護政策策定過程への参画について実際例の分析と提示	看護現場の課題を解決するためにどのように看護政策を作るかを実際例の分析理解からする。	
15	看護現場に影響を及ぼす法令等、看護政策策定過程への参画について	看護政策策定過程において自らが立つ位置、考え方、どのように関わるべきか理解できる。	
16	まとめ 看護政策論の学びの中からテーマを選定し小論文作成したものを発表・討論	学生間での意見交換、討論、教員の助言を通し、看護政策について課題への取り組み方が明らかになる。	

	最 終 到 達 目 標	評 価 法	学 修 法
教育 評価	1）看護政策論の学びを通し、看護の質向上のために制度改革や法改正に向け、政策的に問題提起ができる基礎的能力が持てる。 2）広い視野から問題解決能力をもって、それぞれの専門領域における看護政策の具体的課題に積極的、効果的に取り組む方策と方法を説明できる。	1）テーマごとにレポートを作成　40%、 2）その発表・質疑・討論・まとめ　40% 3）情報分析力、他の人々や組織力を活用し協力・連携する能力　20%	講義形式と課題ごとに具体例を提示し、レポート作成・発表・積極的に質疑討論に参加することを期待する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0010	看護教育特論	2	30	選択	後期	内藤　直子

ねらい	本論では看護実践上のさまざまな現象を科学的に探究する姿勢や態度を育成し、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への継続教育に関する知識と技術を教授すると共に、実践の科学としての看護教育のあり方を探求し、これからの看護教育を考えて,時代と共に変化する人々のヘルスニーズに対応できる看護専門職者育成を可能にする看護教育のあり方について総合的に教授・探究する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	教育(education)とは何か 看護教育上における現実的課題は何か	一般論としての教育とは何かについて理解し、看護教育への適用について総合的に考えることができる。	杉森みどり他『看護教育学』
	2	看護教育における訓練(traninng).訓練(discipline)	看護教育における訓練(traninng).訓練(discipline)について理解し、教育との相違について考えることができる。	他、必要文献は都度提示する、もしくは学生自身が検索する。
	3	看護専門職者としての教育 専門職とは何か	看護専門職者とは何かがわかり、その教育の目指すものについて理解できる。	
	4	ナイチンゲールが目指した看護教育	ナイチンゲールの看護哲学に触れ、看護教育に関する基本姿勢が理解できる。	
	5	看護教育制度における教育課程と教育の過程(教授法の本質論)	教育基本法・学校教育法・保健婦助産婦看護婦法を概観し、その教育課程と教育の過程について理解できる。	
	6	教育の対象(発達段階を考慮した)	教育の場・対象およびその方法について発達段階に即した教育について理解し、併せて看護場面での教育・指導・評価について考えることができる。	
	7	教育の場(社会・家庭)・学校・病院		
	8	看護場面における教育・指導		
	9	教育の評価(ブルーム)		
	10	可視化できる評価(ICE ルーブリク)	ICE ルーブリクについて理解し、可視化できる教育評価について考えることができる。	
	11	1.事例検証　看護実践上の現実的課題とその問題解決	受講生の体験を基に看護実践上の現実的課題とその問題解決について検証することができる。	
	12	2.事例検証　看護実践上の現実的課題とその問題解決		
	13	生涯教育の意義とその方法	看護実践能力向上のための生涯教育の方法論について論じることができる。	
	14	生涯教育の一環としての大学院教育	生涯教育の一環である大学院教育について理解し、その目的について理解できる。	
	15	看護教育における究理実践	科学的発見の過程の方法について理解し、その知識を活かし看護教育における問題について検証できる。	
	16	まとめ	授業での学びを総合的に説明でき、これからの看護教育の在り方について論じることができる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	実践の科学としての看護教育を看護実践上におけるさまざまな現象から総合的に考えることができ、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への継続教育と看護教育のあり方について探求し、これからの看護教育について考え、論じることができる。	学則に準じ、課題レポート内容を総合的に評価し、単位認定する。	相互意見交換、ディスカッション、講義、プレゼンテーション、探求、課題報告等多彩な学習方法を実践

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0011	看護管理特論	2	30	選択	後期	山内京子

ねらい	看護管理に必要な基本的知識と理論を学び、医療・看護の質の維持・向上のため、現場における看護管理のあり方を考え、組織的な看護サービスの実際について具体的に考察する。特に、組織的活動やヘルスケアのマネジメントに焦点をあて、リーダーシップ行動やチームマネジメント、連携・調整・協働などの機能についても探究する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	看護管理学の概観 本講義オリエンテーション	看護管理学について概観することができる。	必要文献は都度提示する。 各講義時に資料等配布する。
	2	医療・看護の質 保健医療福祉の連携	医療・看護の質、保健医療福祉の連携のあり方について理解する。	
	3	看護管理の組織化 組織論・組織行動論	看護管理の基本となる理論を理解する。	
	4	看護管理の組織論 組織マネジメントの実際	組織マネジメントの実際を理解する。	
	5	看護管理の組織行動論 リーダーシップ・メンバーシップ	リーダーシップ・メンバーシップの具体的なあり方を理解する。	
	6	看護管理の組織行動論 意思決定・モティベーション	意志決定・モティベーションの具体的なあり方を理解する。	
	7	看護管理の組織行動論 コーチング、キャリア形成	コーチング、キャリア形成の具体的なあり方を理解する。	
	8	課題学習成果発表（中間発表）	前半の学びの中から課題を明らかにし、発表ができる。	
	9	看護ケアのマネジメント リスクマネジメント・コンフリクトマネジメント・タイムマネジメント	リスクマネジメント・コンフリクトマネジメント・タイムマネジメントのあり方を理解する。	
	10	看護ケアのマネジメント 人的資源管理・コスト管理・情報管理	人的資源管理・コスト管理・情報管理について理解する。	
	11	看護ケアのマネジメント チームマネジメント	チームマネジメントのあり方について理解する。	
	12	看護ケアのマネジメント 組織文化と組織風土	組織文化と組織風土について理解し、組織管理のあり方を知る。	
	13	看護ケアのマネジメント 医療と看護の質と評価	医療と看護の質保証と評価のあり方を理解する。	
	14	課題学習・発表準備	本講義の全体の学びから課題を選び、発表会のための準備をする。	
	15	課題学習成果発表（まとめ）	後半の学びの中から課題を明らかにし、まとめの発表ができる。	
	16	最終発表会と振り返り	看護管理に求められる組織行動論の実際について学修の成果を共有する。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学習法
	看護管理に必要な基本的知識と理論を学ぶことで、組織の中における看護職のあり方を考察し、実践力を修得するための基盤づくりとする。看護専門職・看護管理者としての役割・機能について考察し、具体的な提案をすることができる。	講義・演習への出席状況及び、中間発表・最終発表会への準備状況、発表内容等の総合評価	各講義のテーマ・内容について事前に関連文献等に目を通し、予備知識を得てから、講義にのぞむことで、より問題意識・課題探究への思考が強まる。普段からアンテナをはり、常に、関連領域の情報を収集する習慣を身につけておきたい。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0014	フィジカルアセスメント特論	2	30	CNS必修	前期	岩本由美・棚﨑由紀子

ねらい	複合的な健康問題にある対象の身体状況について系統的に全身を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を習得する。さらに、様々な対象に応じたアセスメントの実践に向けた教育的、看護管理とケアに結び付けて考えることができる。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	ガイダンス フィジカルアセスメント総論(岩本・棚﨑)	フィジカルアセスメントの基礎知識と概要が理解できる。自己の学習ニーズがわかる。	シラバス, 参考図書の紹介
	2	基本的な健康歴聴取、身体診察 (岩本)	基本的な健康歴聴取、身体診察の流れ、臨床推論を理解できる。	※有岡宏子, 他(監)(2022).ベイツ診察法第3版.メディカル・サイエンス・インターナショナル. ※医療情報科学研究所(2019).看護が見えるvol.3 フィジカルアセスメント.(株)メディックメディア. ※深井喜代子,他(2008).新・看護生理学テキスト 看護技術の根拠と臨床への応用.南江堂. 可能な場合、各種シミュレーターおよび模擬患者を活用し、デモンストレーションを行いながら演習を行う。
	3	頭頸部のアセスメント (岩本)	頭頸部のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	4	呼吸器系のアセスメント:胸郭と肺(岩本)	呼吸器系のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	5	呼吸器系のアセスメント:呼吸音(岩本)	呼吸音の聴診とアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	6	循環器系のアセスメント:頸部、胸部(岩本)	循環器系のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	7	循環器系のアセスメント:末梢循環(岩本)	末梢循環のアセスメントを理解し、各部位が観察し、その内容を記述できる。	
	8	腹部、腎・泌尿器系・内分泌系のアセスメント(岩本)	腹部 (腹水、肝・脾臓)、腎・泌尿器系・内分泌系のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	9	乳房と腋窩、生殖器のアセスメント(岩本)	乳房、腋窩、生殖器のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	10	脳・神経系(意識、脳神経)のアセスメント(岩本)	脳・神経系のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	11	脳・神経系(反射、自律神経)のアセスメント(岩本)	脳・神経系の反射、自律神経のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる	
	12	感覚器系のアセスメント:表在感覚、深部感覚(棚﨑)	感覚器系のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	13	筋・骨格系(運動機能)のアセスメント(岩本)	運動機能のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	14	消化器系(舌、口腔、大腸、直腸、肛門)のアセスメント(棚﨑)	消化器系のアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	15	系統的フィジカルアセスメント(岩本)	系統的フィジカルアセスメントを理解し、各部位を観察し、その内容を記述できる。	
	16	事例を用いた総合討論 (岩本・棚﨑)	フィジカルアセスメント全体について、臨床現場の事例に基づく討論できる。	岩本・棚﨑と履修者全員での討論

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	人体構造機能学の高度な知識とともに複雑な健康問題に基づいたフィジカルアセスメントを理解し、臨床判断能力を養う	主体的自己調整学習態度(10%)、自己の課題発表(20%)と討議参画状況(70%)により評価する。	C-learning(予習・復習を行う本学の学習管理システム)、講義・演習, プレゼンテーション

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
共B	臨床薬理学特論	2	30	CNS必修	前期	前信由美・奥田泰子・森田克也

ねらい

① 薬物の作用機序と体内動態について理解する。また有害な効果と有益な効果について薬害の影響を査定し臨床においての使用と調整を考える事ができる。

② 緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理にを中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための専門看護師として知識を深め、援助技術を検討できる。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	導入オリエンテーション（前信由美） 薬物の体内動態（森田克也）	薬物の体内動態（吸収、代謝、排泄、薬物の投与経路と血中濃度の推移）につて説明できる	資料配布
2	薬物の相互作用（森田克也）	薬物代謝反応の基本様式と薬物の相互作用が説明できる	資料配布
3	薬と食べ物の食べ合わせ（森田克也）	薬物と食品の食べ合わせについて説明できる	資料配布
4	疼痛治療と緩和ケア（森田克也）	がん性疼痛や神経障害性疼痛等の難治性疼痛の薬物コントロールと緩和ケアについて説明できる	資料配布
5	救命救急時に使用する薬物（森田克也）	ショック，過量投与，救命救急時における薬物療法が理解できる．	資料配布
6	慢性疾患（生活習慣病）に使用する薬物Ⅰ（森田克也）	高血圧，狭心症，心筋梗塞，不整脈，心不全，薬物療法が理解できる．	資料配布
7	慢性疾患（生活習慣病）に使用する薬物Ⅱ（森田克也）	脂質異常症，糖尿病おける薬物療法が理解できる．	資料配布
8	クリティカル期に使用する循環器系・呼吸器系に影響する薬剤の査定（前信由美）	クリティカル期に使用する頻度の高い薬剤の影響と全身管理について理解できる	資料配布
9	クリティカル期に使用する消化器系・精神系に影響する薬剤の査定（前信由美）	クリティカル期に使用する頻度の高い薬剤の影響と全身管理について理解できる	資料配布
10	移植等特殊な状況下で使用される薬剤の査定と教育（前信由美）	クリティカル期に使用される薬剤投与後のモニタリングと生活調整方法を理解して援助方法を検討することができる	資料配布
11	薬物療法に関わる生活調整（前信由美）	薬物療法中の生活調整方法を理解して援助方法を検討することができる	資料配布
12	加齢による薬物動態と薬力学の変化 ・ポリファーマシー ・患者の服薬管理能力（アドヒヤランス） （奥田泰子）	高齢者の服薬管理上の特徴を理解し、援助方法を検討することができる	資料配布
13	高齢者特有の認知症・脳神経疾患・精神障害の薬剤の査定と教育 認知症の薬物療法・非薬物療法（奥田泰子）	高齢者特有の認知症・脳神経疾患・精神障害の薬剤の影響と服薬管理能力の向上を図るための特徴と工夫が理解できる	資料配布
14	高齢者特有の循環器系・呼吸器系、消化器系の薬剤の査定と教育（奥田泰子）	高齢者特有の循環器系・呼吸器系、消化器系の薬剤の査定と教育、さらに緊急応急処置、症状調整が理解できる	資料配布
15	高齢者特有の代謝性疾患（糖尿病・痛風）、腎・泌尿器系の疾患、運動器の疾患（骨粗鬆症）、皮膚疾患（白癬・疥癬）の薬剤の査定と教育（奥田泰子）	高齢者特有の代謝性疾患（糖尿病・痛風）、腎・泌尿器系の疾患、運動器の疾患（骨粗鬆症）、皮膚疾患（白癬・疥癬）の薬剤投与後の患者モニタリング、生活調整方法が理解できる	資料配布
16	レポート提出		

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
① 緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と看護技術を理解することができる。 ② クリティカルケア看護、高齢者看護の対象に応じた疾患と薬剤の影響を査定し、政策、教育から理解することができる。	・提出レポート 40% ・その他 60% （臨地実習の準備と実施状況等） 総合的に評価する。	講義、課題学習、プレゼンテーション等

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x0016	病態生理学特論	2	30	CNS必修	前期	岩本由美・奥田泰子・土肥敏博

ねらい	エビデンスに基づき、対象の全身にわたる病態生理学的変化を解釈、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得し、臨床事例について説明できる。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	導入：全体の授業概要について講義、学習者のニーズ調査、学習の進め方や評価方法（土肥・奥田・岩本）	シラバスの概要を理解することができる。	＊ハマー＆マクフィー疾患の病態生理―臨床医学入門（原著 7版）丸善書店 ＊ガイトン生理学テキスト改訂版原著第 13版、エルゼビア・ジャパン. 2018. ＊イヤーノート 2024 出版社: メディックメディア ＊ベイツ診察法第3版 有岡宏子; 井部 俊子 出版社: メディカルサイエンスインターナショナル ＊参考文献は授業中に、適宜紹介する。
	2	基本的病態生理学の理解：人体の構造や機能の知識の振り返り（発表）（土肥、岩本）	自己の知識の強み、弱みを知り、学習課題を明確にできる。	
	3	感染症の病態生理（感染源と感染経路及び予防）（土肥）	感染症の病態生理について理解でき、感染源と感染経路から予防対策について説明できる。	
	4	消化器系の病態生理（胃潰瘍・肝硬変など）（土肥）	消化器系の病態生理について理解できる。	
	5	代謝性疾患の病態生理（脂質異常症、糖尿病の病態生理）（土肥）	代謝性疾患のメカニズム並びに循環器疾患との関連を説明できる。	
	6	循環器系疾患の病態生理（高血圧、狭心症・急性冠症候群、心不全・不整脈）（土肥）	循環器系疾患の病態生理について説明できる。	
	7	呼吸器疾患（喘息・COPD の病態生理（土肥）	呼吸器疾患（喘息・COPD の病態生理について理解できる。	
	8	血液疾患の病態生理 血栓塞栓症（脳梗塞、心筋梗塞、肺梗塞）の病態（土肥）	血栓塞栓症の成因を病態生理の知識をもとに説明できる。	
	9	血液疾患の病態生理（敗血症、播種性血管内凝固症候群、急性呼吸窮迫症候群、出血性疾患、電解質異常の病態）（土肥）	血液凝固系を基盤にした疾患および腎疾患と電解質異常について説明できる。	
	10	悪性腫瘍の病態生理（土肥）	悪性腫瘍の細胞の病態生理について理解できる。	
	11	痛みの病態生理（急性疼痛および慢性疼痛、神経障害性疼痛、痛覚調整疼痛、癌性疼痛）及び痛みのメカニズム（土肥）	急性痛のメカニズム、慢性炎症性疼痛、神経障害性疼痛、痛覚調性疼痛について説明できる。	
	12	神経疾患の病態生理（頭痛、てんかん、神経変性疾患（認知症、パーキンソン病）（土肥）	神経疾患の病態について説明できる。	
	13	救急疾患（ショック。、意識消失、呼吸困難）などの病態生理（土肥）	救急疾患（ショック、意識消失、呼吸困難）などの病態生理について説明できる。	
	14	病態生理から考える看護師の臨床判断 ① 臨床事例提示（発表）（岩本）	病態生理の基本的知識および臨床推論プロセスを応用し急性期臨床事例を説明できる。	＊参考文献は授業中に、適宜紹介する。
	15	病態生理から考える看護師の臨床判断 ②臨床事例提示（奥田）	病態生理の基本的知識および臨床推論プロセスを応用し臨床事例を説明できる。	
	16	課題レポート作成・提出	発表した自己事例の内容を深め、報告できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	・先駆的医療に対応可能な看護実践能力育成にむけた医学的知識を習得する。 ・臨床看護判断を行うために必要な知識として、対象の症状や疾病に応じた臨床症状・兆候、検査値異常および病理学的所見について説明することができる。	・授業への参加度 40%：すなわちどれだけ活発に質問したか、積極的に自分の意見を述べたかを評価する。 ・プレゼンテーション 40%：対象者への説明をどう組み立て、説得力をつけて提示できるかを評価する。 ・最終レポート 20%：文章による表現能力を評価する。	・予習よりも復習に重点を置き、講義の内容をできるだけその日に修得すること。 ・授業テーマに沿って、自己の臨床経験や課題を持ち寄り、事前に調べ学習を行い、授業中に疑問に思うことは自分の言葉で意見を述べること。その上で持ち帰る学習課題を明らかにすること。 ＊メールによる質疑応答も可能。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2042	健康科学特論	2	30	選択	前期	中村瑞子

ねらい	生命現象は生体内のさまざまな物質の化学反応で引き起こされる.「正常(健康)」とは，目に見えない数多の物質と化学反応によって，ホメオスタシス(生体恒常性)が維持されていることである.「正常(健康)」から「異常(病気)」へ変化するとき，どの物質がどの代謝経路の化学反応にどのような影響を与えるのか，生化学的な視点から論じていく.

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	内部環境における代謝経路と物質 1	恒常性を維持するために重要な役割をはたす物質について理解する	生化学，医療分野のトピックスをプリントして配布
	2	内部環境における代謝経路と物質 2	恒常性を維持するために重要な役割をはたす代謝系について理解する	
	3	代謝・栄養疾患 1(糖尿病)	糖代謝異常と治療について代謝レベルで理解する	
	4	代謝・栄養疾患 2(脂質異常症)	脂質代謝異常と動脈硬化との関連を生化学的に理解する	
	5	代謝・栄養疾患 3(肥満症・メタボリックシンドローム)	エネルギー摂取過多による脂肪蓄積増加のしくみを理解する	
	6	代謝・栄養疾患 4(高尿酸血症・痛風)	核酸代謝異常が高尿酸血症・痛風を引き起こすしくみを理解する	
	7	代謝・栄養疾患 5(高カルシウム血症・骨粗鬆症他)	一部の代謝異常によっておこる無機物代謝障害について理解する	
	8	代謝・栄養疾患 6(ビリルビン代謝障害)	ヘモグロビンの異常がもたらす肝臓でのビリルビン代謝障害について理解する	
	9	代謝・栄養疾患 7(ビタミン欠乏症・過剰症)	ビタミンの補酵素としての働きから欠乏症・過剰症を理解する	
	10	細胞のシグナル伝達 1(伝達物質と受容体)	代謝・内分泌が外部刺激や他の細胞からのシグナル伝達によっておこるしくみを理解する	
	11	細胞のシグナル伝達 2(ホルモン)	内分泌の生化学的基盤を理解し，ホルモンの異常による疾患のしくみを理解する	
	12	がん 1(がん細胞の特徴)	がん化した細胞が生体機能の維持に必要な組織を機能不全にするしくみを理解する	
	13	がん 2(細胞周期とがん)	細胞周期とがん化の関係，がん遺伝子，がん抑制遺伝子の発現のしくみを理解する	
	14	がん 3(薬物療法)	抗悪性腫瘍薬(抗がん剤)が細胞増殖のシグナル伝達に作用するしくみを理解する	
	15	まとめ:自分が考える生命健康科学	日本語で論理立てて記述する	
	16	レポート提出		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	生体が「正常(健康)」な状態から「異常(病気)」な状態へ変化する際，生体内ではどのような反応が生じているのか，それぞれの症状について生化学的な視点で論じることができる.	レポート	折々のトピックスを加えながら双方向で授業を展開する.

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2001	看護基礎教育特論	2	30	選択	前期	石川孝則

ねらい	看護教育制度及び看護教育課程は実践する看護師の質に影響を与える問題である。現行看護教育制度における看護教育について広範に教授し、多様化する価値観、多様化する教育方法、多様化する教授法など看護界では様々な問題がある。看護専門学校、看護系短期大学、看護系大学における看護基礎教育を概観し、今後の看護基礎教育の具体的方向性と課題が明確化できるよう教授する。

		授 業 概 要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	1	授業概要の説明 学生個々に内在する教育上の課題発見	看護基礎教育上の課題と自身が有する課題との論点を抽出できる。	佐々木秀美著『歴史に見る我が国の看護教育』 看護教育に関する自研究、その他必要文献は都度提示する。
	2 3	1. 看護基礎教育制度の歴史的変遷と、教育制度に影響を与えた医療・看護等の社会的背景	教育基本法・学校教育法・保健婦助産婦看護婦法を概観し、現行看護教育制度について理解できる。	
	4 5	2. 看護基礎教育における教育カリキュラムの改正とそれに影響を与えた要因（科学としての看護学のパラダイムと看護学教育の教員資質及びマンパワー）	看護基礎教育制度化におけるカリキュラムの内容から看護学について論じることができる。	
	6	3.看護教育の歴史検証 （看護教育創設期のナイチンゲールの教育構想と教育方法）	看護教育草創期のナイチンゲールの看護教育思想に触れ、自身の看護観ついて考えることができる。	
	7 8	4. 看護学の構築と看護実践教育の問題	看護学における看護実践の問題と看護が科学であるとの問いに対して応えうるエビデンスについて考えることができる。	
	9 10	5. 看護学基礎教育における実習の位置づけとその展開論の課題	看護学基礎教育における実習の位置づけとその展開論について論じることができる。	
	11 12	6. 看護基礎教育と継続教育の関連 大学院教育（CNS）含む）	看護教育における継続教育としての大学院教育と実践的課題について論じることができる。	
	13 14	7. 看護における教育とその評価	教育評価と看護教育目標との関連について考えることができる。	
	15	まとめ　看護基礎教育全般 （専門学校・大学教育）	授業全般を通してこれからの看護教育について論じることができる。	
	16	評価　課題レポートによる	与えられた課題についての報告書の作成と提出	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	現行教育制度下における看護専門学校、看護系短期大学、看護系大学における看護基礎教育を概観し、今後の看護基礎教育の具体的方向性と課題を考察することができる。	学則に準じ、課題レポート内容を評価し、単位認定する。 提出された課題レポートについては都度、feedback する。	相互意見交換、ディスカッション、講義、プレゼンテーション、探求、課題報告等多彩な教育方法を取る。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2002	看護基礎教育方法論特論	2	30	選択	後期	石川孝則・前信由美

ねらい	看護基礎教育方法について、高等教育、技術教育、看護実践という視座から、看護基礎教育方法の現状・問題点を洗い、これからの日本で求められる看護基礎教育の在り方や方法についてディスカッションを交えて、自分なりの考え・意見が持てるよう教授する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	看護基礎教育における高等教育化（石川）	看護基礎教育が大学化を図る中で、高等教育としての看護基礎教育の在り方や教育方法について理解を深める。 高等教育としての看護基礎教育方法について、自分自身の意見を持つことができる。	＊教科書の指定はないが、必要時、看護基礎教育方法に関する文献や、文部科学省・厚生労働省の検討会報告書や様々な参考資料を活用する。
	2	高等教育としての看護基礎教育方法１（演繹的教育法）．（石川）		
	3	高等教育としての看護基礎教育方法２（看護実習）．（石川）		
	4	高等教育としての看護基礎教育方法３（帰納的教育法）．（石川）		
	5	まとめ		
	6	看護基礎教育における技術教育（前信）	看護基礎教育の在り方や教育方法について特に演習や実習について参加型学習を行い、自身の教育・研究におい適用可能かどうか検討することができる。	
	7	演習①看護基礎教育方法１．（前信）		
	8	演習②看護基礎教育方法２．（前信）		
	9	演習③看護基礎教育方法３．（前信）		
	10	まとめ（前信）		
	11	看護基礎教育と看護実践（石川）	看護技術における演習や実習指導体験を経て、Professionを目指した看護基礎教育方法について、自分の考えを持つことができる。	
	12	実習①看護基礎教育方法と看護専門職性１．（石川）		
	13	実習②看護基礎教育方法と看護専門職性２．（石川）		
	14	実習③看護基礎教育方法と看護専門職性３．（石川）		
	15	まとめ（石川）		
	16	課題レポート提出	授業で関心を強めた点に関して、自己の考えをまとめて提出する。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	日本で求められる看護基礎教育方法について、高等教育、技術教育、看護実践の視座から、看護専門職性について自分自身の考えを深め意見を持つことができる。	授業参加態度及びレポート 提出された課題レポートについては都度、feedback する。	講義形式ではない。 演習・実習において提示した資料・文献や自分で探した文献を事前に読んできてもらったうえで、ディスカッション（討論）し、自分の考えを広め深める。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2003	適応看護理論特論	2	30	選択	後期	前信由美・岩本由美

ねらい	ロイ適応看護理論における身体内外からの刺激と対処行動から、対象に生じた現象を適応・代償・障害の側面からアセスメントできるよう教授し、看護実践において患者のニードに即して適応看護モデル理論を応用できる基礎的能力が得られるようにする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	ロイ適応モデルの概要　（岩本）	ロイ適応看護モデルの概要について理解できる。	① ロイ著「ザ・ロイ適応看護モデル」医学書院 ② 人体構造機能学 ③ フィジカルアセスメントガイドブック（本学作成） その他必要な文献を適宜提示する。
	2	適応システムとしての人間	適応システムとしての人間を自己の行動から考えることができる。	
	3	刺激・反応・適応レベル	刺激に対する人間の反応について理解できる。	
	4	対処規制と適応様式	対処規制と適応について説明できる。	
	5	健康と看護の目標	自身の目標が設定でき、ロイ適応看護モデルにおける看護の目標と併せて考えることができる。	
	6	適応様式の理解 生理的様式	生理的様式・自己概念・相互依存様式・役割機能様式について理解できる。	
	7	自己概念様式	自己概念の様式とその構成要素について理解できる。	
	8	役割様式	役割様式について説明できる。	
	9	相互依存様式	相互依存様式について説明できる。	
	10	ロイ適応看護モデルと看護過程　（前信）	適応看護モデルにおける6つの看護過程について説明できる。	
	11	事例に即して 行動・刺激のアセスメント（前信）	3つの刺激の定義と違いが説明でき、行動から原因と結果の関係が説明できる。	
	12	看護診断と健康問題関連図（前信）	適応行動か・非効果的応答かが判断でき、看護診断プロセスが理解できる。	
	13	看護目標の設定　（前信）	看護目標設定に関する基本的な理解ができる。	
	14	看護介入・評価　（前信）	看護介入と評価についての基本的理解ができる。	
	15	まとめ　（佐々木・前信）	看護実践におけるロイ適応看護モデル活用について討論できる。	
	16	課題レポート	ロイ適応看護モデルと看護過程について与えられた課題に即した報告書を期限内に提出できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	ロイ適応看護モデルの理論枠組みが理解でき、看護展開に応用できるための基礎的知識が身につく。	学則に準じ、課題レポート内容を評価し、単位認定する。 提出された課題レポートについては都度、feedback する。	講義、課題学習、演習、プレゼンテーション、探求等多彩

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2008	看護援助技術論	2	30	選択	前期	石川孝則・田村和恵 前信由美

ねらい	看護の対象者に適した看護援助技術の提供を実践するために必要な技術を探求する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	オリエンテーション(シラバス・書籍の紹介) 教育方法論について探求していく看護援助技術項目と視点についての検討。(石川・田村・前信)	授業概要とねらい、および進め方について知る。	・資料についてはその都度配布する.
	2	広範な看護援助技術論を、技術施行対象者に合わせてどう提供するか、リフレクティブシンキング・シミュレーション教育方法を用いた援助技術方法構築について、探求する看護技術項目と視点を決定する。(石川・田村・前信)	臨地における実践と教育機関における教育の一致性を目指し、対象者に合わせた看護援助技術指導案の技術項目と視点が確定する。	
	3	看護基礎教育における基礎看護援助技術① (日常生活援助技術教授における教材観) (石川)	日常生活援助技術教授における教材観が考察できる。	
	4	看護基礎教育における基礎看護援助技術② (日常生活援助技術教授における学習者観) (石川)	日常生活援助技術教授における学習者観が考察できる。	
	5	看護基礎教育における基礎看護援助技術③ (日常生活援助技術教授における指導観) (石川)	日常生活援助技術教授における指導観が考察できる。	
	6	看護基礎教育における基礎看護援助技術④ (日常生活援助技術教授における単元考察) (石川)	単元考察を踏まえて、日常生活援助技術を教授していく方向性が明確化できる。	
	7	疾患を持つ患者への臨床看護援助技術① (治療援助技術教授における教材観) (田村・前信)	治療的援助技術教授における教材観が考察できる。	
	8	疾患を持つ患者への臨床看護援助技術② (治療援助技術教授における学習者観)(田村・前信)	治療援助技術教授における学習者観が考察できる。	
	9	疾患を持つ患者への臨床看護援助技術③ (治療援助技術教授における指導観) (田村・前信)	治療援助技術教授における指導観が考察できる。	
	10	疾患を持つ患者への臨床看護援助技術④ (治療援助技術教授における単元考察)(田村・前信)	単元考察を踏まえて、治療的援助技術を教授していく方向性が明確化できる。	
	11	実践と教育機関における教育の一致性 (石川・田村・前信)	実践と教育機関における教育の一致性を目指した援助技術の指導の考察ができる。	
	12	プレゼンテーション・全体討議 (単元考察) (石川・田村・前信)	具体的な援助技術をプレゼンテーションし検討することができる.	
	13	プレゼンテーション・全体討議 (石川・田村・前信) (日常生活援助技術の指導計画)	日常生活援助技術とその教授方法について探求できる。	
	14	プレゼンテーション・全体討議 (田村・前信・石川) (治療援助技術の指導計画)	治療生活援助技術とその教授方法について探求できる。	
	15	プレゼンテーション・全体討議 (前信・石川・田村) (看護援助技術とその教授における探求)	看護援助技術とその教授法について探求できる。	
	16	まとめ (石川・田村・前信)	看護の対象者に適した看護援助技術の提供を実践するために必要な技術が探求できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	看護の対象者に適した看護技術の提供を実践するために必要な、技術を探求し、考察することができる.	・授業態度 ・プレゼンテーションの内容 ・課題内容	・看護実践に必要な理論と看護技術の復習をしておく.

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2043	看護実習教育特論	2	30	選択	後期	石川孝則・田村和恵

ねらい	臨地実習指導の考え方、指導計画、指導方法について論議する。具体的には、学生の行動の傾向、自己表現の特徴、目標の明確化や動機付けについて現代学生の特徴を踏まえて論議していくとともに、実習指導計画（基礎看護学実習・成人看護学実習）の作成・提示を行い、実習指導のあり方を検討する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	実習指導に必要な教員の資質（田村）	実習指導に必要な教員の資質について理解できる。	・資料についてはその都度配布する.
	2	実習指導におけるコーチング（石川） ① 実習指導のパラダイム展開とコーチング	学生の実習指導に必要と考えるコーチング法を取り入れ、実習指導のパラダイムを展開し、さまざまな問題を抱える学生についてのコーチング法のあり方を研究科生の経験等もふまえて受講生全員で討論する。	
	3	実習指導におけるコーチング（石川） ② 学習者のレディネスに応じたコーチング		
	4	実習指導計画の構成（石川） （単元考察と実習指導案）		
	5	基礎看護学実習での臨地実習と学生指導 （単元考察-学習者観・教材観）（石川）	基礎看護学実習展開に向けて自らの実習指導案を作成・提示し、実習指導計画に沿った内容についてリフレクティブシンキングできる。 臨地実習における目標達成及び学生の技術的援助の実際の応用と臨地における教員の役割が説明できる。	
	6	基礎看護学実習での臨地実習と学生指導 （単元考察-指導観）（石川）		
	7	基礎看護学実習での臨地実習と学生指導 （実習指導計画の作成・提示・検討）（石川）		
	8	基礎看護学実習での臨地実習と学生指導 （指導における教員役割の明確化）（石川）		
	9	リフレクティブシンキングでの学びの共有化 その1（基礎看護学実習）（石川）		
	10	成人看護学実習での臨地実習と学生との双方向学習（単元考察-学習者観・教材観）（田村）	成人看護学実習に向けて自ら実習指導案を作成・提示し、実習指導計画に沿った内容についてリフレクティブシンキングできる。 臨地実習における目標達成及び学生の技術的援助の実際の応用と臨地における教員の役割が説明できる。	
	11	成人看護学実習での臨地実習と学生との双方向学習（単元考察-指導観）（田村）		
	12	成人看護学実習での臨地実習と学生との双方向学習（実習指導計画の作成・提示・検討）（田村）		
	13	成人看護学実習での臨地実習と学生との双方向学習（指導における教員の役割）（田村）		
	14	リフレクティブシンキングでの学びの共有化 その2（成人看護学実習）（田村）		
	15	まとめ（石川・田村）	実習指導の経験を基に研究科生で討論し問題点と課題を洗い出し論及する。	
	16	レポート提出		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	実習指導において、学生の行動の傾向、自己表現の特徴、目標の明確化や動機付けについて過去と現在を比較し論議できる。	・授業態度 ・プレゼンテーションの内容 ・課題内容	・臨地実習指導に必要な理論と看護技術の復習をしておく.

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2071	精神看護基礎教育特論	2	30	選択	前期	佐藤敦子・浅香真由巳 大塚文

ねらい	精神障害者と身体的疾患を併発した患者等に関して、症状改善のための医学的治療法、患者の QOL を目指した全人的関わり、さらにリハビリテーション・社会的適応促進のための保健医療福祉チームの組織活動について論及し、その支援施策について教授・研究する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	精神を病むということと精神医療の特性と看護（佐藤）	精神医療についての基本的理解ができ、看護のあり方が理解できる。	精神看護スペシャリストに必要な理論と技法 日本専門看護師協議会 監修　宇佐美しおり・野末聖香 編集 日本看護協会出版会
	2	看護師ー患者関係の基本的理解（佐藤）	看護場面における看護師ー患者関係について基本的理解ができる。	
	3	精神看護における全人的ケア（佐藤）	精神看護におけるケアの本質が理解できる。	
	4	精神科医療における治療法 精神分析と精神療法	精神科医療における主となる治療法が理解できる。	
	5	薬物療法　（佐藤）		
	6	精神科領域における主な疾病と症状 1.　統合失調症とその経過	精神障害と身体的疾患を併発する患者の治療法の概要について理解できる。	精神疾病治療論配布プリント
	7	2.　躁鬱病 3.　神経症		
	8	4.　人格障害 5.　薬物・アルコール依存症　（佐藤　浅香）		
	9	精神障害者が示す症状（行動・現象）の観察と方法　（浅香）	精神障がい者が示す行動(現象)の観察と方法が理解できる。	
	10	わが国の精神医療の萌芽と歴史的展開（浅香）	わが国の精神医療の歴史的展開について理解し、看護のあり方について論述できる。	中井他『看護のための精神医学』医学書院
	11			
	12	精神科領域における法と人権（浅香）	精神科領域における法と人権についての課題が検討できる。	
	13	精神保健福祉政策の基本的理解（大塚）	精神保健福祉政策の基本的理解ができる。	精神保健医療白書
	14	精神障害者の社会的適応促進のための支援（大塚）	精神障害患者の社会的適応促進のための支援について考えることができる。	
	15	精神障害者地域ネットワーク支援と看護援助（佐藤）		
	16	レポート課題提示		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	精神障害者と身体的疾患を併発した患者等に関して、症状改善のための医学的治療法、患者のQOLを目指した全人的関わり、さらにリハビリテーション・社会的適応促進のための保健医療福祉チームの組織活動について論及し、その支援施策について理解できる。	学則に準じた評価 評価；提出されたレポート及び課題探究・発表内容などから総合的に評価する。	講義・参加観察・課題探求 ディスカッション等 発表会

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2072	精神看護基礎教育特別演習	2	30	選択	前期	佐藤敦子・浅香真由巳

ねらい	精神障害者と身体的疾患を併発した患者等に関して、症状改善のための施設と、施設における医学的治療及び看護の実際に触れ、患者のQOLを目指した全人的関わり、さらにリハビリテーション・社会的適応促進のための保健医療福祉チームの組織活動について探究し、検討できるよう教授・研究する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	精神障害者が示す行動(現象)の観察及び分析(佐藤)	観察された行動の現象学的・解釈学的分析法について理解できる。	中井他『看護のための精神医学』医学書院
2	精神障害患者の社会的適応促進のための支援(佐藤)	精神障害患者の社会的適応促進のための支援について考えることができる。	
3	入院あるいは通所患者の精神障害の特徴患者の治療法についての概要説明(浅香)	精神障害と身体的疾患を併発する患者の治療法の概要について理解できる。	
4 5 6	精神障害者と身体的疾患を併発した患者等に関して、症状改善のための施設と、施設における医学的治療及び看護の実際を参加観察 (佐藤・浅香)	参加観察法によって得られたデータのフィールドノート・パーソナルノートが作成できる。	田中他『精神障害者の地域支援ネットワークと『看護援助』
7 8 9 10 11	精神障害患者(薬物・アルコール・社会復帰・統合)失調・抑うつ・自殺願望・自傷行為・人格障害他) の QOL を目指した全人的関わり、さらにリハ精神看護領域におけるリテーション・社会的適応促進のための保健医療福祉チームの組織活動についての探究 精神医療領域に関する探究(課題学習) (佐藤・浅香)	参加観察法によって得られたデータと左記課題から、精神科医療における看護についての論述ができる。	
12 13	課題発表会・ディスカッション (佐藤・浅香)	自己の課題学習に沿ってその成果が発表できる。	
14 15 16	自己課題に向けて発表後の再探究と報告書の作成と報告(佐藤・浅香)	精神障害患者のQOLを目指した全人的関わり、さらにリハビリテーション・社会的適応促進のための保健医療福祉チームの組織活動及びその支援施策について理解できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
精神障害者と身体的疾患を併発した患者等に関して、症状改善のための医学的治療法及び看護、患者の QOL を目指した全人的関わり、さらにリハビリテーション・社会的適応促進のための保健医療福祉チームの組織活動、その支援施策について実践的に探究し、理解が深まる。	学則に準じた評価 評価;提出されたレポート及び課題探究・発表内容などから総合的に評価する。	講義、演習、プレゼンテーション、探求等多彩。なお、探求できた事柄を論文化し、関連学会に発表できればなお良い。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	小児・青年期発達心理特論	2	30	選択	前期	岡本陽子・堀井順平 八島美菜子

ねらい	先行研究結果をもとに、小児・青年期の発達について発達の原理にもとづく特徴を理解する。 定型発達を踏まえた発達期の障がい理解や慢性疾患が発達や心理的健康に及ぼす影響について理解を深める。 また、小児・青年期の発達特徴に基づいた支援のあり方や家族を含めた支援のあり方についても検討する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	発達心理学のなりたちと研究法（堀井）	発達心理学のなりたちと研究方法の基礎ににについて理解することができる。	適宜資料を配付 参考図書 適宜紹介
	2	発達の原理と生涯発達の視点（堀井）	生涯発達の視点にたち、発達の連続性と適時性についての理解を深める	
	3 4	乳児期の発達（八島）	新生児期を含めた乳児期の脳の発達にもとづく、社会性、運動、認知の発達の相互性について理解を深める	
	5 6	幼児期の発達（八島）	幼児期の社会性、運動、認知の発達の特徴と発達課題について理解を深める	
	7 8	学童期の発達（岡本）	学童期の発達の特徴を認知と社会性の発達を中心に理解することができる。	
	9 10	思春期・青年期の発達（岡本）	思春期・青年期の発達特徴と発達課題について、生物学的・社会的・心理的視点から理解することができる。	
	11 12	病気と障がいの理解（岡本）	成長期における慢性疾患による発達への影響や発達障がいを中心とした障がいへの理解を深める	
	13 14	発達の特徴理解に基づいた支援のあり方（八島）	発達状況や周辺環境など、子どもの現状と発達段階を踏まえた、子どもやその家族への支援について理解を深める。	
	15	まとめ（岡本・八島）	小児・青年期の発達特徴に基づいた支援のあり方や家族を含めた支援のあり方について述べることができる。	
	16	レポート提出		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	支援者として対象者の実態を踏まえたアセスメントや支援を行えるよう、小児・青年期の発達特徴についての理解を深める。 定型発達を踏まえた、障がい理解や支援について検討することができる。	講義・演習等への参加姿勢、講義中に出す課題への取り組み状況、最終的なレポート課題の内容等を含めた総合評価	参考図書など関連書籍による自己学習と授業時に配布する資料による復習を行い、身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2012	母子看護基礎教育方法論特論	2	30	選択	後期	山内京子・進藤美樹

ねらい	母性看護学・小児看護学を看護基礎教育課程の中で、教授する方法論について、今日の母子を取り巻く環境の変化や子育て・親育て支援体制強化を視点に入れながら、各自の関心領域、今日的課題、関連諸科学と関連づけて、具体的・実践的方策について探求する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	小児看護領域における倫理的問題の教授法	小児看護学領域における倫理の重要性とその位置づけを理解した上での教授法の習得	必要文献は都度提示する。 各講義時に資料等配布する。
	2			
	3	「遊び」援助法について講義・演習及び実習（実践）の統合 小児発達特性・健康特性の統合理解と実習での応用	「遊び」援助法に必要な教授法の習得 小児の特性を理解した教授法の習得	
	4			
	5			
	6			
	7	小児ふれあい体験を通しての小児発達理解への効果	小児ふれあい体験の実践による小児発達理解への教授法の習得	
	8			
	9	母性看護学の援助技術法としてのシミュレーション教育	母性看護学教育の特殊性を理解し、今日の学習環境の変化を考慮した教授法を習得、連携実習等とのユニフィケーションを構築することができる。	
	10			
	11	母性看護学の教育内容・方法の構築と評価		
	12			
	13	教育機関と実習病院とのユニフィケーションの形成		
	14			
	15	総括（まとめ・発表） feed back	本教科目の学習過程を通しての学びの成果を効果的に発表し、今後の課題・方向性を探求することができる。	
	16	総括（まとめ・発表） feed back		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	小児看護学・母性看護学の看護基礎教育の課程の中での位置づけを理解した上で、実践的でより効果的な教育方法を展開するための基礎力を修得する。	講義・演習への出席状況及び、中間発表・最終発表への準備状況、発表内容等の総合評価	小児看護・母性看護領域の実践・教育・研究の基礎となる知識・技術を修得するために講義で配布される文献・資料等を熟読し、学生間及び教員と日常的に討議することで考察・クリティークする能力を高めていきましょう。

教科目 No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2013	母子看護基礎教育方法特別演習	2	30	選択	後期	山内京子・進藤美樹

ねらい	母性看護学・小児看護学の教育カリキュラムの中での位置づけ、講義展開・演習計画・臨地実習の展開方法等について、教育活動・実践活動を通して修学し、探求的姿勢と実践的能力を養う。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	母子看護基礎教育方法特論での学びを軸に、具体的に学内・学外演習、実習等を展開する(詳細は別途提示する)。主に母性看護学領域における演習を展開する。	母性看護学領域における看護基礎教育方法の理論と実際に必要な教育手法を習得し、実践展開できる。	必要文献は都度提示する。 各講義時に資料等配布する。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7	中間報告 まとめ		
	8	母子看護基礎教育方法特論での学びを軸に、具体的に学内・学外演習、実習等を展開する(詳細は別途提示する)。主に小児看護学領域における演習を展開する。	小児看護学領域における看護基礎教育方法の理論と実際に必要な教育手法を習得し、実践展開できる。	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15	総括 発表・報告 feed back	本教科目における学習成果を効果的手法を用いてプレゼンテーションできる。今後の課題・方向性を探求し、提示できる。	
	16	総括 発表・報告 feed back		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	母子看護基礎教育に関する総合的な知見と専門的な実践能力及び関係職種との連携・協同・調整能力を修得する。特に倫理的配慮への対応も含めての関係調整能力を養う。	講義・演習への出席状況及び、中間発表・最終発表会への準備状況、発表内容等の総合評価	母と子の成長・発達に関する理念、概念、関連領域の知識及び研究知見を基に看護基礎教育方法の手法を習得するために学生間及び教員、臨床スタッフと積極的に交流をはかり形式知以外のスキルも身につけましょう。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2016	看護管理特論Ⅰ（人的資源管理）	2	30	選択	後期	山内京子

ねらい	看護職のキャリア形成を支援するために，看護組織における理念・目標を理解し，組織と個人の関係の有機的な支援活動について概念・技術・方法論を探求していきます。一人の看護職として，誰かを，組織を，よりよく機能させるシステム開発に向けての提言を目指す。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	人的資源管理　（山内京子）	看護生涯教育の実際について概観することができる。看護職に必要な生涯教育の実際を整理・分析し，今後の課題，方向性を独自の視点で提言できる。	特に指定しない。各講義時に資料等配布する。
	2			
	3	キャリア形成とキャリアマネジメント　（山内京子）		
	4			
	5	アサーティブネスとコーチング　（山内京子）		
	6			
	7	人的資源管理 目標管理・労務管理　（山内京子）		
	8			
	9			
	10	現任教育（施設内・外教育）　（山内京子）		
	11			
	12	人間関係論（ストレスマネジメント・タイムマネジメント）（山内京子）		
	13			
	14	発表 まとめ　（山内京子）	本教科目での学習成果を効果的に発表することができる。今後の課題，方向性について提言できる。	
	15			
	16	総括 試験・レポート　（山内京子）		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	看護職のキャリア形成を支援するための様々な仕組みについて理解し，人的資源管理の視点から各自が独自のシステムづくりの提案ができる。 院生各自の関心領域・重要課題を中心に，質疑の議論を重ね，自己の研究課題の明確化がはかれる。	講義・演習等への出席状況及び参加状況，事前準備状況，発表内容，態度・姿勢等を含めた総合評価	講義・演習及びゼミ形式（院生自身のプレゼンテーション能力開発）を通して，組織活動の基本となる実践的技術を修得しましょう。 講義内容・スケジュール等については院生の希望等で調整可能。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2016	看護管理特論Ⅱ（組織マネジメント）	2	30	選択必修	後期	山内京子

ねらい	看護職としての職業アイデンティティ形成，キャリア構築に必要な知識・技術・方法等の実践的能力を育成する。 職業特性を理解し，組織で働く組織人としての人的資源管理能力の基盤となる実践的基礎技術を修得する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1 2	キャリア理論と制度 職業選択と動機 （山内京子）	看護職としての職業アイデンティティ，キャリア構築，メンタリング，コーチング等の実際について概説することができる。	特に指定しない。 各講義時に資料等配布する。
	3 4	組織社会化 組織コミットメント （山内京子）		
	5 6	仕事への動機づけ 職務満足 （山内京子）		
	7 8 9	メンタリング コーチング （山内京子）		
	10 11 12 13	ジェンダー化する組織 職業性ストレス キャリアカウンセリング （山内京子）		
	14 15	まとめ 発表　（山内京子）	本教科目での学習成果を効果的に発表することができる。今後の課題，方向性について提言できる。	
	16	総括 試験・レポート （山内京子・佐々木秀美）		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	看護職のキャリア形成支援について，関連領域の諸理論と概念，技術・方法を理解し，その実際について，具体的事例・現象等を提示しながら，各自で分析・考察し，その実践面での改善案・提言等ができる。	講義・演習への出席状況及び，中間発表・最終発表会への準備状況，発表内容等の総合評価	講義・演習及びゼミ形式（院生自身のプレゼンテーション能力開発）を通して，組織活動の基本となる実践的技術を修得しましょう。 講義内容・スケジュール等については院生の希望等で調整可能。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2030	看護管理特別演習Ⅰ	2	30	選択	後期	山内京子

ねらい	質の高い看護ケアの効果的な提供を保証するために，組織行動論の視点でマネジメントの実際，リーダーシップ論の展開，組織内における調整能力，人的資源管理の実際，能力開発のシステムづくり等々について，理論をふまえた上で，学内演習を実施，その後，臨床現場に出向くことでより実践的な能力育成を目指す。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	看護管理総説	看護管理の概要について，理論的根拠をおさえながら理解できる。	特に指定しない。各講義時に資料等配布する。
	2	（山内京子）		
	3	看護管理学とは（マネジメント論）（山内京子）		
	4	意思決定と問題解決（山内京子）		
	5	看護管理の実際（演習と実習）（山内京子）		
	6	看護部の機能と業務改善の実際（山内京子）	臨床における看護管実際を理解する。	
	7			
	8	現任教育の実際（病院・施設実習）（山内京子）	現任教育の展開を，連携病院と協同参画して運営，評価することができる。	
	9			
	10	現任教育の実習（病院・施設実習）（山内京子）	現任教育の展開を，連携専門機能病院等と協同参画して運営，評価することができる。	
	11			
	12			
	13	医療管理手法（医療安全管理）（山内京子）	医療管理手法の実際について，その根拠をもって理解することができる。	
	14	医療管理手法（疾病管理）（山内京子）		
	15	総括（レポート・発表等）（山内京子）	本教科目の学習成果として，理論・実践・評価の過程を，効果的にプレゼンテーションできる。今後の課題を導きだすことができる。	
	16			

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	看護管理の概要を理解し，理論的根拠に基づきながら，医療・看護の質保証，信頼関構築，療養環境調整，安全保障等のための看護管理の実践的あり方に必要な能力を修得する。	講義・演習・実習への出席状況及び参加状況，発表内容・準備状況等を含めての総合評価	看護管理に必要な知識と技術，その手法を身につけるために，平素より問題・課題意識を持って，情報収集のためのアンテナをはっていて欲しい。実習科目なので，院生及び教員，臨床スタッフ間でのディスカッション等を重視する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2031	看護管理特別演習Ⅱ	2	30	選択	後期	山内京子

ねらい	質の高い看護ケアの効果的な提供を保証するために，組織行動論の視点でマネジメントの実際，リーダーシップ論の展開，組織内における調整能力，人的資源管理の実際，能力開発のシステムづくり等々について，理論をふまえた上で，学内演習を実施，その後，臨床現場に出向くことでより実践的な能力育成を目指す。臨床看護管理特別実習Ⅱでの学習成果を基に看護管理の実践面で独自の提言をすることができる。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1 2	組織のあり方とリーダーシップ論 （山内京子）	看護管理の概要について，理論的根拠をおさえながら理解できる。	特に指定しない。各講義時に資料等配布する。
	3 4	組織改革とマネジメント （山内京子）		
	5	看護管理の実際（演習と実習） （山内京子）		
	6 7	組織改革とマネジメント （山内京子）	臨床における看護管理の実際を理解する。	
	8 9	現任教育の実際（病院・施設実習） （山内京子）	現任教育の展開を，連携病院と協同参画して運営，評価することができる。	
	10 11 12 13 14	現任教育の実習（病院・施設実習） （山内京子）	現任教育の展開を，連携専門機能病院等と協同参画して運営，評価することができる。	
	15 16	総括（レポート・発表等） （山内京子）	本教科目の学習成果として，理論・実践・評価の過程を，効果的にプレゼンテーションできる。今後の課題を導きだすことができる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	臨床看護管理特別実習Ⅱでの学びを基に，看護管理の実際について，理論的根拠をもとに分析・改善の視点を探求できる。さらに医療・看護の質保証，信頼関構築，療養環境調整，安全保障等のための看護管理について具体的案を提言することができる。	講義・演習・実習への出席状況及び参加状況，発表内容・準備状況等を含めての総合評価	看護管理に必要な知識と技術，その手法を身につけるために，平素より問題・課題意識を持って，情報収集のためのアンテナをはっていて欲しい。実習科目なので，院生及び教員，臨床スタッフ間でのディスカッション等を重視する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学特論Ⅰ （人間存在）	2	30	選択	1年 前期	前信由美・岩本由美・佐々木由紀

ねらい	本講義では人間の内的世界や人間存在の意味、身体をめぐる人間の体験など患者や家族が遭遇する生命・生活に関して人間学的，哲学的，教育学的なアプローチとそのアプローチを理論的に考察する中で、生命危機状況にある人の看護実践現場における日常を現実的対応に発展させる思考訓練を成し，看護専門職者の科学性・人間性向上を目指す。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	人間の生命と存在に関わる尊厳性の問題（前信）	生命危機状況にある人に対する良質な医療の提供としての救命活動について論じることができる。	必要文献はその都度提示する。
2	日本人の心を分析的・解釈学的に行い，我が国独特の文化的価値観とそれを形成する思考過程を体験する。 自研究提示→文献購読→解釈（前信）	提示された文献かを分析的・解釈学的に検討することができる。	必要文献はその都度提示する。
3	課題論考①生命科学と生命倫理（臓器移植・安楽死）（佐々木）	生命科学を生命倫理との関係において論考できる。	必要文献はその都度提示する。
4	課題論考②生命危機状況にある人の生存権の問題と倫理的課題（前信）	生命危機状況にある人の生存権の問題を法律と倫理的問題から論考できる。	必要文献はその都度提示する。
5	課題論考③生命危機状況にある人の生命を守る看護専門職者の役割（岩本）	生命危機状況にある人の生命を守る看護専門職者の役割について論考できる。	以下は必携ではないが参考図書として提示する。 メイアロフの『ケアの本質』 吉田時彦の『ブーバ対話論とホリスティック教育』 スマッツの『ホーリズムと進化論』
6	看護師の死生観・看護観・教育観論考（佐々木）	救命救急現場における看護専門職者が有するべき死生観・看護観・教育観について論じることができる。	
7	事例②救命救急現場における看護専門職者の科学性・人間性論考（岩本）	救命救急現場における看護専門職者の科学性と人間性について考えることができる。	
8	生命危機状況にある人との出会いと対話（生命維持活動）（岩本）	生命危機状況にある人との出会いと対象者への対話の基本的命題が理解できる。	
9	呼びかけに応答する意思と対象者の行動変容（岩本）	呼びかけに応答する対象者の意思と行動変容を促す看護実践について考えることができる。	
10	生命危機場面で展開される対話的人間関係形成論（前信）	生命危機場面で展開される対話的人間関係形成論から援助のあり方について論じることができる。	
11	事例①救命救急現場における全人格的ケアの実践（前信）	救命救急現場における全人格的ケアとは何かについて考えることができる。	
12	看護実践におけるケアリング及び holism（関わり）と命のつながり（前信）	生命危機状況にある人のケアリングにおける holism（関わり）的関わりについて考えることができる。	ハイデッガー『存在と時間』
13	ケアリングにおける holism（関わり）とホリスティックケア（前信）	holism（関わり）とホリスティックケアからケアリングについて考えることができる。	必要文献はその都度提示する。
14	科学的検証（演繹的・帰納的学習）過程を生命危機状況にある人の看護を実践的研究への展開（岩本）	科学的検証（演繹的・帰納的学習）過程を生命危機状況にある人の看護を実践的研究への展開について理解できる。	必要文献はその都度提示する。
15	生命危機状況にある人の看護実践における全人格的対応論考（岩本）	生命危機状況にある人の看護実践における全人格的対応が論考できる。	必要文献はその都度提示する。
16	生命危機状況にある人の看護実践における抽出された課題に対す具体的対応（教育・指導）の記述（前信・岩本）	生命危機状況の場に働く看護師が有する死生観・看護観・教育観について論述でき、報告できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
1.生命危機状況にある人の生存権の問題を法律と倫理的側面から論考でき、生命危機状況にある人の生命を守る看護専門職者の役割について考えられる。 2.人間学的，哲学的，教育学的なアプローチの理論的考察と現実的対応から看護専門職者の看護専門職者の科学性と人間性について考えることができる。 3.生命危機状態にある人の看護実践において全人格的対応をするうえで、対話を通して自己の内的思考を活発にし，死生観・看護観・教育観につなげることができる。	学則の評価基準に準ずる。 毎回の課題論考での発言、課題に関連した報告書の提出を持って可とし，参画状況，学修姿勢等，総合的に評価する。	自己の看護観と教育観については他者との対話（ディスカッション） 自己の研究課題解決に向けては文献学的考察 提示された参考図書は、読んでおくことが望まれる。自己の内面洞察と課題発見の過程実践

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ （危機とストレス）	2	30	選択	1年 前期	前信由美・岩本由美 堀井順平・佐々木由紀
ねらい	突然の病気や災害は強い衝撃として危機感と同時に個人・家族・地域を襲うとストレスをもたらす。そうした危機とストレス下に置かれている患者と家族が、危機的な体験から早期に回復するよう働きかけることが看護専門職者には重要である。本論では特に生命危機状況という衝撃的な体験や持続するストレスなどについて対象者の反応や立ち直りの過程、それを促す専門的援助について学修する。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	生命危機状況[Crisis]がもたらす精神的危機とストレス　（前信・岩本・堀井）	危機という言葉の意味と生命危機状況にある人の生存に関わる危機的状況がもたらすストレスについて理解できる。	参考図書
	2	生命危機状況にある人と家族の精神的ストレス　（佐々木） 事例①身体臓器の急激な損傷のある人と家族のストレス 事例②ターミナル（臨死）	生命危機状況にある人間の反応について事例から論じることができる。	『危機介入の理論と実際』ドナC.アギュララ著
	3	生命危機状況にある人と家族の精神的ストレス　（佐々木） 事例③緊急手術 事例④家族看護―対象喪失とグリーフ		『家族生活とストレス』 石原邦雄編
	4	危機介入看護モデルの探究①　（前信）	人と家族の精神的ストレについて危機理論及び関連する概念から、危機介入モデルについて理解することができる。	『ストレスの心理学』ラザルス他
	5	危機介入看護モデルの探究②　（前信）		その他必要文献は都度提示する。
	6	生命危機にある対象や家族に対する危機モデルの活用（衝撃～適応のプロセス）（岩本）	生命危機にある人に対する危機モデル（衝撃～適応のプロセス）について理解できる。	Patricia.G.Morton 他『Essential Critical Care Nursing a Holistic Approach』
	7	生命危機にある人の適応過程と支援（岩本）	生命危機にある人の適応過程について論じ、支援のあり方について論じることができる。	
	8	ストレス時の患者・家族の人間の反応の理解　（岩本）	心身の変化及び家族関係の変化に関菜するアセスメントを行う事が出来る	
	9	コーピングプロセス　（岩本・堀井）	理論に基づいた回復を促進する専門的な看護ケアに必要な介入について論述できる。	ストレスコーピング理論
	10	ソーシャルサポート　（岩本・佐々木）	他職種と協働し患者・家族の危機介入に必要な専門的知識を修得する。	
	11	生命危機状況にある人の治療に伴う身体的拘束に対するストレスと対処　（　前信　）	生命危機状況にある人の治療に伴う身体的拘束からのストレスに対し共感でき、対処方法について考えることができる。	その他必要文献は都度提示する。
	12	身体的問題からの回復と社会的・精神的ストレス　（　前信　）	身体的問題からの回復過程におけるストレスについて社会的・精神的側面から論じることができる。	
	13	事例①生命危機状況にある人の危機からの回復に向けた支援　（佐々木）	生命危機状況にある人の事例にみる危機とストレスそして回復に向けた適切な支援について考えることができる。	事例については都度提示する。
	14	事例②生命危機状況にある人の精神的危機からの回復に向けた支援　（佐々木）		
	15	生命危機状況にある患者・家族看護を引き受ける看護師の責務　（佐々木）	生命危機状況にある対象や家族の危機とストレスについて、今までの授業と文献・参考図書を含めた看護や看護師の責務について論じることができ、報告できる。	ロイ『ロイ適応看護モデル』
	16	課題レポート		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	1.生命危機状況にある患者の生存の問題と危機的状況がもたらすストレスについて理解できる。 2.人と家族の精神的ストレについて危機理論及び関連する概念から、危機介入モデルについて理解することができる。 3.生命危機状況という衝撃的な体験や持続するストレスなどについて患者・家族の反応や立ち直りの過程について理解し、ストレスからの回復を促す専門的援助について考えることができる。	学則に準じ、レポート内容及びディスカッションでの発言などから総合的に評価し、単位認定する。	・相互情報交換 ・ディスカッション ・講義 ・探求等 多彩な学修方法を実践します。 記載された参考図書のうち一冊は熟読し、内容を把握しておくこと。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ （フィジカルアセスメント）	2	30	選択	1年 前期	岩本由美・前信由美 森山美知子
いねら	クリティカルな状況におけるフィジカルアセスメントは、生存のニーズに必要な身体内の変化を素早くキャッチすることが重要である。そこで、本講義では表出された現象から集中的・高度な治療を必要とする状況判断ができる為のフィジカルアセスメントに関する知識・技術について学修する。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	導入オリエンテーション（岩本） 人間の生命維持に必須のニーズ（栄養・酸素・水・体温）とフィジカルアセスメント　（森山）	人の基本的ニーズの中で特に生命維持に必須のニーズについて理解し、ケア優先度判断に役立てる。	エレイン N・マリブ『人体の構造と機能』
	2	クリティカルな状況にある患者の Head to Toe（観察とフィジカルアセスメント） （森山）	クリティカルな状況にある患者の初期診断に必要な観察の視点がわかる。	山勢博彰『院内トリアージのためのフィジカルアセスメント―緊急度判定に活かす』
	3	生命危機状況にある人の健康問題解決に必要な医学的診断過程における基本技術 （森山）	生命危機状況にある人の健康問題解決に必要な医学的診断の基本技術が理解できる。	資料：フィジカルアセスメントガイドブックーロイ適応看護モデルを参考にー
	4	生命危機状況にある人の健康問題解決に必要な看護学的診断過程における基本技術 （森山）	生命危機状況にある人の健康問題解決に必要な看護診断過程における基本的知識・技術が理解できる。	カルペニート『看護診断』
	5	患者の現象観察と検査ゲータ(血液・血清・生化学)からのフィジカルアセスメスメント （森山）	患者の現象観察と検査データ・生理学的データから総合的なフィジカルアセスメントができる。	必要文献はその都度提示する。
	6	患者の現象観察と呼吸・循環動態把握とフィジカルアセスメント）　（岩本）		必要文献はその都度提示する。
	7	事例に基づく生命危機状態にある人のフィジカルアセスメント(シミュレーション学習) （前信・岩本） 1.　全身と外観のアセスメント	生命危機状況を引き起こす事例から、フィジカルアセスメンに必要な基礎的知識から、アセスメントに必要な観察視点及び観察技術が論述でき、アセスメントできる。	必要文献はその都度提示する。
	8	2.　呼吸器系のフィジカルセスメント （事例展開）　（前信・岩本）	各事例では、以下の５項目を繰り返し行う。 ・シミュレーション計画（教育）立案 ・事例展開に必要な基礎学習 ・フィジカルアセスメント演習 ・討議 ・自己の振り返り	必要文献はその都度提示する。
	9	3.　循環器系のフィジカルアセスメント （事例展開―1）　（前信・岩本）		必要文献はその都度提示する。
	10	4.　循環器系のフィジカルアセスメント （事例展開―2）　（前信・岩本）		必要文献はその都度提示する。
	11	5.　脳神経系のフィジカルアセスメント （事例展開）　（前信・岩本）		必要文献はその都度提示する。
	12	6.　運動器系のフィジカルアセスメント （事例展開）　（前信・岩本）		必要文献はその都度提示する。
	13	7.　内分泌系のフィジカルアセスメント （事例展開）　（前信・岩本）		必要文献はその都度提示する。
	14	8.　代謝系・腎臓系のフィジカルアセスメント （事例展開）　（前信・岩本）		必要文献はその都度提示する。
	15	生命危機状況場面におけるフィジカルアセスメントと教育・研究課題討議　（岩本・前信）	生命危機状況場面における適切なヘルスアセスメスメントと直接的ケアとの関係を倫理的課題及び教育・研究的視点から論じることができ、報告書が作成できる。	必要文献はその都度提示する。
	16			

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	1.最先端医療やクリティカルな状況における患者の現象観察や検査・生理学的データから、対象の治療・生活行動、機能回復をサポートできるに相応しいフィジカルアセスメスメントの知識・技術について理解することができる。 2.観察枠組みを活用し事例を展開することで、重症患者に対するフィジカルアセスメントの基礎的能力が身につく。	・学則の評価基準に準ずる。 ・参画状況を加味して、以下の3項目から総合的に評価する。 ・議論・課題探究状況等（20%） ・シミュレーション演習（30%） ・課題レポート（50%）	・講義、 ・文献学的学習と自己学習 ・シミュレーション演習と振り返り学習 ・討議 演繹的・・帰納的学習 ・課題レポート

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学特論Ⅳ （重症患者の病態生理）	2	30	選択	1年 前期	前信由美・廣橋伸之
ねらい	急性・重症患者の代謝病態生理及び手術・麻酔侵襲が生体に及ぼす影響について理解し、生命危機状況にある人の健康問題解決に必要な基礎的能力が身につき、合併症予防も含めた看護ケア・看護管理に活用できるよう学修する。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	生命危機状況にある人の現象からみる原疾患と原疾患の探究と専門看護師が有するべき知識・技術（前信）	生命危機状況にある人の現象からみる原疾患の探究ができ、専門看護師が有するべき知識について論じることができる。	山勢博彰『救急看護の知識と実際』
	2	ホメオスタシスの失調と表出された現象からみた生命危機状況　（廣橋） 1.低酸素血症　2.ショック 3.意識消失 4.体液喪失及び電解質バランス異常	表出された現象から身体のホメオスタシス失調（病態）の観察と検査データから生命危機状況が判断できるための病態生理学的基礎知識が身につく。	『救急医学』 日本救急医学会『救急診療指針』 前川和彦『今日の救急治療指針』 代謝病態生理学に関する専門書 必要文献はその都度提示する。
	3	1.意識障害を引き起こす原因疾患（廣橋）	意識障害を引き起こす原因疾患が探究できる。	
	4	2.低酸素血症を引き起こす原因疾患（呼吸・循環障害）（廣橋）	呼吸・循環障害を引き起こす原因疾患が探究できる。	
	5	3.急性呼吸窮迫症候群(ARDS)・呼吸不全と人工呼吸　（廣橋）	呼吸不全を引き起こす病態生理が理解でき、人工呼吸との関連で説明できる。	
	6	4.急性腹症（痛み）を引き起こす原因疾患（廣橋）	急性腹症（痛み）引き起こす原因疾患が探究できる。	
	7	5. 体液・代謝異常引き起こす原因疾患（熱傷・内分泌系含む）（廣橋）	体液・代謝異常引き起こす原因疾患が探究できる。	
	8	6. 重症外傷の病態生理（廣橋）	重症外傷の病態の損傷把握方法が理解できる。	
	9	7. ショックを引き起こす原因疾患（出血他）（廣橋）	ショックを引き起こす原因疾患が探究できる。	
	10	8.　敗血症の病態（廣橋）	敗血症の病態が理解できる。	
	11	9.臓器不全(腎不全)・多臓器不全の病態（廣橋）	臓器不全・多臓器不全の病態が理解できる。	
	12	10.手術及び麻酔による病態生理学的変化（廣橋）	手術及び麻酔による病態生理学的変化について説明できる。	
	13	11.痛みの病態と疼痛コントロール（廣橋）	痛みの病態と疼痛コントロールについて探究できる。	
	14	12.補助循環と患者管理(PCPS 等)　（前信）	生命危機状態にある患者の生命維持に必要な補助循環及び患者管理について探究できる。	必要文献はその都度提示する。
	15	病因・病態解明に果たす各医療専門職者の役わりとチーム医療（前信）	病因・病態解明に果たす各医療専門職者の役割とチーム医療のあり方が論述できる。	必要文献はその都度提示する。
	16	まとめ・課題レポートの提示　（前信）	生命危機状況に陥る主な原因と病態基本的理解から、患者・家族の疾病認識・受容に向けた看護について倫理・教育・研究的側面から探究し、報告書が作成できる。	必要文献はその都度提示する。

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	1.急性・重症患者の代謝病態生理が理解でき、生命危機状況にある人の健康問題解決に必要な医学的・看護学的診断過程及び患者・家族の疾病認識・受容・適応に向けた適切な看護・管理のための基礎的能力が身につく。 2.生命危機状況に陥る主な原因と病態基本的理解から、患者・家族の疾病認識・受容に向けた看護について探究し、専門看護師の役割が理解できる。	・学則の評価基準に準ずる。 ・課題レポート 80% ・他 20%は参画状況，議論・課題探究状況等，総合的に評価する。	・講義 ・討論 ・個人目標の設定と自己学習 ・課題探求 ・レポート

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学特論Ⅴ （クリティカルケア・治療管理）	2	30	選択	1年 前期	前信由美・廣橋伸之 森田克也・藤本和恵
ねらい	急性・重症患者に必要な治療・処置を理解し、治療・療養過程（cure）全般を管理する患者・家族中心の医療がすすめられるための治療環境の総合的な管理の必要性を理解できるよう教授する。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	生命危機状況にある患者の治療（cure）・管理上に必要な安全管理と環境の調整（前信）	生命危機状況にある患者の治療（cure）・管理上に必要な治療環境について論ずる事ができる。	山勢博彰『救急看護の知識と実際』 『救急医学』 『クリティカルケア看護』 日本救急医学会『救急診療指針』 前川和彦『今日の救急治療指針』
	2	生命危機状況にある患者の治療（cure）に協働する看護（care）に必要な知識（前信）	生命危機状況にある患者の治療（cure）に協働する看護（cure）に必要な専門的知識と技術も含めて論ずる事ができる。	
	3	生命危機状況にある患者の治療・管理上に必要な家族との信頼関係構築とＩＣ（前信・藤本）	生命危機状況にある患者の家族に対する説明と同意の必要性が理解できる。	
	4	臓器移植のための看護ケア（前信・藤本）	生命危機状況にある患者・家族の臓器移植に関する看護ケアについて論じることができる。	
	5	生命危機状況にある患者の血液浄化療法に対する看護ケア①（廣橋・藤本）	生命危機状況にある患者の血液浄化療法の知識・技術について理解できる。	
	6	生命危機状況にある患者の血液浄化療法に対する看護ケア②（廣橋・藤本）		
	7	生命危機状況にある患者の熱傷管理と創傷管理及び全身管理①（廣橋・藤本）（人工呼吸器を含む）	生命危機状況にある患者の熱傷・創傷及び人工呼吸器を含む全身管理の方法が理解できる。	
	8	生命危機状況にある患者の熱傷管理と創傷管理及び全身管理②（廣橋・藤本）（人工呼吸器を含む）		
	9	緊急時に使用される薬剤とその管理（森田）	生命危機状況にある人の薬物療法と薬物管理が理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	10	薬物療法と医療過誤―その法的的側面（森田）	薬物療法を医療過誤の視点から検討し、安全対策が論じられる。	
	11	生命危機状況にある患者の感染管理（前信）	生命危機状態にある人の感染管理が理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	12	生命危機状況にある患者の治療評価（回復・不変・悪化）と看護における管理・倫理的課題（前信）	生命危機状況にある患者の治療評価（回復・不変・悪化）が適切に行えるための看護管理及び倫理調整、コンサルテーションの基本を理解し、論じられる。	
	13	生命危機状況にある患者の治療管理に伴う教育・研究的課題（前信）	生命危機状況にある患者の治療管理に伴う看護教育・研究的課題が論じられる	
	14	クリティカルケア専門看護師に必要な看護観・死生観・教育観について（前信）	クリティカルケア専門看護師に必要な看護観・死生観・教育観について論じることができる。	
	15	クリティカルケア治療管理と看護師に求められる資質と役割（前信）	クリティカルケア治療管理における倫理的課題と協働する人々との連絡・調整・相談・管理・教育・研究的側面から検討した報告書が作成できる。	
	16	課題レポート（前信）		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	1.急性・重症患者に必要な治療・処置について理解できる。 2.治療・療養過程（cure）全般を管理する患者・家族中心の医療が安全に進められるための基本的理解ができる。 3.生命危機状況にある患者の救命治療に向けた身体管理と観察の方法が理解できる。	・学則の評価基準に準ずる。 ・課題レポート80％ ・他20％は参画状況，議論・課題探究状況等，総合的に評価する。	・講義 ・討論 ・演習 ・個人目標の設定と自己学習 ・課題探求 ・レポート

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	60	必修	1年後期	前信由美・岩本由美 藤本和恵・森山美知子

ねらい	クリティカル状況にある患者の回復にむけたケアとキュアを融合した介入、および家族にたいする援助的かかわりについて援助関係論、家族看護論などを基盤に専門看護師に必要な実践力をもつことができるよう教授する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	クリティカル状況にある患者・家族の基本的理解（岩本）	クリティカル状況にある患者・家族の基本的理解ができる。	・クリティカルケア看護特論Ⅰ～Ⅳ、共通科目で配布された資料
2	クリティカル状況にある患者の回復にむけた治療（キュア）と看護ケア　（前信）	患者の回復にむけたケアとキュアが融合した介入および家族に対する援助的かかわりについて理解できる。	Patricia.G.Morton 他『Essential Critical Care Nursing a Holistic Approach』
3	身体的危機状況にある患者及び家族に対するアプローチとケアリング　（森山）	生命危機状況にある患者及び家族の身体的・心理的・社会的状況に対するアプローチとケアリングについて総合的に論じることができる。	
4	生命危機状況にある患者及び家族の心理的・社会的状況に対するアプローチとケアリング　（森山）		鈴木和子『家族看護学』
5	生命危機状況にある患者及び家族のニードに即した支援　（森山）	生命危機状況にある患者及び家族のニード把握と回復にむけた支援のあり方について論じることができる。	森山美知子『ファミリーナーシングプラクティス―家族看護の理論と実践』
6	クリティカルな状況における個人及び家族のニード把握と問題解決方法論考　（岩本）	クリティカルな状況における個人のニードが把握でき、問題に対する解決方法が探究でき、論述できる。	必要文献はその都度提示する。
7	生命危機状況にある患者の医学的・看護的診断過程と治療に伴う看護援助 演習①　クリティカルケア看護場面におけるスタンダードプリコーション（安全管理）　（岩本）	生命危機状況にある患者の医学的診断過程と初期診療時の観察ができ、緊急度と優先順位が判断及び患者の安全対策について探究し、患者・家族への援助的関わりについて理解できる。	必要文献はその都度提示する。
8	演習②重症度・緊急度の判断と安全管理　（岩本）		
9	演習③治療（キュア）の優先順位と看護ケアの展開　（岩本）		
10	演習④治療に伴う家族への援助的関わり　（岩本）		
11	演習⑤　生命危機状況にある患者の診断に必要な検査　（前信・藤本）	生命危機状況にある患者の診断に必要な検査についての基本的理解ができる。	必要文献はその都度提示する。
12	演習⑥　生命危機状況にある患者のアセスメント　（藤本）		
13	クリティカル治療場面における各種検査について　（前信）	クリティカル治療場面における各種検査と生命モニター及び必要な維持装置装着について論考できる。	必要文献はその都度提示する。
14	生命モニター及び必要な生命維持装置装着における援助　（前信・藤本）		
15	演習⑦　循環動態監視モニター　（前信・藤本）	生命危機状況にある患者の循環動態把握に必要なモニター監視及び生命維持装置について理解し、場面に適したコミュニケーション［専門的知識・技術・連絡・報告・相談含む］ができる。	必要文献はその都度提示する。
16	演習⑧生命維持装置について　（前信・藤本）		
17	生命危機状況把握に必要な安全なモニタリング　（前信・藤本）	生命危機状況把握に必要なモニタリングから行動抑制がもたらす心身の変化について臨床判断ができる。	必要文献はその都度提示する。
18	生命危機状況に必要な行動抑制　（藤本）		
19	高度で濃密なクリティカル治療場面における看護師の専門的看護介入からの総合学習（Ⅰ・C 含む）　（前信・藤本） 事例①呼吸不全のある患者・家族への介入(ケア)	クリティカル治療場面において治療を受ける患者・家族に必要な看護援助について理解し、専門看護師に必要な機能［専門的知識・技術・調整］の側面から介入（ケア）について論じることができる。	必要文献はその都度提示する。
20	事例②人工呼吸器装着患者への介入(ケア)　（前信・藤本）		
21	事例③急性循環障害へのある患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
22	事例④急性循環障害へのある患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		

	23	事例⑤中枢神経障害のある患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
	24	事例⑥大動脈バルーンパンピング装着患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
	25	事例⑦PCPS 装着患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
	26	事例⑧血液浄化療法を受ける患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
	27	事例⑨急性中毒の患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
	28	事例⑩睡眠障害の患者・家族への介入(ケア)　（前信・藤本）		
	29	事例検討の中から、家族への援助的な関わりについての振り返り　（前信・藤本）	事例の中から家族への関わりに関して、家族看護論・援助関係論を活用して論じる事ができる。	必要文献はその都度提示する。
	30	課題レポート(看護実践力向上のための学術的・研究的側面から見たクリティカル期にある患者・家族へのケア（佐々木）	クリティカル期にある患者・家族へのケアについて看護実践力向上のための学術的・研究的側面から考え、意見を述べることができる。	必要文献はその都度提示する。

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1.クリティカル状況にある患者の回復にむけた医学介入(キュア)と看護(ケア)が融合した介入および家族に対する援助的かかわりについて理解できる。 2. クリティカル状況にある患者の回復にむけた援助方法について援助関係論、家族看護論に関する介入方法の基礎的知識・技術が理解できる。 3.生命危機状況にある患者の観察及びアプローチが専門看護師に必要な 6 つの視点(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)から論じることができる。	・課題レポート ・参画態度 ・演習全体の知識・技術及び発言 ・演習でのプレゼンテーション内容・レポートなどから総合的に判断する。 ・評価は学則に即して行う。	・討論 ・講義 ・演習 ・自己学習 ・探求 ・プレゼンテーション

5教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
X2049	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	60	必修	1年後期	前信由美・藤本和恵・佐々智宏

ねらい	看護倫理特論・クリティカルケア看護特論の講義を踏まえ、ICU・CCU などの最先端医療におけるクリティカルな状況における個人の問題解決及び治療・看護における個人の選択と意思決定の問題及び倫理的問題を解決でき得る看護実践能力を高めるための知識及び技術が修得できるよう教授する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	授業概要の説明と最先端医療における看護者の責務について（前信）	最先端医療における看護者の責務について考えることができる。	『看護者の基本的責務』日本看護協会監修 『意思決定のための10 のステップ』ジョイスE。トンプソン
	2	最先端医療における看護者の責務についてのディスカッション（前信）		
	3	クリティカルな状況にある患者・家族の現状と課題（前信）	説明された授業概要とクリティカルな状況にある患者・家族の現状と課題について探究でき、論述できる。	
	4	クリティカルケア看護と法的・倫理的側面の探究（前信）		
	5	最先端医療における脳死等、個人及び家族の意思決定権論考（前信） 1. 問題を抱えているのは誰か？	最先端医療における個人及び家族の意思決定権について探究でき、論述できる。	
	6	最先端医療における脳死等、個人及び家族の意思決定権論考（前信） 2. 誰が決定するかを誰が決めるのか？ 3. 看護師の役割は何か？		
	7	人間の生命維持に必須のニーズから見た看護ケアと倫理的課題（前信）	人間の生命維持に必須のニーズから見た看護実践と実践の際の倫理的行動について論じることができる。	
	8	患者・家族の尊厳（モニタリング・ビジランス）（前信）	生命危機状況にある患者・家族の苦痛軽減に向けた看護についてモニタリング・ビジランスの視点から、患者の尊厳を守る看護について論じることができる。	
	9	患者・家族の尊厳を守る看護について（前信）		
	10	拘束状態にある患者及びその・家族が実際に直面する問題の演繹的学習（前信・藤本） 1.事例提示(身体の拘束)→問題解決案	クリティカルケア場面で拘束状態にある患者・家族の問題と問題解決について、拘縮、筋力低下等の合併症を含め論考できる。	必要文献はその都度提示する。
	11	拘束状態にある患者及びその・家族が実際に直面する問題の演繹的学習（前信・藤本） 2.事例提示（ME機器とと安全対策）→問題解決案		
	12	拘束状態にある患者及びその・家族が実際に直面する問題の演繹的学習（前信・藤本） 3.事例提示（身体拘束状態の患者の合併症とその家族の心理的ストレス）→問題解決案		
	13	拘束状態にある患者・家族のアセスメントと援助（前信・藤本）	拘束状態にある患者・家族のアセスメントの視点がわかり、援助について検討できる。	必要文献はその都度提示する。
	14	クリティカルケアにおける ME 機器による拘束状態と安全対策（前信・藤本）	クリティカルケアにおけるME 機器の取り扱いと患者の安全のための対策、その対策による拘束状態が引き起こす種々の問題に対する方法が論じられる。	必要文献はその都度提示する。
	15	生命危機状況にある患者・家族への援助 －臨地におけるフィールドワーク（佐々・前信） 1.観察からアセスメント 2.看護診断	生命危機状態にある患者の個人の問題解決に向けた看護の実践から患者・家族に必要な看護について倫理的問題も含め多角的に検討し、自身の見解について論述することができる。	必要文献はその都度提示する。
	16	生命危機状況にある患者・家族への援助 －臨地におけるフィールドワーク（佐々・前信） 3.問題解決手法の適切な選択		

	17	生命危機状況にある患者・家族への援助 －臨地におけるフィールドワーク　（佐々・前信） 4.心身の苦痛・緩和に向けた看護を実践的に追及		
	18	生命危機状況にある患者・家族への援助 －臨地におけるフィールドワーク　（佐々・前信） 5.対象者及び家族の倫理的課題の識別		
	19	生命危機状況にある患者・家族への援助 －臨地におけるフィールドワーク　（佐々・前信） 6.生命危機状況から対象者の回復に向けた意思決定及び適切な援助（家族含む）		
	20	生命危機状況にある患者・家族への援助 －臨地におけるフィールドワーク　（佐々・前信） 7.観察あるいは経験したことを人の尊厳に基づいた生命倫理・倫理調整、あるいは看護者としての職業倫理を踏まえた論述 8.分析・評価		
	21	生命危機状況にある患者・家族への援助－学習 1.対象者の重症度アセスメント　（前信）	救命救急場面の参加によって得られた情報を理論的に解釈し，回復に向けた援助法の創意・工夫及び援助に関する意思決定及び患者・家族の尊厳について論述できる。	必要文献はその都度提示する。
	22	生命危機状況にある患者・家族への援助－学習 2.心身の苦痛・緩和に向けた看護を実践的に追及 （前信）		
	23	生命危機状況にある患者・家族への援助－学習 3.対象者及び家族の倫理的課題の識別（前信）		
	24	生命危機状況にある患者・家族への援助－学習 4.生命危機状況から対象者の回復に向けた意思決定及び適切な援助（家族含む）		
	25	生命危機状況にある患者・家族への援助－学習 5.観察あるいは経験したことを人の尊厳に基づいた生命倫理（前信）		
	26	生命危機状況にある患者・家族への援助－学習 6. 看護者としての職業倫理を踏まえた論述（前信）		
	27	患者・家族の生命危機問題及び倫理的課題解決に向けた専門的知識・技術に対しての学術的・研究的思考（研究）①　（前信）	患者・家族の生命危機問題及び倫理的課題解決に向けた専門的知識・技術に対しての学術的・研究的に探究し、検討できる。	必要文献はその都度提示する。
	28	患者・家族の生命危機問題及び倫理的課題解決に向けた専門的知識・技術に対しての学術的・研究的思考（研究）②　（前信）		
	29	生命危機状況における倫理的問題に対する専門看護師の役割（前信）	生命危機状況における倫理的問題に対する専門看護師の役割について論じることができる。	必要文献はその都度提示する。
	30	事例報告提出	演繹的・機能的学習で得られた成果を報告書としてまとめ、期日内に提出できる。	

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1.ICU・CCU などの最先端医療におけるクリティカルな状況における個人の問題解決につながる基礎的能力が身につく。 2.看護実践能力を高めるための知識及び技術が修得でき、学術的・研究的視点から論じることができる。 3.個人の選択と意思決定の問題及び倫理的問題を解決でき得る基礎的能力が身につく。 4. 生命危機状況にある患者への専門的アプローチが 6 つの視点（実践・教育・相談・調整・研究・倫理）から論じることができる。	学則の評価基準に準ずる。 参画態度，議論・発表時のプレゼンテーション内容，課題探究状況等，総合的に評価する（20%）。 最終的に提出されるレポート評価（80%）	・帰納的・演繹的学習を取り入れた問題解決型・探求型学習（講義・演習（臨地におけるフィールドワーク含む）・ディスカッション・フィールドワークによる探求含む）

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
X2050	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	2	60	必修	1年後期	前信由美・岩本由美 掛田崇寛・佐々智宏
ねらい	専門看護師の6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)の視点を持ち、患者・家族が有する全人的な苦痛を緩和・軽減するためのケア・処置の理論、原理、方法、効果測定などが理解できるよう教授する。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	クリティカルケア場面における専門看護師に必要な6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)論考① (前信)	クリティカルケア場面における専門看護師の6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)について論述できる。	必要文献はその都度提示する。
	2	クリティカルケア場面における専門看護師に必要な6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)論考② (前信)		
	3	患者・家族が有する全人的な苦痛(身体的・精神的痛み) (前信)	クリティカルケア場面において患者・家族が有する者が有する身体的・精神的・社会的・霊的痛みについて理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	4	患者・家族が有する全人的な苦痛(社会的・霊的痛み) (前信)		
	5	全人的な苦痛のある患者への看護援助におけるコミュニケーション技法 (前信)	生命危機状態にある患者・家族に対するコミュニケーション技法の原則が理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	6	全人的な苦痛のある患者の症状マネジメント (前信)	生命危機状態にある患者の全人的苦痛軽減のためのマネジメンが理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	7	患者・家族が有する全人的な苦痛(身体的・精神的・社会的・霊的痛み)のアセスメント と看護援助 (前信)	患者・家族が有する精神的・社会的・霊的痛みのアセスメントができ苦痛軽減のためのケア・処置の理論、原理、方法及び効果判定について理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	8	事例展開①－精神的痛みと看護援助 (前信)		
	9	事例展開②－社会的痛みと看護援助 (前信)		
	10	事例展開③－霊的痛み (前信)		
	11	身体的痛みの強い患者の観察と援助及びその効果(循環器系含む) (掛田)	身体的痛みの強い患者の観察が適切にでき、苦痛軽減に向けた具体的方法の適用とその効果判定の仕方が理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	12	事例展開④－アセスメント/援助/評価/効果判定 (掛田)		
	13	事例展開⑤－ペインコントロールの実際と効果判定 (掛田)		
	14	事例展開⑥－ペインコントロールの実際と効果判定 (掛田)		
	15	痛みに関する薬剤の活用と看護ケア 事例展開④→薬物療法実施とその効果判定 (前信)	痛みに対する薬剤の活用と効果判定と薬物療法時のケアに対する具体的援助方法が探究でき、その効果判定ができる。	必要文献はその都度提示する。
	16	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(ER のフィールドワーク①) (佐々・岩本)	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助について医師との協働場面から実践場面を体験し、苦痛軽減に向けた援助の実際が理解できる。	必要文献はその都度提示する。
	17	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(ER のフィールドワーク②) (佐々・岩本)		
	18	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(ICU のフィールドワーク① 循環器系含む) (佐々・岩本)		
	19	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(ICU のフィールドワーク② 循環器系含む) (佐々・岩本)		
	20	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(ICU のフィールドワーク③ 循環器系含む) (佐々・岩本)		
	21	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(HICU のフィールドワーク①) (佐々・岩本)		
	22	生命危機状況にある患者・家族の苦痛緩和の援助(HICU のフィールドワーク②) (佐々・岩本)		

	23	生命危機状況にある患者･家族の苦痛緩和の援助の分析/循環器系含む)　　(佐々･岩本)	生命危機状況にある患者･家族の苦痛緩和に向けた看護援助について臨地における体験から分析･評価ができる。	必要文献はその都度提示する。
	24	生命危機状況にある患者･家族の苦痛緩和の援助の評価/循環器系含む)　　(佐々･岩本)		
	25	家族･他職種との連携による身体的･精神的苦痛軽減論考(岩本)	家族･他職種との連携による身体的･精神的苦痛軽減について探究し、方策について論じることができる。	必要文献はその都度提示する。
	26	患者の行動抑制に伴う身体的・精神的苦痛軽減(岩本)	行動抑制が患者･家族に与える苦痛について考えることができ、軽減のための方策について探究できる。	必要文献はその都度提示する。
	27	事例展開－スタッフ教育―全人的苦痛のある患者・家族に対する教育機能①　　(佐々)	生命危機状況にある患者・家族の全人的苦痛に対する教育機能について論じることができる。	必要文献はその都度提示する。
	28	事例展開－スタッフ教育―全人的苦痛のある患者・家族に対する教育機能②　　(佐々)		
	29	クリティカル期にある患者・家族の全人的苦痛軽減について　　(前信･岩本)	クリティカル期にある患者・家族の全人的な痛みについてその軽減のための方策を学術的・研究的側面から探求・検討した報告書が作成できる。	必要文献はその都度提示する。
	30	クリティカル期にある患者・家族の全人的苦痛軽減に関する看護実践力向上のための学術的・研究的側面からの探求②　　(前信･岩本)		

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1.生命危機状況にある患者･家族の全人的苦痛について理解できる。 2.患者・家族が有する精神的・社会的・霊的痛みのアセスメントができ苦痛軽減のためのケア・処置の理論、原理、方法及び効果判定について理解し、看護実践のための基礎的能力が身につく。 3.生命危機状況にある患者･家族の苦痛緩和の援助について医師との協働場面から実践場面を体験し、苦痛軽減に向けた援助の実際が理解でき、専門看護師の6つの役割機能(実践･教育･相談･調整･研究･倫理)の視点から論じることができる。	･学則の評価基準に準ずる。 ･参画態度(10%) ･議論･課題探究状況等(60%) ･課題レポート(30%)	. シミュレーションによる演繹的学習 ･帰納的学習 ･探求 ･討議 ･シミュレーション ･フィールドワーク

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学演習Ⅳ	2	60	必修	1年後期	岩本由美・前信由美 佐々智宏・長岡孝典
ねらい	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性について学び、患者に必要な看護ケア実践で引き起こされる倫理的問題についてアセスメントできる知識・技術を習得し、専門看護師に必要な 6 つの視点(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)から探求・考察できる。					

		授 業 概 要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	1	救命・救急看護, 周手術期看護など各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性論考 (岩本) 1. ICU・CCU 2. HICU 3. 周・手術期看護	クリティカルケア看護場面における既習学習の想起及び救命・救急看護, 周手術期看護など各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性について探究でき、論述できる。	井部俊子・大生定義『専門看護師の思考と実践』 日本クリティカルケア看護学会『看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド』
	2	救命・救急看護, 周手術期看護など各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性論考 (岩本) 4.ターミナル期 5. 災害看護領域 6.ER		
	3	既習学習全般を通して、臨床での救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門的なケア実践と専門看護師の6つの役割機能からの課題探求① (岩本)	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門的なケアを専門看護師の6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)から課題探求できる。	
	4	既習学習全般を通して、臨床での救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門的なケア実践と専門看護師の6つの役割機能からの課題探求② (岩本)		
	5	各小領域における生命危機状態と救命活動に必要な看護技術の修得(シミュレーション学習) (長岡) ABCD survey 演習 気管挿管等の気道確保	各小領域における生命危機状態と救命活動に必要な看護技術の修得と、その技術修得と専門看護師に必要な6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)との関連で、患者の身体的危機状況克服に向けた救命活動について理解できる。	
	6	ABCD survey 演習 呼吸器などの酸素療法 (長岡)		
	7	ABCD survey 演習 静脈路の確保と胸骨圧迫 (長岡)		
	8	ABCD survey 演習 原因の検索と治療 (長岡)		
	9	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性と専門看護師に必要な 6 つの視点(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)について臨地における看護実践から学ぶ－フィールドワーク導入 (佐々・岩本)	ICU ・CCU・手術室などにおける生命危機感患者・家族の適切な問題解決のための専門的看護の探究ができ、専門看護師に求められる6つの機能の視点から論述できる。 1. 個人・家族に対する卓越した実践力 2. 看護職者に対するケアの資質向上のための教育的機能 3. 看護職者と他のケア提供者に対する相談機能 4. 円滑なケア提供のための調整機能 5. 専門知識・技術・システム向上開発のための研究 6. 看護ケア提供時の患者・家族に対する倫理的課題解決	
	10	臨地における看護実践から学ぶ－フィールドワーク ER 室の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能 (佐々・岩本)		
	11	事例展開①－ER 室の特徴と看護および救急場面におけるトリアージ (佐々・岩本)		
	12	ICU・ECU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能 (佐々・岩本)		
	13	事例展開①－ICU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能(呼吸器疾患) (佐々・岩本)		
	14	事例展開②－ICU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能(循環器疾患) (佐々・岩本)		
	15	事例展開③－ICU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能(脳神経疾患) (佐々・岩本)		
	16	ECU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能 (佐々・岩本)		
	17	事例展開①－ECU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能(代謝障害:肝不全、腎不全等) (佐々・岩本)		
	18	事例展開②－ECU の特徴と看護領域の専門性と専門看護師の役割機能(急性薬物中毒等) (佐々・岩本)		
	19	各小領域の特殊性から見た専門看護師の実践的課題と援助の分析・評価 (岩本)	各小領域の特殊性から生命危機状況にある患者の看護の実践的課題と援助について分析・評価ができる。	必要文献はその都度提示する。
	20	各小領域の特殊性から見た専門看護師の援助の分析・評価 (岩本)		
	21	各小領域の特殊性から見た患者・家族が抱える問題について調整機能の側面からの検討 (岩本)	各小領域の特殊性から生命危機状態にある患者・家族の心	必要文献はその都度提示する。

	22	各小領域の特殊性から見た患者・家族が抱える問題について相談機能の側面からの検討　(岩本)	理状態のアセスメントと援助について探究し、調整・相談機能の側面から検討することができる。	
	23	各小領域の特殊性から見た患者・家族の倫理的問題 (岩本)	生命危機状態にある患者・家族の倫理的問題について探究し、検討することができる。	必要文献はその都度提示する。
	24	各小領域における専門的なケア実践における患者安全の最近の動向と課題，取組みに関する国内・海外の文献レビューと文献検討　(岩本) 医療事故事例展開①	各小領域の専門的なケア実践における患者安全に対する問題をクリティカルケア（救命・救急，周手術期など）で発生した医療事故事例を分析し，海外文献も含め課題を抽出し、実践的対応策が考察できる。	必要文献はその都度提示する。
	25	各小領域における専門的なケア実践における患者安全の最近の動向と課題，取組みに関する国内・海外の文献レビューと文献検討　(岩本) 医療事故事例展開②		
	26	各小領域における専門的なケア実践における患者安全の最近の動向と課題，取組みに関する国内・海外の文献レビューと文献検討　(岩本) 医療事故事例展開③		
	27	各小領域における専門的なケア実践における教育的関わり　(岩本)	各小領域のいずれかにおいて専門的なケア実践における教育的関わりについて論じることができる。	必要文献はその都度提示する。
	28	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域における専門的ケアに対しての学術的・研究的思考（研究）　(岩本)	患者・家族の生命危機問題及び倫理的課題解決に向けた専門的知識・技術に対しての学術的・研究的に探究し、検討できる。	必要文献はその都度提示する。
	29	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門的なケアを専門看護師の6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)からの学習成果報告①　(岩本・前信)	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門的なケアを専門看護師の6つの役割機能（実践・教育・相談・調整・研究・倫理)から学習した成果が報告できる。	必要文献はその都度提示する。
	30	救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門的なケアを専門看護師の6つの役割機能(実践・教育・相談・調整・研究・倫理)からの学習成果報告②　(岩本・前信)		

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1.既習の講義，演習を踏まえ，救命・救急看護，周手術期看護など各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性について探究・論述できる。 2.ICU ・CCU・手術室などにおける生命危機感患者・家族の適切な問題解決のための専門的看護の探究ができ、専門看護師に求められる6つの機能の視点から論述できる。 3.救命・救急看護、周手術期看護など、各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性について学び、安全に看護が提供できる為の高度な知識・技術が身につく。 4.各小領域の専門的なケア実践における患者安全に対する問題をクリティカルケア（救命・救急，周手術期など）で発生した医療事故事例を分析し，海外文献も含め課題を抽出し、実践的対応策が考察できる。	・学則の評価基準に準ずる。 ・参画態度(10%) ・議論・課題探究状況等（60%） ・課題レポート(30%)	・演繹的学習 ・帰納的学習 ・振り返り ・演習（学内・フィールドワーク） ・ディスカッション等の綜合学習

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
X2052	クリティカルケア看護学実習Ⅰ	2	90	必修	2年前期	岩本由美・藤本和恵 佐々智宏・島内淳二

ねらい

本実習は、クリティカルケア看護専攻分野の以下のような実習目標が達成できるよう実習環境を整え、専門看護師として必要な6つの機能（実践，教育，相談，調整，研究，倫理）について検討でき、質の高いケアを提供する基礎的能力を養うために実施する。

1. クリティカル期の患者の身体的状態について専門的に判断し、必要なケア・処置が計画できる。
2. 患者の苦痛を効果的に緩和し、安楽をはかるための方法が創意・工夫できる。
3. 患者の尊厳を守り、倫理的問題について検討できる。
4. 治療環境の総合的管理についての視点を持つことができる。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
10日間実習 学内4日	実習ガイダンス及び実習施設概要オリエンテーション及び各自の課題設定と調整	生命危機状況にある人の看護をするにあたって自己の課題を明確にし、目標達成のための実習計画が立案できる。	Patricia.G.Morton 他『Essential Critical Care Nursing a Holistic Approach』
	実習方法 学内演習→臨地実習（シャドウイング及び参加観察）→学内帰納的・反省的学習（演習含む）→実習レポート		
	実習内容 **（学内）** 1. 実習目標からクリティカルケア場面を想定したイメージトレーニングを学内で行う。 **（臨地実習）** 1. ICU・CCU 等でクリティカルケアを受けている患者の身体的現象から医学的診断過程及び治療場面の参加観察 2. クリティカル期にある患者のモニタリングと患者・家族への IC 場面への参加 3. クリティカル期にある患者の看護ケア及び看護管理場面への参加及び生命危機状態にある人の健康問題解決のための看護ケアカンファレンスへの参加 4. 患者の回復に伴い患者と共にポストクリティカル期の病棟に移動し、継続的な看護の実践 5. 生命危機状態にある患者の看護場面に参加しながら、多職種の連携・相談・調整の実際を考える。また、各委員会とスタッフ教育・研究の実際に参画。 6. 学生の事例報告を中心とした検討会の実施 **（実習中、実習終了後学内及び自己学習）**	1. 1.生命危機状況にある患者を想定したイメージトレーニングから自身に必要な知識・技術について論述できる。 2. クリティカル期にある患者の治療環境を理解し，医療システムおよび医療チームの中で協働できる。 3. クリティカル期の患者の病態・医学的診断過程及び治療について理解できる。 4. クリティカル期にある患者の身体的な状態について，看護診断ができ必要なケア・処置が計画できる。 5. 患者の苦痛を効果的に緩和し，安楽をはかる方法が創意・工夫できる。 6. クリティカル期にある患者・家族の心理社会的状態について共感でき、クリティカル期にある患者・家族の尊厳を守ための倫理的問題について理解し、検討することができる。 7. 医療チームの中で円滑な医療提供に向けた調整・相談機能の必要性が理解できる。 8. 8. 生命危機状態にある患者の看護場面に参加しながら、多職種の連携・相談・調整の実際を考え、スタッフ教育・研究の必要性について考えることができる。 9. 自己の研究課題を発見し，解決のための報告書を作成することができる。 10. 実習レポートが作成できる。	共通科目・特論・演習で使用した文献は適宜活用する他、必要な文献は自身で検索する。
	11. 参加観察した内容と帰納的学習から問題解決に向けた自己の課題探求（学内）		文献は適宜活用する他、必要な文献は自身で検索する。
	実習期間；2年次前期に学内・臨地含め２週間		
	実習施設； **1 広島大学附属病院** **2.日本医科大学付属病院** **指導体制；** 1. 本実習は基本的にシャドウイングと参加観察であり、担当教員に週 1 回以上のスーパービジョンを受ける。 **2.** 実習施設における実習指導者から、随時、適切な助言・指導をうける。 **3.** 臨地実習指導者と指導教員が緊密に連絡を取り合い、実習到達目標を考慮しながら指導を行う。		

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1. クリティカル期にある患者の治療環境を理解し,医療チームの中で協働できる。 2. 患者の身体状態について高度な知識に基づいた看護診断ができ、ケア計画が立案できる。 3. 患者及び家族の全人的な苦痛を効果的に緩和するために、看護実践方法の創意・工夫ができる。 4. 看護職者に対しケアを向上させるための教育的機能について検討できる。 5. 看護職を含むケア提供者に対しての相談機能について検討できる。 6. 医療チームの中で円滑な医療提供に向けた調整・相談機能の必要性が理解できる。 7. 患者・家族の倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整について検討できる。 8. 自己の研究課題を発見し、専門看護師としての課題解決のための報告書を作成することができる。	・クリティカルケア看護学実習Ⅰの評価表に沿って実習の達成度を評価する。 ・ディスカッションや口頭試問 ・レポート ・以上、実習態度なども含め、学則の評価基準に準じて総合的に判断する。	演繹的・帰納的学習による問題解決型学習と探求が基本 1. 実習計画の作成は学生が行う。 2. 学内演習イメージトレーニング救命救急援助技術演習 3. 臨地実習（見学・カンファランス場面・スタッフ教育場面参加含む） 4. スーパービジョンやディスカッション 5. 実習終了後の振り返り学習 6. 研究課題の発見と課題解決に向けた実習レポート提出

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	クリティカルケア看護学実習Ⅱ	4	180	必修	2年 通年	岩本由美・前信由美 佐々智宏・島内淳二 中山智代美・戸田美和子

ねらい

本実習は、クリティカルケア看護専攻分野の以下のような実習目標が達成できるよう実習環境を整え、専門看護師として必要な6つの機能（実践，教育，相談，調整，研究，倫理）を有した質の高いケアを提供する能力を養うための実習を展開する。

1. クリティカル期の患者の医学的診断過程及び治療について理解し，重症度・優先度が判断でき、医療チームと協働できる。
2. 患者の健康問題に応じて必要なケア・処置が計画でき、患者の苦痛を効果的に緩和させる方法を用いて実践することができる。
3. 看護職者に対するケアの質の向上のための教育プログラムが立案でき、教育実践できる。
4. 患者の人権擁護のためにすすんで発言し，最適医療の提供にむけて状況改善の努力を行い、患者・家族が最善の選択をおこなえるよう援助することができる。
5. クリティカル期の患者の治療・看護環境における知的・人的・物的管理の方法について探究し、検討できる。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
20日間の実習（5日間学内）	各自の課題設定と実習計画の策定	実習目標達成に向けた実習計画が立案できる。	Patricia.G.Morton 他『Essential Critical Care Nursing a Holistic Approach』
	実習方法：本実習は、学内演習→臨地実習（受け持ち患者の看護過程の展開及び参加観察）→学内帰納的・反省的学習（演習含む）を実施する。		
	実習内容 **（学内）** 1. 実習目標からクリティカルケア場面を想定しシミュレーショントレーニング 2. クリティカル期にある患者の看護場面と参加観察した内容のフイールドノートの内容分析と専門看護師の6つの機能からの探求から自己の課題の明確化と実習計画の修正	1. クリティカル期にある患者の治療環境及び生命危機場面を想定したシミュレーション計画を立て、実践できる。 2. クリティカル期にある患者の医学的診断過程及び治療場面で、重症度・優先度が判断でき、医療チームの中で専門職者として適切な役割行動がとれる。 3. クリティカル期の患者の身体的状態について専門的に判断し、必要なケア・処置における実践で患者の苦痛を効果的に緩和し、安楽をはかることができる。 4. 看護職者に対するケアの質の向上のための教育プログラムが立案でき、教育実践できる。 5. クリティカル期にある患者・家族の尊厳を守り，人権擁護のためにすすんで発言し，最適医療の提供にむけて状況改善の努力を行い、患者・家族が最善の選択をおこなえるよう援助することができる。 6. 各部門と協力し，協働して患者・家族に引き起こされている問題解決に取り組むことができる。 7. クリティカル期にある患者のケア場面かを研究的視点から内容分析を行い、ケアの質向上に向けた検討ができる。 8. 専門看護師に要求されている卓越した実践力・教育力・相談力・調整力・研究実践力・倫理的課題解決力を含めた探求ができる。 実習レポート: クリティカル期にある患者のケア場面へ参加した内容の必要なデータから問題解決のための方法及び専門的な技術について探究した報告書が作成できる。	共通科目・特論・演習で使用した文献は適宜活用する他、必要な文献は自身で検索する。
	（臨地実習） 1. ICU・CCU 等生命危機状態にある人の医学的診断過程及び治療場面への参加 2. 生命危機状態にある人のモニタリングと患者・家族へのIC場面への参加 3. クリティカル期にある患者の看護ケア及び看護管理場面への参加及び生命危機状態にある人の健康問題解決のための看護ケアの実践 4. 患者の回復に伴い患者と共にポストクリティカル期の病棟に移動し、継続的な看護の実践 5. クリティカル期にある患者の看護場面及びカンファレンスへ参加しながら、多職種の連携・相談・調整の実際を考える。また、各委員会とスタッフ教育・研究の実際に参画する。 6. 生命危機状態にある人のケア場面を参加観察した内容をフイールドノートに記載、必要なデータを収集し、整理する。 **（実習中、実習終了後学内及び自己学習）** **実習期間:２年通年、学内・臨地含め４週間** **実習施設；** **1.広島大学病院** **2.岡山医療センター** **3.倉敷中央病院** **4.日本医科大学付属病院**		
	指導体制； 1. 本実習では基本的に受け持ち患者2名以上の看護展開を行い、担当教員に週 1 回以上のスーパービジョンを受ける。 **2.** 実習施設における実習指導者から、随時、適切な助言・指導をうける。 **3.** 臨地実習指導者と指導教員が緊密に連絡を取り合い、実習到達目標を考慮しながら指導を行う。		文献は適宜活用する他、必要な文献は自身で検索する。

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1. クリティカル期にある患者の治療環境を理解し、医療チームの中で協働できる。 2. 患者・家族について高度な知識に基づいた看護診断ができ、ケア計画が立案できる。 3. 患者及び家族の全人的な苦痛を効果的に緩和するために、看護実践方法の創意・工夫ができ、実践できる。 4. 看護職者に対しケアを向上させるための教育的機能が果たせる。 5. 看護職を含むケア提供者に対しての相談機能が果たせる。 6. 医療チームの中で円滑な医療提供に向けた調整・相談機能が果たせる。 7. 患者・家族の倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整ができる。 8. クリティカル期にある患者のケア場面へ参加した内容から専門知識・技術の向上のために実践の場で研究活動を行い、事例研究報告書が作成できる。	・クリティカルケア看護学実習Ⅱの評価表に沿って実習の達成度を評価する。 ・ディスカッションや口頭試問 ・レポート ・実習態度などから学則の評価基準に準じて総合的に判断する。	演繹的・帰納的学習による問題解決型学習と探求が基本 1. 実習計画の作成は学生が行う。 2. 学内演習イメージトレーニング救命救急援助技術演習 3. 臨地実習（見学・カンファランス場面・スタッフ教育場面参加含む） 4. スーパービジョンやディスカッション 5. 実習終了後の振り返り学習 6. 研究課題の発見と実習レポートの提出

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x 2054	クリティカルケア看護学実習Ⅲ	4	180	必修	2年通年	岩本由美・前信由美 佐々智宏・島内淳二 戸田美和子

ねらい

本実習は、クリティカルケア看護専攻分野の以下のような実習目標が達成できるよう実習環境を整え、専門看護師として必要な6つの機能（実践，教育，相談，調整，研究，倫理）を有した質の高いケアを提供する能力を養うための実習を展開する。

1. クリティカル期の患者の重症度・優先度が即座に判断でき、ケアとキュアを融合した高度な看護が実践できる。
2. クリティカル期の患者の身体的・精神的状態を適切にアセスメントし、患者の苦痛を効果的に緩和し、安楽をはかることができる。
3. 看護および医療の質の向上のための教育プログラム計画が立案・実践できる。
4. 患者の人権擁護のために各部門と協力・協働し、患者家族に引き起こされている問題の解決のためにすすんで発言し、患者・家族が最善の選択をおこなえるよう倫理的側面から援助することができる。
5. クリティカル期の患者の治療・看護の環境について総合的に管理・調整できる。
6. クリティカルケア場面で働く組織・職員・対象者のニーズをアセスメントし，看護および医療の質の向上のための提案を考えることができる。

教育内容

授業概要		授業到達目標	使用図書等
20日間の実習　学内5日間	各自の課題設定と調整	既習学習を想起して専門看護師としての自己の課題から、本実習の計画が立案できる。	
	実習方法； 学内演習→臨地実習（受け持ち患者の看護過程の展開及び参加観察）→学内帰納的・反省的学習（演習含む）と進め、実習を展開する。	1. クリティカル期の患者の病態に合わせた一次・二次救急救命活動が学内演習で実践でき、自己の実践的課題が明確化できる。 2. クリティカル期の患者の重症度・優先度が判断でき、ケアとキュアを融合した高度な看護が実践できる。 3. クリティカル期の患者の身体的・精神的状態を適切にアセスメントし、必要なケア・処置における実践で患者の苦痛を効果的に緩和し、安楽をはかることができる。 4. クリティカル期の患者の治療・看護環境における人的・物的管理が適切にできる。 5. クリティカルな状況の中で患者・家族が最善の選択をおこなえるよう倫理面から援助することができる。 6. 患者の人権擁護のために各部門と協力し，協働して患者・家族に引き起こされている問題解決のために進んで発言することができる。 7. 対象あるいは医療従事者との会話等から問題点を推測し，クリティカルケア場面で働く組織・職員・対象者のニーズをアセスメントし，看護および医療の質の向上のための提案を考えることができる。 8. クリティカル期にある患者の治療環境が理解でき、求められている看護ケアを想定し、シミュレーション計画を立て、教育実践することができる。 実習レポート: 専門看護師に要求されている卓越した実践力・教育力・相談力・調整力・研究活動力・倫理的課題含め学術・研究的側面から探求した報告書が作成できる。	Patricia.G.Morton 他『Essential Critical Care Nursing a Holistic Approach』
	実習内容 **（学内）** 1. 実習目標からクリティカルケア場面を想定し救命場面のシミュレーショントレーニング。 2. クリティカル期の患者のケア場面へ参加した内容から必要なデータを収集し、整理し、学術・研究的側面からの探求。		共通科目・特論・演習で使用した文献は適宜活用する。他、必要な文献は自身で検索する。
	臨地実習 1. クリティカル期の患者の医学的診断過程及び治療場面への参加 2. クリティカル期の患者のモニタリングと患者・家族へのIC場面への参加 3. クリティカル期の患者の看護ケア及び看護管理場面への参加及び生命危機状態にある人の健康問題解決のための看護ケアの実践 4. 患者の回復に伴い患者と共にポストクリティカル期の病棟に移動し、継続的な看護の実践。 5. 看護・治療環境の管理場面及び会議への参加 6. クリティカル期の患者にある患者・家族へのIC場面及びカンファレンスへの参加。 7. 多職種の連携・相談・調整・管理の実際を考えるため各種委員会への参加とスタッフ教育プログラム立案と実施。 （実習中、実習終了後学内及び自己学習）		
	実習期間:２年通年、学内・臨地含め 4 週間 実習施設: 1. 広島大学病院 2. 倉敷中央病院 3. 日本医科大学付属病院		

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	1. 患者･家族または集団に対してケアとキュアを融合した高度な看護実践を医療チームの中で協働できる。 2. 患者・家族について高度な知識に基づいた看護診断ができ、ケア計画が立案できる。 3. 患者及び家族の全人的な苦痛を効果的に緩和するために、看護実践方法の創意・工夫ができ、実践できる。 4. 看護職者に対しケアを向上させるための教育的機能が果たせる。 5. 看護職を含むケア提供者に対しての相談機能が果たせる。 6. 医療チームの中で円滑な医療提供に向けた調整・相談機能が果たせる。 7. 患者・家族の倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理的調整ができる。 8. 専門看護師に要求されている卓越した実践力･教育力･相談力･調整力･研究活動力･倫理的課題含め学術･研究的側面から探求した事例報告ができる。	･クリティカルケア看護学実習Ⅲの評価表に沿って実習の達成度を評価する。 ･ディスカッションや口頭試問 ･レポート ･実習態度などから学則の評価基準に準じて総合的に判断する。	演繹的･帰納的学習による問題解決型学習と探求が基本 1. 実習計画の作成は学生が行う。 2. 臨地実習（見学･カンファランス場面･スタッフ教育場面参加含む） 3. スーパービジョンやディスカッション 4. 学内演習実習終了後の振り返り学習 5. 実習レポートの提出

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2057	高齢者看護学特論Ⅰ （高齢者看護の基盤）	2	30	必修	前	奥田泰子・松本啓子・北木弥生

ねらい	1．高齢者看護の基盤となる諸理論やモデルを系統的に学び、老年期を生きる人々へのケアの質向上に貢献する基盤を作る。 2．老年期に起こりやすい倫理的課題に対し、高齢者の尊厳を重視した看護が展開できる能力を養う。 3．老人看護専門看護師として求められる役割・機能を理解し、臨床での実践応用に向けた自己の学習課題を見出す。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	高齢者看護の基本 高齢者看護の理念、目標 高齢者看護の役割 （奥田）	高齢者看護の基本をもとに看護実践活動の特徴を述べることができる。	・系統看護学講座専門分野Ⅱ老年看護学、医学書院
2	老年期を生きる人々の特徴理解 1．ライフサイクルにおける老年期の理解 ・発達課題 ・適応理論 （奥田）	ライフサイクルからみた老年期の特徴と発達課題を理解できる。	・エリクソン/朝永正徳ほか訳：老年期、みすず書房
3	2．エイジングとは 活動理論、離脱理論、老年的超越 （奥田）	エイジングについて、諸理論を用いて多角的視に理解できる。	・富沢公子訳；老年的超越、晃洋書房
4	3．老年期における高齢者の心理 （奥田）	エイジングによる心理的変化を理解することができる。	佐藤眞一、ほか著：よくわかる高齢者心理学、ミネルバ書房
5	老年期における健康の概念 ・健康生成論と SOC 理論 ・健康の評価 （松本）	健康の概念を理解し、老年期の健康について多角的視点で評価して、老年期を生きる人々の適応への支援について述べることができる。	・山崎喜比古ほか監訳；健康の謎を解く、有信堂 ・山崎喜比古ほか編；ストレス対処力 SOC,有信堂
6	老年期の健康の在り方 ・サクセスフル・エイジング ・プロダクティブエイジング ・ヘルスプロモーション （松本）		
7	QOL の概念 1．老年期の QOL （松本）	QOL の一般概念および高齢者の QOL の特徴を理解し、高齢者への看護目標としての視点を持つ。	圓増文：共通の価値に基づく QOL 概念の再検討、生命倫理 Vol.24No.1,ほか
8	2．認知症高齢者の QOL （松本）	認知症高齢者の QOL を理解し、看護実践で活用する視点を述べることができる。	鈴木みずえほか：認知症高齢者の QOL 概念・評価尺度の動向と今後の研究の課題、看護研究、ほか
9	高齢者看護における倫理的課題 （1） ・倫理原則 ・看護師の倫理綱領 ・エイジズム （奥田）	倫理原則や看護師の倫理綱領の基本を学修するとともに、高齢者の「エイジズム」とは何かを学修し、高齢者の尊厳を支える看護の在り方を検討することができる。	会田薫子：延命医療と臨床現場、東京大学出版会 サラ T.フライほか著/片田範子ほか訳：看護実践の倫理
10	高齢者看護における倫理的課題(2) ・高齢者の虐待防止 ・身体拘束・身体抑制禁止 ・倫理的意思決定支援 （奥田）	臨床現場で発生しやすい高齢者の倫理的課題である虐待や拘束に関する基本的知識を修得する。また、倫理的意思決定支援の基本を理解し、実践事例を通して高齢者の尊厳を支える看護実践に向けた支援方法を検討することができる。	清水哲郎ほか編：臨床倫理の考え方と実践、東京大学出版会

	11	高齢者看護の理論やモデルの活用 1．セルフケア論 ・ヘンダーソン看護理論 ・オレムのセルフケア理論 （奥田）	高齢者看護に活用できる理論やモデルの基本を理解し、看護実践への適用方法を実践事例を通して説明することができる。	・ｺﾆｰ M.ﾃﾞﾆｽ：オレム看護論入門、医学書院
	12	2. コルカバのコンフォート理論 （奥田）		・コルカバコンフォート理論、医学書院
	13	老人看護専門看護師養成の教育課程 制度設立と求められる役割・機能 本学のカリキュラムとの関連 （奥田）	専門看護師教育養成課程および求められる役割と機能を理解し、自己の学習姿勢・学習目標を明文化することができる。	・本大学院教育課程 ・井部俊子ほか監修：専門看護師の思考と実践、医学書院
	14	老人看護専門看護師としての機能と役割 老人看護専門看護師の実践・相談（コンサルテーション）・倫理調整の事例検討 （北木）	老人看護専門看護師による臨床での実践活動から具体的役割を考察し、自己の学習課題を明確にすることができる。	・鶴若麻理ほか：看護師の倫理調整力、日本看護協会 ・ﾊﾟﾄﾘｼｱ R.ｱﾝﾀﾞｰｳｯﾄﾞ：コンサルテーションの概要―コンサルタントの立場から、INRVol18、No5,p4-12（資料）
	15	老人看護専門看護師の調整（コーディネーション）、教育、研究の臨床実践事例検討 （北木）		
	16	総括・レポート提出 （奥田）	本科目の学習を振り返り、老人専門看護師として、高齢者（その家族を含む）への尊厳のある、質の高い看護実践をするための自己の学習課題をまとめる。	

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	高齢者看護の基盤となる諸理論を理解し、高齢者とその家族への倫理的課題を視野に入れた看護実践での活用方法をまとめることができる。また、専門看護師の役割・機能を理解し、看護実践での自己の課題を明確にすることができる。	1．課題発表・討論への参画状況・レポート作成を総合的に評価する。 2．評価点は、S（100～90 点）、A（89～80 点）、B（79～70 点）、C（69～60 点）、D（59 点以下）とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1．課題発表・討論により授業を進める。 2．履修に当たっては自己学習が必要である。 3．事前学習：書籍、文献を活用した発表資料の作成 4．事後学修：討議内容をふりかえり、文献学修により発表資料の追加・修正をする。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2058	高齢者看護学特論Ⅱ （高齢者の健康生活評価）	2	30	CNS 必修	前	奥田泰子・北木弥生 加藤愛子

ねらい	1.老人看護専門看護師に求められる高齢者の健康生活評価を適切に行うために必要な知識・技術を修得する科目である。 2.高齢者の健康生活を包括的にアセスメントするために多角的に情報を取集し、各種評価ツールを適切に活用して総合的に査定し、高齢者にとってより良い健康状態やその人らしい生活の実現に向けた看護実践を提供するための看護計画を立案する能力を養う。 3・老年期に起こりやすい症状の実践事例を通して、老人看護専門看護師としてのアセスメントの視点を養う。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	高齢者の健康生活機能評価 ・高齢者総合機能評価（CGA）の意義 （奥田）	高齢者医療において、高齢者と家族の視点に立ち、疾患と生活機能障害を評価して高齢者の生活の質向上に向けた包括的アプローチを医療チームで推進する必要性を理解する。	・鳥羽健二著；高齢者の生活機能の総合的評価 ・鳥羽健二監修：長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班著：高齢者総合的機能評価ガイドライン（厚生科学研究所） ・ジョセフ・ジェイ・ガロほか：高齢者アセスメントマニュアル、メディカ出版 ・メアリー・A・マテソンほか：看護診断に基づく老人看護学1、医学書院。
	2	高齢者の包括的アセスメント 1）日常生活動作のアセスメント ・日常生活活動能力指標 ・基本的 ADL,IADL の評価 （奥田）	加齢や疾患による日常生活への影響をアセスメントするために、各種アセスメント用具の基本を理解し、適切に活用して評価することができる。	
	3	2）認知機能のアセメント ・認知機能の評価 （奥田）	加齢による精神機能の低下が日常生活に及ぼす影響を理解する。 認知機能を評価する用具の基本を理解したうえで適切に活用できる。	
	4	3）心理・社会的アセスメント ・閉じこもり ・意欲 ・生活満足度、幸福感　（奥田）	高齢者が置かれた社会的環境の中で、心理的安寧や、生活の満足感・幸福感などの評価用具を理解し適切に活用できる。	
	5	4）社会生活の評価 ・コミュニケーション ・ソーシャルネットワーク評価 ・家族介護者のアセスメント ・高齢者虐待の評価　（奥田）	社会的存在として、高齢者の置かれた状況を評価するためのアセスメント用具の活用を理解する。	
	6	高齢者の生活機能に焦点を当てた看護過程の展開 （1）国際生活機能分類（ICF） ・ICF 生活機能評価モデル （奥田）	ICF の基本理念を理解し、高齢者看護に活用する視点を持つことができる。 また、ICF モデルの各要素を理解して、複雑性・多様性のある高齢者の生きることを支援する看護計画立案の視点が持てる。	・上田敏：ICF の理解と活用：きょうされん ・諏訪さゆりほか：ケアプランに生かす ICF の視点：日総研 ・関永信子：ICF モデルを用いた在宅看護過程の展開
	7	（2）ICF の各要素 ①心身機能・構造 ②活動 ③参加 ④環境因子 ⑤個人因子　（奥田）		
	8	（3）ICF モデルに基づく高齢者のアセスメント ・模擬事例に ICF モデルを活用する ＊医療機関に入院中の高齢者模擬モデルを用いたアセスメントの実施 （奥田）		

	9	高齢者の生活機能に焦点を当てた看護過程の展開 (2)生活行動モデル ・高齢者にとって生活機能 ・高齢者の生活行動の捉え方 （奥田）	高齢者看護において生活機能を重視してアセスメントをする必要性を理解する。また、高齢者にとっての生活行動の捉え方を理解する。	・山田律子ほか：生活機能からみた老年看護過程、医学書院 ・六角涼子：アセスメントから始まる高齢者ケア
	10	・生活行動の各情報 ①活動 ②休息 ③食事 （奥田）	高齢者の各生活行動の考え方やアセスメントの視点を理解し、ポイントをまとめることができる。	
	11	④排泄 ⑤身支度 ⑥コミュニケーション （奥田）		
	12	＊施設入所中の高齢者模擬モデルを用いたアセスメントの実施 （奥田）	モデルの特徴を生かし、高齢者の QOL 向上を目指した看護計画立案に向けての具体的なアセスメントができる。	
	13	高齢者に起こりやすい症状の実践事例 ①尿失禁等、排尿障害がある高齢者の事例検討 （加藤）	老年期に起こりやすい症状について、病態生理の基本的知識に加え、必要な評価ツールを用いてアセスメントする要点をまとめる。また、各症状別に実践での具体的事例を用い、高度な看護実践に向けた専門看護師の視点を考察できる。	・実践事例をもとにプレゼン・ディスカッション
	14	②神経障害のある高齢者の事例検討 （加藤）		
	15	③意識障害のある高齢者の事例検討 （北木）		
	16	総括・レポート提出 （奥田）	本科目の学習を振り返り、高齢者の健康面・生活面・環境面・社会面を包括的にアセスメントし、高齢者にとって望ましい生活を支える看護実践を計画するうえで、専門看護師としての自己の実践課題を明確にする。	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	高齢者の身体的・精神的・社会的側面の包括的アセスメントの方法を理解し、実践事例をもとに専門看護師としての高度な看護実践に向けた看護計画立案に活用できる。	1.学生の課題発表・レポート作成・討論への参画状況などで評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.講義と演習により、包括的アセスメントの理解を深める。 2.学生の課題レポート作成・発表・討論により、学習する。 3.履修にあたっては事前・事後の自己学習が必要である。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2059	高齢者看護学特論Ⅲ （高齢者の疾患と検査、治療）	2	30	CNS必修	前	土肥敏博・奥田泰子

ねらい	1. 老人看護専門看護師に求められる、加齢による生理学的変化と疾患の検査・治療の基本的知識を修得し、高齢者の健康問題を適切にアセスメントする能力を養う科目である。 2. 高齢者に発生頻度の高い疾患や老年症候群の検査・治療（薬物療法を含む）および介護予防について理解を深め、ケアとキュアを統合した高度な看護実践に活用する能力を養成する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	加齢による心血管系・循環器系の変化と疾患の特徴 1．高血圧・動脈硬化・不整脈の検査と治療（土肥）	加齢による心血管系・循環器系の変化と高齢者に多い疾患の検査・治療の基本を理解し、看護実践に活用するためのアセスメントの要点をまとめる。	講義時別途提示 系統看護学講座、専門分野Ⅱ　老年看護病態・疾病論　第5版　医学書院、 日本老年医学会編集：老年医学　系統口座テキスト　西村書店
2	2．虚血性心疾患の検査・治療（土肥）		
3	3．脳血管疾患の検査と治療（土肥）		
4	加齢による呼吸器系の変化と疾患の特徴 1．慢性閉塞性肺疾患の検査と治療（土肥）	加齢による呼吸器系の変化と高齢者に多い呼吸器系疾患の検査・治療の基本を理解し、看護実践に活用するためのアセスメントの要点をまとめる。	
5	2．肺炎・気管支炎・肺がんの検査と治療（土肥）		
6	加齢による消化器系の変化と疾患の特徴 1．上部消化管疾患 （逆流性食道炎、食道がん）（土肥）	加齢による消化器系の変化と高齢者に多い消化器系疾患の検査と治療の基本を理解し、看護実践に活用するためのアセスメントの要点をまとめる。	
7	2．下部消化管疾患 （大腸がん、大腸ポリープ、便秘）（土肥）		
8	加齢による筋骨格系の変化と疾患の特徴 1．骨粗鬆症、変形性関節症の検査と治療（土肥）	加齢による筋骨格系の変化と高齢者に多い筋骨格系疾患の検査と治療の基本を理解し、看護実践に活用するためのアセスメントの要点をまとめる。	
9	2．関節リウマチの検査と治療（土肥）		
10	加齢による神経系の変化と疾患の特徴 1. パーキンソン症候群の神経学的検査と薬物治療（土肥）	加齢による神経系の変化と高齢者に多い神経系疾患の検査と治療を理解し、看護実践に活用するためのアセスメントの要点をまとめる。	
11	2. 認知症の検査と薬物療法（土肥）		
12	老年症候群の予防・検査・治療 1. 老年症候群と介護予防の概念 2. 廃用症候群の予防（奥田）	老年症候群および介護予防の概念や廃用症候群予防について理解し、看護実践への方向について述べることができる。	改訂版　健康長寿診療ハンドブック、日本老年医学会
13	3. フレイルの検査・予防・治療 （サルコペニア、低栄養）（奥田）	フレイルサイクルを理解し、薬物療法、栄養・運動療法などを含め包括的アプローチについてまとめることができる。	
14	4. うつとせん妄（奥田）	うつやせん妄の発症要因を理解し、その予防や発症後のケアについてまとめることができる。	
15	5. 転倒・骨折（奥田）	老年期における歩行障害や動作緩慢から転倒・骨折を予防するためのスクリーニングやケアについてまとめることができる。	
16	総括・レポート提出 （奥田・土肥　）	高齢者に発生頻度の高い疾患や老年症候群の検査・治療の学びから、複雑な健康問題を持つ高齢者への自立支援・生活支援に向けた看護実践に活用できる看護アセスメントの冊子を作製する。	

	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価	高齢者に発生頻度の高い疾患や老年症候群の検査・治療（薬物療法を含む）及び介護予防について理解を深め、看護実践で活用するためのアセスメントの要点をまとめることができる。	1.学生の課題発表・レポート作成・討論への参画状況などで総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A（89～80 点）、B(79～70 点)、C（69～60 点）、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.講義と院生によるプレゼンテーション・ディスカッションを中心に授業を行う。 2.院生は事前に書籍等を参考に自己学習により課題をまとめ・発表・討論により学修を深める。 3.履修にあたっては事前・事後の自己学習が必要である。

教科目No.	教科目名	単位	時間	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	高齢者看護学特論Ⅳ （高齢者と家族）	2	30	CNS 必修	前	奥田泰子・加藤愛子 佐々木由紀

ねらい	1. 高齢者とその家族に対する老人看護専門看護師の役割・機能を学修する科目である。 2.複雑かつ多様な高齢者とその家族に対し、高度な看護判断、倫理的判断に基づき、人生の最終段階を生きる高齢者がその人らしく心地よい状態で生き抜くための看護実践能力を養成する 3. 高齢者とその家族に対し、エンド・オブ・ライフ・ケアの視点をもち、QOL を高める日常生活ケアを提供するとともに、必要に応じた家族への教育的視点を養成する。 4. 老人看護専門看護師に求められる看護実践での連携・調整やチーム医療を推進する能力を養成する。

		授 業 概 要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	1	看護学における家族の理解 ・家族の概念と機能 ・家族の健康の概念 ・家族を理解するための諸理論 （奥田）	看護における家族についての基本知識を理解する。	講義時別途提示 先行文献 ・鈴木和子ほか著；家族看護学、日本看護協会出版会 ・桑田美代子ほか：超高齢者の緩和ケア、南山堂 経過別成人看護④終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア、メヂカルフレンド社 ・鶴若麻理ほか：看護師の倫理調整力、日本看護協会出版会 赤林朗ほか監修：臨床倫理学臨床医学における倫理的意思決定のための実践的なアプローチ、新興医学出版社 ｱﾝﾄﾞﾚｱ・ｽﾄﾚｲﾄ・ｼｭﾗｲﾅｰ監修：QOL を高める専門看護、介護を考える、中央法規
	2	高齢者を介護する家族の現状と課題 ・世帯構成の変化 ・高齢者を介護する家族の健康問題 ・介護家族の心理 ・介護家族のストレスと負担感 （奥田）	現代の家族形態や家族機能および健康問題を持つ高齢者とその家族の課題について検討し、家族介護力・家族のストレスや負担感を検討することができる。述べることができる。	
	3	エンド・オブ・ライフ・ケア（ELC） ・エンド・オブ・ライフケアの定義や関連する用語 ・エンド・オブ・ライフケアの看護実践における 6 つの構成要素 （佐々木）	エンド・オブ・ライフケアの定義や関連する用語を整理し、高齢者におけるエンド・オブ・ライフケアの特徴を述べることができる。	
	4	・高齢者のエンド・オブ・ライフケアの特徴 エンド・オブ・ライフ・ケアの実際 （佐々木）	実践事例をもとに、人生の最終段階を生きる高齢者へのエンド・オブ・ライフケアへの実践活用を検討できる。	
	5	倫理的意思決定支援 1）リビングウイルから ACP （佐々木）	高齢者の意思を尊重した意思決定支援の必要性と具体的実践方法が理解でき	
	6	2）倫理的課題分析 ・臨床倫理の 4 分割 （佐々木）	臨床における倫理的課題の分析方法を理解する。	
	7	3）倫理的意思決定支援の実際 ＊（院生の実践事例をもとに支援の実際を振り返り、考察する） （佐々木）	実践事例をもとに、高齢者・家族の意思を尊重した倫理的意思決定支援の具体的方法が説明できる。	
	8	QOL を高める日常生活ケアと家族支援	加齢による心身機能の低下により自立生活が困難な高齢者に対して、本人の意思を尊重して自己選択、自己決定を促し、介助にあたっては自立支援に向けた日常生活ケアの必要性を理解する。 また、在宅で高齢者の介護をする家族への教育的視点が持てる。	
		1. 姿勢・移動・体位変換 （奥田）	生活行動の基本となる行動であり、適切なアセスメントに基づき安全で高齢者の生きる意欲を促す活動を支援する。	
	9	2. 全身の清潔 ・皮膚の清潔 ・頭髪の清潔 ・整容 （奥田）	個人に合った清潔援助の方法を自己選択・自己決定により選択し、安全で快適にできる具体的方法を提示できる。	

	10	3. 口腔ケア （奥田）	高齢者の口腔の特徴や口腔ケアの意義を理解し、対象者に合ったケアを計画できる。特に、義歯の洗浄方法や口から摂取できない人への口腔ケアの必要性を理解し、家族への教育ができる。	
	11	４．排泄ケア （奥田）	高齢者に起こりやすい排泄のトラブルを理解し、プライバシーや尊厳を守り、気持ちよく排泄できるケア実践の具体的方法が提案できる。	
	12	5. 食事ケア ・食べる環境 ・食物の内容 ・自分で食べる支援（介助） （奥田）	食事をすることが日常生活において重要な役割があることを基本に、各自に合った自分らしく、楽しく食事ができる支援の視点が持てる。	
	13	6. 睡眠・休息のケア ・高齢者の睡眠パターン ・睡眠を阻害する要因と対策 （奥田）	高齢者の睡眠のパターンを理解し、睡眠を阻害する要因への対策を講じ、睡眠や休息を適切にとって日々の生活への活力を持てる援助を検討することができる。	
	14	老人看護専門看護師の役割・機能（1） 医療機関で高齢者へのチーム医療の実践事例から ・多職種連携の必要性 ・多職種連携における看護師の役割 （加藤）	チーム医療を推進するための教育・相談・調整の機能について理解でき、自己の課題を明確にできる	
	15	老人看護専門看護師の役割・機能（2） 医療機関での高齢者看護への課題 ・看護師の倫理的課題の事例 ・看護師からのケアに関する相談の事例 （加藤）	専門看護師として、高齢者への看護問題に対し、看護師からの相談に応じてコンサルテーション技法を用いた展開方法を理解し、自己の課題を明確にすることができる。	
	16	総括・レポート提出 （奥田）	複雑かつ多様な高齢者と家族の抱える問題に対し、エンド・オブ・ライフ・ケアの視点に基づき倫理的判断や倫理調整に関する高度な看護実践についてまとめる。	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	複雑かつ多様な高齢者とその家族の抱える問題に対して、エンド・オブ・ライフケアの視点を踏まえて、倫理的判断や調整を重視した高度な老年看護の実践が提案できる。 また、加齢に伴う心身機能の低下がある高齢者に対し、QOL を高める日常生活ケアの提供とともに家族への教育的視点を獲得できる。	1. プレゼンテーション、レポート等の状況により評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.先行文献、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション等、多様な方法で学習する。 2. 履修に当たっては自己学習が必要である。 3. 事前学習：書籍、文献を活用した発表資料の作成 4. 事後学修：討議内容をふりかえり、文献学修による発表資料を追加・修正する。

教科目No.	教科目名	単位	時間	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	高齢者看護学特論Ⅴ （高齢者制度・政策とサポート）	2	30	CNS 必修	前	奥田泰子・棚﨑由紀子 久常節子・川本雪江 藤元歩

ねらい	1.老人看護専門看護師として、高齢者保健・医療・福祉制度や政策の現状（日本、諸外国）および高齢者のサポートシステムの現状を理解し、高齢者とその家族が安心して質の高い生活を送るための保健医療福祉サービスの知識を修得する。 2. 現行の制度で不足する高齢者に必要なサポートシステムを組織化し活用する方法を学修する。 3. 保健医療福祉関係者との相談、調整、教育をとおしてチーム医療を円滑に推進する能力を養う。

		授業概要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	1	高齢者に関する保健・医療・福祉制度 1）我が国の保健医療福祉制度の歴史的変遷 ①老人福祉法 ②高齢者医療制度の変遷から後期高齢者医療制度 （棚﨑）	高齢者に関する保健・医療・福祉政策や法制度の変遷について理解し、諸外国の制度と比較して我が国の課題を検討することができる。	講義時別途提示 高齢社会白書
	2	2）スウェーデンにおける高齢者保健・医療・福祉制度 （棚﨑）		
	3	我が国の政策構築過程と高齢者看護への課題 1） 高齢者保健・医療・福祉制度の政策構築過程 （久常）	人口動態や社会情勢をもとに制度・政策ができる過程を理解する。	久常節子著:『にわか役人奮闘記』Gakken 久常節子著:『かんごとはどんな仕事か』勁草書房
	4	2）制度・政策運用による高齢者への効果 （久常）	高齢者に質の高い看護を提供するための課題と政策への展望を検討できる	
	5	高齢者へのサポートシステム 1）サポートシステムの基本 ・手段的サポートと情緒的サポート ・フォーマルサポートとインフォーマルサポート ・高齢者ケアサポートシステムの活用 （藤元）	高齢者へのサポートシステムの基本を理解するとともに、高齢者・家族のニーズに適したサポートを検討することができる。	
	6	2）サポートシステムの構築 ＊サービス開発に関する会議に参加 （藤元）	地域診断により高齢者に不足するサポートシステムを特定し、地域住民や関連する職種と協同してサポートシステムを組織化し活用できるように開発する。	
	7	介護保険制度の体系と最新の動向 1）介護保険法の理念 2）介護保険制度の仕組み （奥田）	介護保険制度設立の背景や介護保険法の基本理念、および現行制度の仕組みを理解し、最新の動向や課題を検討できる。	
	8	3）介護保険サービスの種類 4）ケアプラン作成の基本 5）サービス利用方法 （奥田）	介護保険サービスの種類および具体的利用方法を理解し、現行における課題を検討できる。	
	9	認知症に関連する施策 ・認知症関連施策と歴史的背景 ・認知症疾患医療センター ・認知症初期集中支援チームの活動 （藤元）	認知症高齢者に対する施策の歴史的変遷や認知症高齢者を支援する様々な活動を理解する。	
	10	地域包括ケアシステム 地域包括ケアシステムとは 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割 （藤元）	高齢者が住み慣れた地域で尊厳ある生活を継続するための地域包括システムについて知識を深め、認知症高齢者の生活の質を整えるための視点を考察できる。	・厚生労働省 HP 地域包括ケアシステム
	11	具体的事例（認知症高齢者）による支援の実際 （藤元）	在宅で生活している認知症高齢者の事例をもとに、地域包括ケアによる高齢者の意思を尊重した生活支援を検討することができる。	

	12	高齢者の自立・自己決定を支える権利擁護 ・成年後見制度 （奥田）	高齢者の自立・自己決定を支える権利擁護に関連する制度の基本知識を理解し、最新の動向を踏まえて具体的活用方法をまとめることができる。	
	13	・日常生活支援事業 （奥田）		
	14	老人看護専門看護師の役割・機能 ・訪問看護師の実践事例をもとに、在宅で生活する高齢者と家族への専門看護師の役割・機能の検討 ①　コンサルテーション、教育 （川本）	在宅で生活する高齢者と家族を対象とした実践事例をもとに、倫理的課題への老人看護専門看護師の活動から、自己の課題を明確にすることができる。	
	15	・訪問看護師の実践事例をもとに、在宅で生活する高齢者と家族への専門看護師の役割・機能の検討 ②連携・調整 （川本）	在宅で生活する高齢者と家族を対象の実践事例から、多職種連携によりチーム医療を推進するための老人看護専門看護師の活動から、自己の課題を明確にすることができる。	
	16	総括・レポート提出 （奥田）	高齢者の保健・医療・福祉の現状と展望をまとめ、チーム医療における看護師の役割を述べる	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	高齢者保健福祉制度、政策の現状（日本、世界）、高齢者のサポートシステムや地域包括ケアシステムなど社会状況を理解し、高齢者にとってよりよい生活を実現するための展望を述べることができる。また、必要な医療・ケアが円滑に提供できるようにチーム医療を推進し、専門看護師として、保健医療福祉関係者への教育・相談・調整およびコンサルテーションの基本視点を述べることができる。	1.参画状況とプレゼンテーション及びレポートにより評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1. 授業はプレゼンテーションと討議により進める。 2. 事前に、著書、先行文献インターネットなどから、海外の高齢者福祉制度や、我が国の高齢者の保健・医療・福祉制度について調べる。 3. 介護保険制度の事前学習により、介護保険サービスについてまとめる。 4. サポートシステムの実際は、市が行っている関連する会に参加し、サポートシステムの組織化と活用を学修する。

令和５年１０月１８日

教科目No.	教科目名	単位	時間	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2062	高齢者看護学演習Ⅰ (認知症高齢者の看護)	2	60	CNS必修	後	奥田泰子・下山真登・久保田浩子 岡田望・川本雪江・古山陽子 北木弥生・加藤愛子

ねらい	・認知症高齢者とその家族に対する基本を理解し、認知症の程度や容態、状況に関わりなく尊厳を重視した専門看護師としての質の高い看護実践能力を養う。 ・高齢者の居住場所の違いによる、認知症高齢者とその家族に対する専門看護師の役割と機能の特性を修得する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	認知症の基本理解 ・認知症の疫学的理解 ・主な原因疾患の病態と診断、最新の治療の動向 （下山）	認知症の疫学、病態・診断や原因疾患別症状の特徴を理解し、看護のポイントをまとめる。	先行文献 ・日本認知症ケア学会編：改定認知症ケアの基礎・ケアの実際Ⅰ・ケアの実際Ⅱ、ワールドプランニング社
	2	・原因疾患別症状の特徴 （下山）		
	3	認知症高齢者・家族の理解 ・認知症高齢者のこころ（思い） （奥田）	認知症高齢者の思いや、認知症高齢者を介護する家族の心理過程を理解し看護実践への視点を考察する。	・寺田真理子訳；認知症ケアの倫理、クリエイツかもがわ
	4	・認知症高齢者を介護する家族の心理過程 （奥田）		
	5	認知症ケアの理念 ・パーソン・センタード・ケアの基本 （奥田）	認知症看護の理念および基本となる看護を理解する。パーソン・センタード・ケアの理念を理解し、看護実践に活用する視点が持てる。	・水野裕監修；パーソン・センタード・ケア、クリエイツかもがわ
	6	・パーソン・センタード・ケアの実践方法 （奥田）		
	7	認知症看護における倫理的課題 ・認知症高齢者に発生しやすい倫理的問題 （川本）	認知症高齢者に発生しやすい倫理的問題を理解し、専門看護師として倫理調整の方法を具体的事例に基づいて説明することができる。	
	8	・具体的事例をもと倫理的問題に対する専門看護師としての調整の在り方を検討する。 （川本）		
	9	認知症高齢者への看護方法論 1．非薬物療法 ・リアリティオリエンテーション（RO） （奥田）	認知症高齢者に対する非薬物療法の必要性および具体的実践方法を演習を通して学修し、看護実践に活用するためのポイントをまとめることができる	
	10	・音楽療法、 （奥田）		
	11	・タクティールケア　など （奥田）		
	12	2．認知症高齢者とのコミュニケーション ・認知症者とのコミュニケーションの基本 ・バリデーション技法 （久保田）	認知症高齢者に対する様々なコミュニケーション方法の基本を理解し、各種具体的方法を演習を通して学修し、看護実践に活用する際の効果的なコミュニケーションのポイントをまとめることができる。	・藤沢喜勝監訳；バリデーション、筒井書房 ・本田美和子ほか；ユマニチュード入門、医学書院
	13	・回想法 （久保田）		
	14	・ユマニチュード （久保田）		

	15	3. 認知症高齢者への日常生活援助の実際 ・食事援助 （岡田）	「食事」「排泄」「清潔」それぞれの日常生活行動の自然な動き理解し、援助を提供する場合に、対象となる高齢者の持つ強み（残存機能）を活かし、本人の意思を尊重した援助方法を演習を通して検討できる。	ｱﾝﾄﾞﾚｱ・ｽﾄﾚｲﾄ・ｼｭﾗｲﾅｰ監修：QOL を高める専門看護、介護を考える、中央法規 認知症介護研修センター編集：認知症の人のためのケアマネジメント ・萱間真美著：ストレングスモデル実践活用術、医学書院
	16	・排泄援助 （岡田）		
	17	・清潔（入浴・口腔ケア）援助 （岡田）		
	18 19	認知症高齢者の包括的アセスメント 各種アセスメントツールの使用方法およびケアプラン作成の基本 ・ライフストーリー ・ストレングスモデルの基本 （奥田）	認知症高齢者の包括的アセスメントの必要性およびアセスメントとケアプランの作成の基本を学修する。ケアプラン作成に当たり、ライフストーリーやストレングスモデルの考え方を理解し、ケアプラン作成にとり入れることができる。	
	20	・模擬事例をもとにアセスメン・ケアプランの作成 （古山）	模擬事例を用いた演習により、アセスメント、ケアプラン（訪問看護計画につながる）を立案することができる。	
	21 ～ 25 (5)	・医療機関での認知症高齢者看護 フィールドワーク1 ＊別記（履修時に詳細説明） （北木または加藤・奥田）	認知症高齢者にとって、入院による環境の影響や認知症高齢者への尊厳ある看護を提供するための看護実践を体験し、現状の課題を見出すとともに改善に向けた援助の方向性を示すことができる。 また、改善に向けた専門看護師の役割を考察し、自己の課題を明文化できる。	
	26 ～ 30 (5)	・介護老人保健施設での認知症看護 ・複雑な課題を抱えた認知症高齢者とその家族への看護 フィールドワーク2 ＊別記（履修時に詳細説明） （北木・奥田）	介護老人保健施設入所中の認知症高齢者と家族への看護実践から、多職種連携や家族への看護実践をとおして、認知症高齢者への看護・介護上の課題を見出し、改善に向けた援助の方向性を示すことができる。また、改善に向けた専門看護師の役割を考察し、自己の課題を明文化できる。	
	31	総括・レポート提出 （奥田）	認知症高齢者とその家族への看護援助にについて、講義、先行文献、フィールドワークでの実践から、専門看護師として自己の課題を明確にする。	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	認知症高齢者とその家族への看護実践について、倫理的配慮に基づいた具体的な援助方法を理解し、フィールドワークでの実施ができる。また、認知症高齢者とその家族への老人看護専門看護師の役割を理解し、自己の課題を明文化できる。	1.課題への取り組み、リフレクションレポート、技術習得状況から総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A（89～80 点）、B(79～70 点)、C（69～60 点）、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.認知症高齢者への具体的援助方法や看護過程の展開について演習を通して学修し、人権を尊重し、個別性のある看護実践ができる能力を身につける。 2. 履修にあたって、事前・事後学修を行い、主体的学習姿勢を求める。 3. 本科目で修得した知識・技術は、高齢者看護学実習で活用できるようにまとめておくこと。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	高齢者護学演習Ⅱ	2	60	必修		奥田泰子・田村和恵・佐々木由紀 平山順子・三村静香 北木弥生・加藤愛子・濱本千春

ねらい	1. 人生の最終段階を生きる高齢者が、最期までその人らしく生き抜くための質の高い看護を展開する能力を養う。また、地域包括ケアシステムにおける高齢者の生活の場の特性に基づく高度な看護実践を展開できる能力を養う。 2. 複雑かつ多様な健康問題を有する高齢者と家族の意思を尊重した高度な倫理判断に基づく看護計画（ケアプラン）立案を修得する。 3. 終末期にある高齢者の個別性を重視した尊厳ある生活援助技法を身につける。

		授業概要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	1	終末期にある高齢者の死のプロセスと身体的特徴および生活援助 ・終末期高齢者の死のプロセス ・身体的特徴 ・心地よく過ごすための生活援助の必要性 （佐々木）	終末期にある高齢者の身体的特徴を理解し、最後の日まで心地よい日々を過ごすための支援について考察できる。	別途講義で提示する
	2	＊院生の実践事例の振り返り （佐々木）	基本を理解したうえで、院生の俺までの実践事例をもとに生活援助実践を振り返る。	
	3	終末期にある高齢者の全人的苦痛の理解と援助 （佐々木）	身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな痛みについて、苦痛緩和の方法が理解できる。	長江弘子編集：看護実践に活かすエンド・オブ・ライフケア、日本看護協会出版会
	4	・症状マネジメントの実際 （佐々木）		
	5	終末期に発生しやすい症状 1．摂食・嚥下機能障害 摂食・嚥下機能の基本理解 機能低下のアセスメント 栄養管理と人工栄養 （平山）	摂食・嚥下機能の基本を理解し、終末期にある高齢者に対して適時・適切な嚥下のアセスメントにより、栄養方法の選択が検討できる。 また、誤嚥を予防して最期までおいしく食事を楽しむための具体的ケア方法が提案できる。	別途講義で提示する 清水哲郎ほか：高齢者ケアと人工栄養を考える、医学と看護社
	6	おいしく食べる工夫 （平山）		アンドレア・ストレイト・シュライナー監修：QOL を高める専門看護、介護を考える、中央法規
	7	2．皮膚トラブル 高齢者の皮膚の特徴 褥瘡予防とケア （三村）	高齢者の皮膚の特徴を理解し、終末期に起こりやすい皮膚トラブルについて実践事例をもとに予防のための具体的ケア方法が提案できる。	
	8	スキンテア予防とケア （三村）		
	9	臨死期の看護 ・身体的特徴 （田村）	臨死期の身体的特徴をもとに、変化を踏まえた支援や家族の見取りに関する意思決定を支援する必要性を理解する。さらに、高齢者の療養の場の特性に応じた臨死期における家族への支援内容をまとめることができる。	
	10	・家族支援 （田村）		
	11	喪失・悲嘆、死別への看護 ・家族アセスメントと看護支援 （田村）	高齢者に関係する人々の悲嘆・喪失および死別後の心理を踏まえた援助方法を検討する。そのうえで、院生の経験した事例をもとに具体的支援内容の改善案を提案できる。	
	12	・グリーフケア ・デスカンファレンス ・事例検討 （田村）		・桑田美代子ほか：超高齢者の緩和ケア、南山堂

	13	終末期にある高齢者の包括的アセスメント 終末期にある高齢者の事例を用いたアセスメントの実際 （佐々木）	多職種協働で包括的アセスメントをする必要性を理解し、事例を用いてアセスメントすることができる。	
	14	高齢者に多い疾患とエンド・オブ・ライフ・ケア １）心不全高齢者と家族へのエンド・オブ・ライフ・ケア （田村）	疾患の特徴を理解し、新興ステージに応じて高齢者と家族の QOL を支える看護のポイントをまとめることができる。	別途講義で提示する
	15	２）呼吸不全高齢者と家族へのエンド・オブ・ライフケア （田村）	疾患の特徴を理解し、疾患の進行状況に応じた高齢者とその家族のニーズに対する看護のポイントをまとめることができる。	
	16	3）腎不全高齢者と家族へのエンド・オブ・ライフケア （奥田）	非可逆的腎疾患により生活習慣の変更を余儀なくされる高齢者と家族に対し、疾患や治療の基礎知識を基に、各ステージに応じた看護のポイントをまとめることができる。	
	17	４）認知症高齢者と家族へのエンド・オブ・ライフケア （奥田）	進行する認知機能障害に対し、診断初期から進行に伴って出現する種々の症状に対するケアを通し、人間としての尊厳を重視し QOL を維持する看護のポイントや家族支援についてまとめることができる。	
	18	高齢者の居場所による緩和ケアの特徴と地域包括ケアシステムの視点 ・医療機関 （奥田）	高齢者の病態・居場所の違いによるエンド・オブ・ライフケアの要点を整理することができる。さらに、地域包括ケアシステムの視点で高齢者・家族の望む人生支援が検討できる。	別途講義で提示する
	19	・高齢者施設 ・在宅 （奥田）		
	20～25（6）	医療機関における高齢者終末期看護 フィールドワーク１ ＊別紙（履修時詳細説明） （北木・加藤・奥田）	医療機関で人生の最期を迎える高齢者とその家族を対象に、臨床で行われている QOL を高める日常生活援助、症状マネジメント、家族支援、グリーフケアなどの実践を通して、老人看護専門看護師の役割を学修する。	
	26～30（5）	在宅で生活する終末期高齢者看護 訪問看護を利用している終末期にある高齢者の在宅での見取りの看護 フィールドワーク2 ＊別紙（履修時詳細説明） （濱本・奥田）	在宅で人生の最期を迎える高齢者と家族を対象に、地域包括ケアシステムの視点を持ち、高齢者と家族への意思決定支援や在宅における臨死期の看護、家族支援の実施を通して、老人看護専門看護師の役割を学修する。	
		最終到達目標	評　価　法	学　修　法
教育評価		終末期高齢者を対象として、在宅で最期を迎えるためのサポート体制を理解する。また、家族介護者の見取りへの準備を支援できる。 終末期にある高齢者・家族へのケアについて看護実践力向上のための学術的・研究的側面から考え、意見を述べることができる。	1.課題への取り組み、リフレクションレポート、技術習得状況から総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1. 履修にあたって事前・事後学習、自己演習、体験を必要とする。 2. 終末期にある高齢者への具体的援助方法や看護過程の展開について演習を通して学修し、尊厳ある看護実践ができる能力を身に着ける。 3. 本科目で修得した知識・技術は、高齢者看護学実習で活用できるようにまとめておく。

教科目 №.	教科目名	単位 数	時間数	必修・ 選択別	開講 年次	担当教員名 実習指導者
x2065	高齢者看護学実習Ⅰ	2	90 時間	CNS 必修	通年	担当教員:奥田泰子、棚﨑由紀子 実習指導者:、＜済生会病院＞ 北木弥生(GCNS)・岡田望(DCN) ＜呉共済病院＞ 加藤愛子(GCNS)・神開知子（看護次長）

ねらい	1.本科目は、老人看護専門看護師に求められる実践、相談、調整、倫理調整、教育、および研究成果を吟味して臨床に活用する能力を身につけることをめざし、専門的な実習を展開する。 2. 医療機関において身体疾患の治療を目的に入院する認知症高齢者とその家族の看護を通して、認知症の病態や認知機能を的確にとらえ、Care と Cure を統合した個別性のある看護を展開する。認知症高齢者への適切で十分な医療が提供でき、認知症高齢者の尊厳を保持した QOL を追及する看護実践能力を養う。

		授業概要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	10日間の実習	1） 実習場所 恩賜財団済生会広島病院または国家公務員共済組合呉共済病院(受け持ち高齢者が入院する病棟) 2） 実習方法 (1)病棟での実習:健康問題の治療目的で入院している認知症(診断がある/疑いがある)高齢患者を受け持ち、看護を展開する(1 事例以上) (2) カンファレンス:受け持ち事例についてのカンファレンスを企画・運営する。 (3)実習期間中は、毎日施設指導者(専門看護師・認定看護師等)の助言・指導を得る。 (4)実習内容に関するカンファレンスは施設指導者および教員とともに行う。 (5)受け持ち患者を通して、専門看護師に求められる能力の実践を計画的に進める。受け持ち事例で経験できない場合は、施設指導者の調整の元、他の事例を通して実践する。 (6)実習最終日には、最終カンファレンスを行い、受け持ち事例の実践報告及び自己の実習目標への評価を発表する。 (7)レポート作成: ・ケースレポート(1 事例以上) ・専門看護師の役割・機能に関するレポート（相談・調整・倫理調整・教育） ＊実習の具体的内容・方法は実習要項参照	1. 実践:認知症高齢者およびその家族の包括的アセスメントを行い、専門的知識・技術を用いた看護展開ができる 2. 相談:看護師からの相談に応じ、コンサルテーション技法に基づき課題分析・介入・および評価ができる。 3. 調整:認知症高齢者及び家族の意思を尊重した実践に向けて、保健医療福祉職種間の調整ができる 4. 倫理調整:認知症高齢者及び家族の意思を尊重し倫理的判断、意思決定支援ができる 5. 教育・研究:実習現場での高齢者看護の課題を発見し、先行研究の成果を活用して職員への教育を企画し、実施できる。	先行研究など別途提示

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	治療目的で医療機関に入院している認知症高齢者とその家族に対し尊厳を重視し QOL の向上を目指した看護実践を展開する。実践事例とともに専門看護師の役割と機能および自己の専門看護師としての課題をまとめる。	1.実習への参画状況、課題発表及びレポート等を総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.別冊の実習要項を参考に実習を行う。 2. 実習の事前準備ができ次第、実習施設との調整を行う。 3.実習期間は 10 日間(2 週間)を基準に臨地で行う。ただし、実習目標に到達しない場合は、目標に達成するまで実習期間を延長する。 4.実習目標達成に向けて、施設指導者および教員からの指導を受けながら専門看護師になるための実習を行う。 5.認知症高齢者を 1 事例以上受持ち、看護過程を展開する。 6.実習終了後は、実習目標の振り返り、受け持ち事例の報告、および専門看護師の役割の実施・評価 報告を行う。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名 実習指導者名
x 2065	高齢者看護学実習Ⅱ	3	135 時間	CNS 必修	通年	担当教員:奥田泰子、棚﨑由紀子 実習指導者:北木弥生(GCNS)、 五十嵐美和(施設ケア部部長心得)

ねらい	1.本科目は、老人看護専門看護師に求められる実践、相談、調整、倫理調整、教育、および研究成果を吟味して臨床に活用する能力を身につけることをめざし、専門的な実習を展開する。 2.医療と生活支援が必要な介護保険施設入所中の認知症高齢者とその家族への尊厳を重視したケアを通して、認知症高齢者の QOL を追及する看護実践能力を養う。

		授業概要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	20日間の臨地実習	1) 実習場所 社会福祉法人恩賜財団済生会 介護老人保健施設はまな荘(受け持ち高齢者が入居する施設) 2) 実習方法 (1)施設での実習:医学的管理や生活支援が必要な認知症(診断がある/疑いがある)高齢入居者を受け持ち、看護を展開する(2 事例以上) (2) カンファレンス:受け持ち事例についてのカンファレンスを企画・運営する。 (3)実習期間中は、毎日施設指導者(専門看護師・認定看護師等)の助言・指導を得る。 (4)実習内容に関するカンファレンスは施設指導者および指導教員とともに実施する。 (5)受け持ち入居者を通して、専門看護師に求められる能力の実践を計画的に進める。受け持ち事例で経験できない場合は、施設指導者の調整の元、他の事例を通して実践する。 (6)実習最終日には、最終カンファレンスを行い、受け持ち事例の実践報告及び自己の実習目標への評価を発表する。 (7)レポート作成: ・ケースレポート(2 事例以上) ・専門看護師の役割・機能に関するレポート (相談・調整・倫理調整・教育) ＊詳細は実習要項参照	1. 実践:認知症高齢者およびその家族の包括的アセスメントを行い、その人らしい生活の実現に向けて尊厳を重視した看護展開ができる 2. 相談:看護師または介護士等からの相談に応じ、コンサルテーション技法に基づき課題分析・介入・および評価ができる。 3. 調整:認知症高齢者及び家族の意思を尊重した実践に向けて、保健医療福祉職種間の調整ができる 4. 倫理調整:認知症高齢者及び家族の意思を尊重し倫理的判断、意思決定支援ができる 5. 教育・研究:実習現場での高齢者看護の課題を発見し、先行研究の成果を活用して職員への教育を企画し、実施できる。	先行研究など別途提示

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	医学的管理および生活支援を必要とする認知症高齢者とその家族に対し尊厳を重視し、QOL を追及する看護を計画・実践し、考察できる。実践事例または他の事例を通して専門看護師の役割・機能の実施・評価を行い、自己の専門看護師としての課題をまとめることができる。	1.実習への参画状況、課題発表及びレポート等を総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.別冊の実習要項を参考に実習を行う。 2. 実習の事前準備ができ次第、実習施設との調整を行う。 3.実習期間は 15 日間(3 週間)を基準に臨地で行う。しかし、実習目標に到達しない場合は、目標に達成するまで実習期間を延長する。 4.実習目標達成に向けて、施設指導者および教員からの指導を受けながら専門看護師になるための実習を行う。 5.認知症高齢者を 2 事例以上受持ち、看護過程を展開する。 6.実習終了後は、実習目標の振り返り、受け持ち事例の報告、および専門看護師の役割の実施・評価 報告を行う。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x 2065	高齢者看護学実習Ⅲ	3	135 時間	CNS 必修	通年	担当教員:奥田泰子、棚﨑由紀子 実習指導者: ＜済生会広島病院＞ 北木弥生(GCNS)、新内香菜子(緩和ケア CN) ＜呉共済病院＞ 加藤愛子(GCNS)・神開知子(看護次長)

ねらい	1.本科目は、老人看護専門看護師に求められる実践、相談、調整、倫理調整、教育、および研究成果を吟味して臨床に活用する能力を身につけることをめざし、専門的な実習を展開する。 2.健康問題の治療目的で医療機関に入院中のエンド・オブ・ライフ(終末期を含む)にある高齢患者とその家族の複雑多岐な課題を Care と Cure を統合し、個別性や尊厳を重視して高齢者の QOL を追及する看護実践能力を養う。

		授業概要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	15日間の臨地実習	1) 実習場所 恩賜財団済生会広島病院または国家公務員共済組合呉共済病院(受け持ち高齢者が入院する病棟) 2) 実習方法 (1)病棟での実習:健康問題の治療目的で入院しているエンド・オブ・ライフ(終末期を含む)にある高齢患者を受け持ち、看護を展開する(2事例以上) (2) カンファレンス:受け持ち事例についてのカンファレンスを企画・運営する。 (3)実習期間中は、毎日施設指導者(専門看護師・認定看護師等)の助言・指導を得る。 (4)実習内容に関するカンファレンスは施設指導者および教員とともに行う。 (5)受け持ち患者を通して、専門看護師に求められる能力の実践を計画的に進める。受け持ち事例で経験できない場合は、施設指導者の調整の元、他の事例を通して実践する。 (6)実習最終日には、最終カンファレンスを行い、受け持ち事例の実践報告及び自己の実習目標への評価を発表する。 (7)レポート作成: ・ケースレポート(2事例以上) ・専門看護師の役割・機能に関するレポート (相談・調整・倫理調整・教育) ＊詳細は実習要項参照	1. 実践:エンド・オブ・ライフ(終末期)にある高齢者およびその家族の包括的アセスメントを行い、専門的知識・技術を用いた看護展開ができる 2. 相談:看護師からの相談に応じ、コンサルテーション技法に基づき課題分析・介入および評価ができる。 3. 調整:終末期高齢者及び家族の意思を尊重した実践に向けて、保健医療福祉職種間の調整ができる 4. 倫理調整:終末期高齢者及び家族の意思を尊重し倫理的判断、意思決定支援ができる 5. 教育・研究:実習現場での終末期高齢者看護の課題を発見し、先行研究の成果を活用して職員への教育の企画やケア方法の検討ができる。	先行研究など別途提示

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	医療機関入院中の高齢者と家族に対し、エンド・オブ・ライフケアの視点を持ち、個別性や尊厳性を重視して高齢者のQOLを追求する看護実践が展開できる。実践事例または他の事例を通して専門看護師の役割・機能の実施・評価を行い、自己の専門看護師としての課題をまとめることができる。	1.実習への参画状況、課題発表及びレポート等を総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.別冊の実習要項を参考に実習を行う。 2. 実習の事前準備ができ次第、実習施設との調整を行う。 3. 実習期間は 15 日間(3 週間)を基本とし、実習目標に到達しない場合は、目標に達成するまで実習期間を延長する。 4.実習目標達成に向けて、施設指導者および教員からの指導を受けながら専門看護師になるための実習を行う。 5. 終末期高齢者を2事例以上受持ち、看護過程を実践する。 6.実習終了後は、実習目標の振り返り、受け持ち事例の報告、および専門看護師の役割の実施・評価 報告を行う。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名 実習指導者
x 2065	高齢者看護学実習Ⅳ	2	90 時間	CNS 必修	通年	担当教員:奥田泰子、棚﨑由紀子 実習指導者: 濱本千春（がん看護 CNS)、

ねらい	1.本科目は、在宅で、エンド・オブ・ライフケアを必要とする高齢者とその家族を対象に、Care と Cure を統合した個別性の高い専門的な看護実習を展開する。 2.訪問看護を利用している高齢者とその家族への尊厳を支える高い倫理観に裏打ちされた看護実践能力を養う。また、在宅で老衰の過程にある高齢者とその家族への看護を通して、在宅医療・看護チームの一員として、尊厳を支える高い倫理観を持った実践能力を養う。 3. 老人看護専門看護師に求められる実践、相談、調整、倫理調整、教育、および研究成果を吟味して臨床に活用する能力を身につけることをめざす。

		授業概要	授業到達目標	使用図書等
教育内容	10日間の実習	1)　実習場所 YMCA 訪問看護ステーションピース 2)　実習方法 (1)訪問看護ステーションでの実習:終末期(老年期に多い疾患による)にある高齢者と老衰の過程にある高齢者を受け持ち実習する(各 1 事例以上) (2)訪問看護師との同行訪問 (3)カンファレンス:受け持ち事例についてステーションでのカンファレンスを企画・運営する。 (4)実習期間中は、毎日実習指導者とのカンファレンスを実施し、助言・指導を得る。 (5))実習内容や方法に関するカンファレンスは施設指導者および教員とともに行う(適宜)。 (6))受け持ち高齢者を通して、専門看護師に求められる能力の実践を計画的に進める。受け持ち事例で経験できない場合は、実習指導者の調整の元、他の事例を通して実践する。 (7))実習最終日には、最終カンファレンスを行い、受け持ち事例の実践報告及び自己の実習目標への評価を発表する。 (8))レポート作成: ・ケースレポート(1事例以上) ・専門看護師の役割・機能に関するレポート （相談・調整・倫理調整・教育） ＊実習の具体的内容・方法は実習要項参照	1. 実践:老年期に多い疾患による終末期にある高齢者とその家族、および老衰の過程にある高齢者とその家族への尊厳を重視し個別性の高い専門的な看護実践ができる 2. 相談:看護師からの相談に応じ、コンサルテーション技法に基づき課題分析・介入・および評価ができる。 3. 調整:終末期にある高齢者およびその家族の意思を尊重した実践に向けて、家族を含めて多職種間の調整ができる。 4. 倫理調整:終末期にある高齢者およびその家族の意思を尊重した倫理的判断、意思決定支援ができる 5. 教育・研究:終末期高齢者が生活する在宅やサポートシステムなどを含み、高齢者看護の課題を発見し、先行研究の成果を活用して職員への教育的アドバイスができる。さらに研究的視点が持てる。	先行研究など別途提示

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	在宅で生活する終末期にある高齢者とその家族に対し、尊厳を重視した個別性のある看護実践が展開できる。実践事例または他の事例を通して専門看護師の役割と機能および自己の専門看護師としての課題をまとめることができる。	1.実習への参画状況、課題発表及びレポート等を総合的に評価する。 2.評価点は、S(100～90 点)、A(89～80 点)、B(79～70 点)、C(69～60 点)、D(59 点以下)とし、S・A・B・C を合格、D を不合格とする。	1.別冊の実習要項を参考に実習を行う。 2. 実習の事前準備ができ次第、実習施設との調整を行う。 3.実習期間は 10 日間(2 週間)を基準に臨地で行う。 4.実習目標達成に向けて、施設指導者および教員からの指導を受けながら専門看護師になるための実習を行う。 5.終末期にある高齢者を2事例以上受持ち、看護を展開する。 6.実習終了後は、実習目標の振り返り、受け持ち事例の報告、および専門看護師の役割の実施・評価 報告を行う。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	在宅看護学特論	2	30	選択	1年次前期	塩谷久子

ねらい	在宅療養者の疾病悪化防止、介護悪化防止を目指した質の高い看護サービスを効果的に提供するために、関連する保健医療福祉制度の理解、保健医療福祉職との連携及びチームケアを展開する方法について教授する。また体制の課題・ケアマネジメント・ケアのアカウント測定法(利用者の心身効果、利用者。家族の満足度、費用対効果)を教授する。看護ケアの改善・改革に研究的に取り組みやすいように講義で例示しながら実践的思考力を研鑽し、学生はレポート作成・発表・討論によって具体的に修得できるようにする。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1 2	我が国における在宅療養者の状況と支える保健医療福祉制度等の社会資源の発展過程と現状における課題と今後の方針(塩谷)	わが国の在宅療養支援と制度に関する現状と課題が理解できる。	資料等は講義前に紹介する。
3 4	在宅療養者を支援する在宅医療における在宅看護の役割・機能と課題 (塩谷)	在宅ケアを担う看護の専門性の現状と課題が理解できる。	
5 6	医療保険制度及び介護保険制度における在宅療養者支援内容とその利用実態・課題(塩谷)	医療保険制度及び介護保険制度における在宅ケア内容と利用者の特徴を理解できる。	
7 8	在宅高齢者の健康ニーズ分析法・介護予防活動とコホート・RCT を含めた疫学的研究法の現場活動への活用法(塩谷)	介護予防計画と活動、コホートを含む疫学的研究法が理解できる。	
9 10	在宅ケア費用対効果分析法と訪問看護ステーションの経営分析管理の方法(塩谷)	在宅ケアの費用対効果と経営分析管理の方法の基本的な説明ができる。	
11 12	介護予防を目指した地域包括ケアシステムの理念と在宅看護ケアプログラムの開発(塩谷)	在宅ケアプログラム開発過程について理解できる。	
13 14	在宅ケアにおけるチームケア・連携の推進方法について、専門職間及び地域住民を含めた非専門職と効果的推進(塩谷)	在宅ケアにおけるチームケア・連携の展開を理解する	
15	在宅ケアにおける縦断的・横断的研究の特徴・留意点 (塩谷)	在宅ケアにおける縦断的・横断的研究の特徴・留意点を理解する。	
16	まとめレポート発表・討論(塩谷)	在宅看護の機能役割の在り方について研究的に探究する方法が理解できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
1)在宅ケアの諸制度、ケア体制について動向が理解できる。 2)在宅ケアにおける看護職としての役割機能を担うケアプログラム開発方法について理解できる。 3)在宅ケアの課題と研究課題を明らかにし、実践と研究を進める上での視点と進め方について理解できる。	1)テーマごとのレポート作成 40% 2)テーマごとの発表・質疑・討論 40% 3)情報収集・分析力・他人の意見を活用して自己の現場実践力と研究の進め方に活用する能力 20%	1)学生の課題レポート作成・発表・討論により、自己学習法がより確実に進められる方法を修得する。 2)科目の到達度評価をチェックリスト・アンケートにより実施し、理解が不十分な点を補充しながら進める。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	在宅看護学演習	2	30	1	1年次 後期	塩谷久子

ねらい	在宅療養の原因の上位を占める代表的疾患及びケア上問題となりやすい症状、また看護ケア実践方法やシステム上の課題について、基盤となる知識・理論を説明し、事例を通して看護ケアの研究的取組成果から看護ケアの改善・改革への過程を理解する。学生は各自の実践事例への発展的活用について考察し、発表と討論を通して、在宅看護研究方法論を学修する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1 2	在宅ケアにおける本人、家族、環境のアセスメントとケアプラン作成、その評価方法(塩谷) 在宅ケアにおけるケアマネジメント(ケースマネージメント)と効果的な連携方法(塩谷)	在宅ケアにおける本人、家族、環境のアセスメントとケアプラン作成、その評価方法の概要が理解できる。 在宅ケアにおけるケアマネジメント(ケースマネージメント)と効果的な連携方法が理解できる。	資料等は講義前に紹介する。
	3 4	ICF を含めた多様な虚弱高齢者、身体的障害者への ADL,IADL の評価方法と自立支援方法の理解 特に虚弱高齢者の転倒予防、大腿骨骨折、脳血管疾患後遺症等の事例特徴に応じた自立支援としての看護ケア (塩谷)	ADL および IADL の自立が課題となる虚弱高齢者、大腿骨骨折、脳血管疾患患者への自立支援方法・看護ケア方法が理解できる	
	5 6	認知症、うつ、失禁者の心身機能低下予防、転倒予防のプログラム開発と評価(塩谷)	認知症、うつ、失禁者の心身機能低下予防、転倒予防のプログラム開発と評価が理解できる。	
	7	在宅高齢者の健康向上のプログラム開発と評価(塩谷)	在宅高齢者の健康向上のプログラム開発と評価が理解できる	
	8	認知症予防、うつ傾向予防における文献的考察とケア方法(塩谷)	認知症予防うつ傾向　文献的考察とケア方法が理解できる。	
	9 10	在宅ケアにおける呼吸器ケア疾患患者のアセスメントと看護ケア・生活指導方法の工夫(塩谷)	在宅呼吸器ケア疾患患者のアセスメントと生活に関するケアの工夫が理解できる。	
	11 12 13	終末期における看護ケアプログラムの開発(塩谷) 1)終末期ケアにおける看護サービスの機能と役割 2)退院から在宅ケア移行期への看護サービスの特徴 3)グリークケアの進め方(塩谷)	終末期の看護サービス内容の特徴及びグリークケアのプロセスが理解できる	
	14 15	在宅ケアを支える訪問看護ステーション機関における管理運営方法と評価(塩谷)	訪問看護ステーション機関における質の高い看護サービスを展開できる管理運営の概要が理解できる。	
	16	全体　まとめ(塩谷)	在宅看護サービスの改善・改革を推進できる研究的取組について知識と方法が理解できる	

教育評価	最終到達目的	評価法	学修法
	1)　在宅ケア利用者、家族の条件、環境についてのケアニーズとケアプランの作成方法が説明できる。 2)　終末期ケアを含めて比較的ケアが困難な事例に対するアセスメントとケアの知識と技術が理解できる。 3)　在宅サービス利用高齢者の自立支援方法が説明できる。 4)　在宅ケアにおける管理運営法と評価方法が理解できる	1)テーマごとのレポート作成　40% 2)テーマごとの発表・質疑・討論　40% 3)情報収集・分析力・討論での意見を活用して自己の研究の進め方に活用する能力　20%	1)学生の課題レポート作成・発表・討論により、自己学習法がより確実に進められる方法を修得する。 2)科目の到達度評価をチェックリスト・アンケートにより実施し、理解が不十分な点を補充しながら進める。 3)学生には積極的な質疑・討論への参加を期待する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	学校保健看護学特論	2	30	必修	1年次前期	岡本陽子・三木とみ子・御村ひさ子

ねらい	退院後も医療的ケアを要する子どもや慢性疾患児の地域や学校における包括的ケアの実態から、保健・看護上の課題を明らかにする。また、課題解決に向けて求められるトータルケアシステムの構築と多職種連携によるチームアプローチのコーディネーションの方法を学ぶとともに、文献のクリティカル・レビューを行う。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	我が国の養護教諭制度の歴史と特徴を文献により、養護の原理と本質を探る。(三木)	我が国の養護教諭の特徴を理解し説明できる。	新訂養護概説(出版社ぎょうせい)(選択) プリント適宜 選定図書
2	資料を基に養護教諭の職務の概要とその変遷をさぐる(三木)	養護教諭の職務内容の具体的内容を理解する。	
3	子供の問題を探り、対応及び育てるために養護教諭に必要な資質・能力について考察する。(三木)	子供の心身の課題解決に必要な資質・能力を理解する。	
4	養護教諭の職務の特質を活かした活動について考察する。(三木)	養護教諭の専門生を活かした対応の特質理解し説明できる	
5	保健室の機能、設備を活かした保健室経営について、文献をもとに考察する。(三木)	センター的役割を果たす保健室経営の在り方を理解する。	
6	子どもの心身の健康と生活実態(御村)	慢性疾患や医療的ケアを要する子どもを理解できる。	
7	慢性疾患や障がいのある子どもと家族への包括的支援システム(御村)	包括支援について理解できる。	
8	慢性疾患児の地域ケアシステムの構築(御村)	ケアシステムを理解する。	
9	慢性疾患児・発達障がい児のサポートネットワーク実践事例(御村)	個・集団の支援技術の基本が理解できる。	
10	医療的ケアを要する子どもの地域・学校のケアシステムとコーディネーション(岡本)	個・集団の支援について実践的な支援技術が理解できる。	
11	養護教諭のコーディネーション能力の育成(岡本)	施策化のプロセスや政策の課題がわかる。	
12	学校における看護師のケアの実際(岡本)	公衆衛生看護の理論枠組みが理解できる。	
13	特別支援学校における医療的ケアの実際(岡本)	公衆衛生看護の展開方法が理解できる。	
14	学校における医療的ケアの方法と技術開発(岡本)	公衆衛生看護の連携・協働の現状から課題が理解できる。	
15	養護教諭と保健師との連携(包括的支援システムの構築(岡本)	公衆衛生看護の連携・協働の現状から課題が理解できる。	
16	まとめ　レポート発表・討議(岡本　御村)	養護教諭の連携・協働の現状から課題が理解できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
医療的ケアを要する、あるいは、アレルギーや腎・心臓等の慢性疾患の子どもの現状を理解するとともに現状児地域を対象とする公衆衛生的アプローチの理念と方法・実際について考え、公衆衛生看護の現状から研究課題を考えることができる。	文献の要約発表・討議、レポートから評価する。	文献の要約発表・討議などから主体的に学ぶ。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2074	学校保健看護学演習	2	30	必修	1年次後期	岡本陽子・三木とみ子・御村ひさ子

ねらい	医療的ケアを要する子どもや慢性疾患児・発達障がい児・アレルギー疾患児の地域や学校における包括的ケアシステムの実態や課題から、学校保健におけるケアや、多職種連携によるチームアプローチのコーディネーションの方法やトータルケアシステムの構築について、国内外での研究についての方法や成果あるいは教育現場での応用・有用性を検討・構築し、発表・討論し、学生各自の研究や実践に活用できるようにする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	学校保健活動の中核的役割を果たす養護教諭とは何かの実際をさぐる。（三木）	学校保健活動の構造図から演習を通して理解し説明できる。	プリント適宜配布。必要文献は適宜提する。
	2	子供たちの心と体の現代的課題をあげ、保健室での対応の在り方を理解する。（その1）（三木）	養護教諭の専門生を活かしたヘルスアセスメントを演習体験を通してスキルを獲得する	
	3	子供たちの心と体の現代的課題をあげ、養護教諭の専門生を活かした対応の対応の在り方を理解する。（その2）（三木）	養護教諭の毒性・専門生を活かしたカウンセリングタッチングのスキル獲得する	
	4	子供たちの課題をあげ、保健室の施設設備を活かした保健室経営、毛布の包まれる体験から学ぶ（三木）	どこの保健室でも活用できる毛布活用の効果とその根拠をさぐる。	
	5	学校全体の課題を把握し、その解決のための保健室経営計画について理解する。（三木）	学校全体の子供の健康課題にあった保健室経営計画を作成する。	
	7	慢性疾患児におけるケア及びケアマネージメントの研究（岡本　御村）	ケア及び包括支援について理解できる。	
	8	慢性疾患児における多職種とのチームアプローチとトータルケアシステムの研究（岡本　御村）	コーディネーションやトータルケアシステムを理解する	
	9	慢性疾患児におけるケアマネージメントと多職種とのチームアプローチ及びトータルケアシステム構築（発表）（岡本　御村）	国内外の先行研究から自らの研究の発表できる。	
	10	医療的ケアおけるケア及びケアマネージメントの研究（御村）	ケア及び包括支援について理解できる。	
	11	医療的ケアにおけるケアマネージメントと多職種とのチームアプローチとトータルケアシステムの構（御村）	コーディネーションやトータルケアシステムを理解する	
	12	アレルギー疾患児におけるケア及びケアマネージメントの研究（岡本）	国内外の先行研究から自らの研究の発表できる。	
	13	発達障がい児におけるケア及びケアマネージメントの研究（岡本）	ケア及び包括支援について理解できる。	
	14	発達障がい児における多職種とのチームアプローチとトータルケアシステムの研究（岡本）	コーディネーションやトータルケアシステムを理解する	
	15	発達障がい児におけるケアマネージメントと多職種とのチームアプローチとトータルケアシステムの構築（発表）（岡本）	国内外の先行研究から自らの研究の発表	
	16	慢性疾患児、医療的ケア児、発達障碍児、アレルギー疾患児等との各症例における対応の特性を確認するなどのまとめ（岡本）	演習を振り返る。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	慢性疾患や医療的ケア・発達障がい児・アレルギー疾患児等のチームアプローチやトータルシステムの開発をおこない、発表することができる。	1)テーマごとレポート作成　40% 2)テーマごとの発表・質疑・討論　40% 3)情報収集・分析力・討論での意見を活用して自己の研究を進める活用力20%	1)学生の課題レポート作成・発表・討論により、自己学修が確実に進められる方法を獲得する。 2)到達目標をチェックリスト・アンケートにより評価し、理解が不十分な点に対して補充する。文献の要約発表・討議などから主体的に学ぶ。 3)積極的に討質疑・討論する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2038	公衆衛生学特論	2	30	選択	1年次後期	中村 哲

ねらい	明治以降、日本の公衆衛生学がどのように理解され、形作られていったのかを理解し、欧米流公衆衛生学との違いを認識した上で公衆衛生学的な研究活動を実施できるように指導する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	公衆衛生学の起源と歴史	公衆衛生学の歴史背景と成り立ちを理解する	各種資料によるハンドアウトおよび学修法に書かれた外国語参考書を使用する。
	2	公衆衛生学の基礎 I. 定義と基本概念	公衆衛生学の基本概念および定義などを理解する	
	3	公衆衛生学の基礎 II. 学問体系と方法論	公衆衛生学の体系と手法について理解する	
	4	公衆衛生管理論 I. 保健管理プログラム	公衆衛生と保健管理プログラムについて理解する	
	5	公衆衛生管理論 II. 健康評価と健康管理技法	健康評価と保健管理プログラムの実施方法を理解する	
	6	疾病の予防と制御 I. 感染性疾患	感染症を中心とした疾病の予防と管理を理解する	
	7	疾病の予防と制御 II. 非感染性疾患	生活習慣病を中心とした疾病の予防と管理を理解する	
	8	環境保健 I. 物理化学的環境	健康と物理・化学的環境との関係を理解する	
	9	環境保健 II. 生物環境と人間社会	健康と生物・ヒト社会環境との関係を理解する	
	10	人口集団と保健管理 I. 母子保健と学校保健, 青年期保健	ヒト集団の発育ステージと健康との関係を理解する	
	11	人口集団と保健管理 II. 地域保健と産業保健	地域と産業保健管理との関係を理解する	
	12	地域と保健サービス論 I. 地域精神衛生と行政支援	地域精神衛生管理と行政支援制度ついて理解する	
	13	地域と保健サービス論 II. 加齢人口と行政支援	地域集団の加齢と健康・行動障害について理解する	
	14	公衆衛生学と地域医療に関わる演習	演習を通じて公衆衛生と地域医療をより深く理解する	
	15	国際保健（グローバル・ヘルス）	公衆衛生学と国際保健との関係について理解する	
	16			

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	① 公衆衛生看護学の基盤としての公衆衛生学の役割についての基本を理解 ② 公衆衛生学における調査研究の手法・過程等について理解	講義ごとのミーティング・討議において理解度を判断するとともに、この科目にかかわる積極性等の項目を判断する。また演習に関わるレポートを課し最終評価を行う。	基本的に外国語文献・資料中心の学修法となる。 各講義に際し事前に課題を与える。受講生は課題についての要旨を準備し講義で報告を行う。 参考図書： Roger Detels, *et al.* Oxford Textbook of Public Health, Oxford Medical Publications, UK; Lloyd F. Novic *et al.* Public Health Administration, Jone and Bartlett Publisher, UK;

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
X2034	公衆衛生看護学特論	2	30	選択	前期	岡本陽子・久常節子

ねらい	公衆衛生看護学の専門的分野に主題を求め、学生の将来の活動分野を踏まえた講義内容、検討内容とする。学びの方向性は学生の専門分野における問題意識から公衆衛生看護へとアプローチする。日本の健康施策や地域社会の課題に照らした、「健康の社会的決定要因」「健康を獲得する個人の社会的条件」について考える。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	公衆衛生看護の専門性と機能について１（岡本）	公衆衛生看護の専門性と機能が理解できる。	プリント適宜 選定図書
	2	公衆衛生看護の専門性と機能について２（岡本）	公衆衛生看護における専門性と機能の特性が理解できる。	
	3	公衆衛生看護活動について１　（岡本）	公衆衛生看護の特性を踏まえた看護活動が理解できる。	
	4	公衆衛生看護活動の活動特性について２　（岡本）	広域にわたる公衆衛生看護における活動特性が理解できる。	
	5	公衆衛生看護の基本的な技術について１（岡本）	個・集団の支援技術の基本が理解できる。	
	6	公衆衛生看護の実践的な支援技術について２　（岡本）	個・集団の支援について実践的な支援技術が理解できる。	
	7	援助・支援から施策化へ、健康政策の課題　（久常）	施策化のプロセスや政策の課題がわかる。	
	8	公衆衛生看護の理論（久常）	公衆衛生看護の理論枠組みが理解できる。	
	9	公衆衛生看護の展開　（久常）	公衆衛生看護の展開方法が理解できる。	
	10	公衆衛生看護における連携・協働の現状について1（久常）	公衆衛生看護の連携・協働の現状が理解できる。	
	11	公衆衛生看護における連携・協働の課題について２（久常）	公衆衛生看護の連携・協働の現状から問題が理解できる。	
	12	公衆衛生看護における連携・協働の課題について３（岡本）	公衆衛生看護の連携・協働の現状から課題が理解できる。	
	13	公衆衛生看護の研究課題の現状について(1)（岡本）	今日の公衆衛生看護の研究から現状の取り組みが理解できる。	
	14	公衆衛生看護の今日の研究課題について(2)（岡本）	今日の公衆衛生看護の研究の取り組みから課題が見つけられる。	
	15	公衆衛生看護の今後の研究課題について(3)（岡本）	今後の公衆衛生看護の研究課題が見つけられる。	
	16	全体　まとめ（岡本）	公衆衛生看護の果たす役割・機能を統合しまとめることができる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	地域を対象とする公衆衛生的アプローチの理念と方法・実際について考え、公衆衛生看護の現状から研究課題を考えることができる。	文献の要約発表・討議、レポートから評価する。	文献の要約発表・討議などから主体的に学ぶ。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講期	担当教員名
x2035	地域保健政策論	2	30	選択	後期	岡本陽子　久常節子

ねらい	我が国は、急速な少子高齢化が進み、世界最長寿国となっている。平均寿命の延伸は誇るべきことであるが、健康寿命の延伸が国民健康づくり運動の重要課題である。このまま少子化が進むと人口減少は加速度的に進み、50 年後には 8674 万人になると推計されている。そのうち高齢者は 4 割となる。 第5次医療法改正、社会保障制度とりわけ医療保険制度の改正等は、保健医療政策として大きな課題である。こうした政策等を学び我が国の進むべき方向性が見えてくることを期待している。

	授業概要		授業到達目標	使用図書等
	1	地域保健をめぐる国の動向〈久常〉	地域保健をめぐる国の動向が理解できる	プリント適宜選定図書
	2	保健医療福祉行政のめざすもの〈久常〉	保健医療福祉行政の基盤となる根拠や公衆衛生の定義を理解する。	
	3	わが国における医療保険制度改革の変遷（岡本）	歴史的視点での医療保険制度改革が理解できる	
	4	医療法・医療提供体制（岡本）	医療法を基盤とする医療提供体制等医療制度について理解する。	
	5	介護保険制度とその改正（岡本）	介護保険制度の仕組み，サービスの内容を理解する。地域包括センターの役割と機能を理解する。	
	6	地域保健の体系〈久常〉	地域保健法に基づく保健所と市町村保健センターの役割分担・相違点を理解する。	
	7	地域保健における健康危機管理体制〈久常〉	災害時，感染症発生時等の保健活動，国と地方自治体の連携を理解する。	
	8	健康寿命の延伸と生活習慣病対策〈久常〉	国民の健康寿命の延伸の重要性とそのための生活習慣病対策の構築をする。	
	9	近年の地域保健対策〈久常〉	がん対策基本法，自殺対策基本法，虐待防止法等の法律制定の背景を理解する。	
	10	住民主体の健康なまちづくり（岡本）	多様化，高度化する住民のニーズに即した取り組みとは。各種計画策定における住民の役割を理解する。	
	11	地域保健対策におけるPDCAサイクル（岡本）	地域保健に関する評価，施策の改善のプロセスを理解する。	
	12	健康格差（岡本）（岡本）	格差社会と健康格差を理解することができる。	
	13	ソーシャルキャピタル（岡本）	ソーシャルキャピタルの概念を理解する。	
	14	地域の健康実態の把握（岡本）	健康実態を把握し，地域的課題を理解する。	
	15	事例検討（岡本）	事例を通して，地域保健政策を提言できる。	
	16	課題提出（岡本）		

	最終到達目標	評価法	学習法
教育評価	・超高齢社会における社会保障、国の動向を理解する ・地域のおける健康危機管理の拠点である地域保健行政を理解する ・保健医療福祉の地域づくりを推進する行政の仕組みを理解する ・地域保健に関する政策提言できる	・課題への取り組み状況 ・レポートから評価する	選定図書、広島県保健医療計画、医療制度改革策，「健康日本 21」，地域保健法，「日本国憲法第 25 条」等から主体的に学ぶ

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2039	国際感染症特論	2	30	選択	前期	中村　哲

ねらい	世界の3大感染症と言われるエイズ、マラリア、結核を中心に学習を進め、国際看護学としての学術的な研究と国際的看護実践活動への応用ができるように指導する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	国際感染症学概説	多様な国際感染症の存在を理解できる	各種資料やANAC's Core Curriculum for HIV/AIDS; 感染症関連の外国語図書を用いる
2	感染症と国際看護・医療協力	国際保健協力活動と感染症対策の密接な関係を理解できる	
3	新興・再興感染　その1　出現の背景	未知の感染症や再興した感染症の出現背景を理解できる	
4	新興・再興感染　その2　最近の流行事例	最近の流行事例と対策の現状が理解できる	
5	エイズー　その1　病理とHIV感染対策	エイズの世界的な感染拡大とその影響と対策を理解する	
6	エイズー　その2　国際看護と予防対策	エイズの予防対策に関わる看護の役割を理解する	
7	エイズー　その3　看護管理の実際	エイズの臨床対応と看護管理の重要性を理解する	
8	マラリアー　その1　国際感染症としての背景	マラリアが国際感染症として重要である背景を理解する	
9	マラリアー　その2　アジアとアフリカの現況	特にアジアとアフリカ地域での流行と対策の現況を理解する	
10	マラリアー　その3　マラリア感染と予防対策	マラリアの感染に関わる生物学と予防対策を理解する	
11	結核ー　その1　日本における現状と対策	再興感染症としての日本での現状とその対策を理解する	
12	結核ー　その2　世界における現状と対策	世界レベルでの結核の現状と具体的な施策を理解する	
13	顧みられない熱帯感染症ー　その1　線虫症	再興感染症としての結核の影響とその対策を理解する	
14	顧みられない熱帯感染症ー　その2　吸虫症	再興感染症としての結核の影響とその対策を理解する	
15	総合討論と課題に関わる評価		
16			

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
① 世界の3大感染症と言われるエイズ、マラリア、結核の流行概要と対策を中心に理解を深める。 ② 国際看護学の中の感染症の重要性を理解し、国際化する日本国内の看護実践に役立てる。	① 各ミーティングにおいて理解度を判断するとともに、この科目にかかわる積極性等の項目を判断する。 ② 最後のミーティングにおいて総合的に評価する。	基本的に資料中心の学修法となる。課題図書としてANAC's Core Curriculum for HIV/AIDS, 3rd. Ed. やCliff & Smallman-Raynor Infectious Diseases, Oxford UP, 2009を使用する。課題となる資料について全訳（外国語）や要旨を報告し、内容について討論を行う。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2040	国際看護学特論	2	30	選択	前期	岩本　由美

ねらい	1　国際社会における保健・医療の課題を理解する。 2　それらの課題に背景にある社会の構造的問題を理解する。 3　国際社会のとりわけ開発途上国の保健、医療の問題を解決ための方法を考察する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	歴史的背景	国際保健の歴史について概観できる。	Paul F. Basch Textbook of International Health
	2	国際保健に関わる諸機関	国際保健に関わる諸機関の活動を知る。	
	3	健康に関するデータ	健康を表す諸データを理解する。	
	4	データから情報へ、情報から決定へ	保健サービスに関するデータを理解する。	
	5	疾病の社会的概念	異文化社会における疾病の概念を理解する。	
	6	危機に立つ保健	世界の健康課題について理解する。	
	7	環境、開発、健康	開発と健康の関係について理解する。	
	8	国際プログラムとプロジェクト	南北問題について理解する。	
	9	科学と技術	科学と技術政策について理解する。	
	10	疾病の費用と健康の価値	財としての健康について考える。	
	11	保健セクターの創設	ヘルスケアシステムについて概観する。	
	12	保健セクターの改革	保健セクターの今後の改革を考察する。	
	13	感染症：再興と新興	主な再興、新興感染症について概観する。	
	14	国際保健の実践	実践的な国際保健について考察する。	
	15	国際看護の課題	国際社会における看護の問題を考察する。	
	16	まとめ		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	受講した院生は、国際社会における保健、医療の問題を理解できる。それらの問題の背景にある構造的な問題についても分析できる。そして、それらの問題に対して、具体的な解決方法を提案できる。	最終的なレポートで評価する。また、作成したレジュメの完成度、報告内容とその方法、質疑応答の的確さなど、総合的に評価する。	国際看護の教科書の一つであるPaul F. Basch の Textbook of International Health を使い、国際社会における保健と看護の問題を考える。受講生は自分の担当する章をレジュメにまとめて、授業の中で報告する。報告の後、他の受講生とともに、その日のテーマについて議論する。 受講生は毎週 40 ページから 50 ページの各章を熟読しなくてはならない。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x2041	国際看護特別演習	2	30	選択	前期	岩本由美・中村　哲

ねらい	国際社会の保健医療の課題を、難民問題とその支援という具体的なテーマを通して、探究する。最終的には、実際のプロジェクトの立案を行う。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	難民キャンプの現状（岩本・中村）	事例の概要を理解する。	必要文献はその都度提示する。
	2	情報の収集（岩本・中村）	プロジェクト立案のための必要な情報を収集できる。	
	3	情報の収集・文献検索（岩本・中村）	プロジェクト立案のための必要な文献検索ができる。	
	4	情報の分析　文献クリティーク（岩本・中村）	プロジェクト立案のための必要な文献を読み込むことができる。	
	5	情報の分析　文献検討（岩本・中村）	プロジェクト立案のための必要な文献検討ができる。	
	6	情報の分析　資料作成（岩本・中村）	プロジェクト立案のための必要な資料を作り始めることができる。	
	7	中間報告（岩本・中村）	情報の分析結果を中間報告できる。	
	8	プロジェクトの計画立案（岩本・中村）	プロジェクトの立案と実施に向けての具体的な計画を作成することができる。	
	9			
	10			
	11			
	12			
	13	プレゼンテーション（岩本・中村）	立案したプロジェクトをプレゼンテーションできる。	
	14	プロジェクトの修正（岩本・中村）	プレゼンテーションでの評価を踏まえてプロジェクトを修正できる。	
	15	プロジェクトの完成（岩本・中村）	最終的なプロジェクトの立案ができる。	
	16	総評（岩本・中村）		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	具体的な事例から、国際社会における健康問題を分析することができる。その問題の具体的な解決方法を立案できる。	最終的に作成されたプロジェクトの計画書から評価する。また、それに至る過程も評価の対象とする。	難民キャンプを事例に、実際のプロジェクトを立ち上げるシミュレーションを行う。 一部、英文の資料を使用する。

看護学研究科博士後期課程シラバス

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x6001	看護学研究特論	2	30	必修	1年前期	岡本陽子・小林敏生・奥田泰子 塩谷久子　・前信由美

ねらい	本学の博士課程が目指す看護人材像（教育目的）は、臨床志向型研究者の育成である。課程修了時点で目的に到達するために、3年間における教育課程と各学年の到達課題を理解し、それらの課題を達成していく必要がある。看護の目的は、健康ニーズの発生予防・改善・解決を目指している。そのために、本学では臨床志向型研究に取り組む。その研究成果によって現場を改善し、次の研究がさらに発展するというように研究と現場の相互関係的・循環的発展を目指した研究・教育目的に到達するために、研究法の理念・目的・方法・プロセス及び研究倫理について論じる。（オムニバス方式/全15回）

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1～4	本学の看護学研究科博士後期課程における実践の科学としての看護学の発展を目指した取り組みの必要性について論じ、看護学探求の方向性・方法・プロセスについて概要を論じる。 研究の倫理原則に基づいた人を対象とする研究の倫理的配慮及び本学の倫理申請について論じる （小林）	実践の科学としての看護学の発展を目指した取り組みの必要性について理解できる。	自研究論文及びそのほか必要な文献は都度提示する。
5～6	臨床志向型研究における人々の健康ニーズに対する問題解決型研究を通して、実践の科学としての看護学の循環的発展について論じ、看護学の国際的・学際的教育研究視点も含めた研究の方法・プロセスの概要について論じる。（小林）	臨床志向型研究における問題解決型研究の方法・プロセスの概要について理解できる。	自研究論文及び国内外における必要な文献は都度提示する。
7～8	臨床指向型研究を母子看護学の方向性から論じる。母子看護学では子どもの成長・発達を家族という視点で捉え，母子の成長発達へのヘルスケアシステム及び多岐にわたる技術開発の必要性、研究の方法・プロセスの概要について論じる。（岡本・小林）	臨床志向型研究における母子看護領域における研究の方法・プロセスの概要が理解できる。	自研究論文及び国内外における必要な文献は都度提示する。
9～10	成人看護学領域における問題解決型研究を通して、時代と共に変化する人々のヘルスニーズに対応できる臨床指向型研究の方法・プロセスの概要について論じる。 （前信）	臨床志向型研究における成人看護領域における研究の方法・プロセスの概要が理解できる。	自研究論文及び国内外における必要な文献は都度提示する。
11～12	臨床指向型研究を高齢者看護学の方向性から論じる。高齢者看護における看護実践では、高齢者の健康ニーズの問題解決に導く看護者のケアリング意識と人間の尊厳尊重を基本に置き、高齢者ヘルスニード上の看護実践の方法・プロセスの概要について論じる。（奥田）	臨床志向型研究における高齢者看護領域における研究の方法・プロセスの概要が理解できる。	自研究論文及び国内外における必要な文献は都度提示する。
13～14	域特性を考慮した人々の健康ニーズにかかわる取り組みを在宅・地域看護学の領域から示し、開発的研究への取り組み方の方法・プロセスの概要について論じる。 （塩谷）	臨床志向型研究における在宅・地域看護領域における研究の方法・プロセスの概要が理解できる。	自研究論文及び国内外における必要な文献は都度提示する。
15	臨床志向型研究及び問題解決型研究について討論し、研究への取り組みに当たり、自己の見解について論理的に文章化し、報告する。 （佐々木・岡本・塩谷・奥田・前信・小林）	臨床志向型研究における各看護学領域における研究の方向性が理解でき、自身の研究課題が明確化できる。	学生提出レポート
16	最終レポートを提出する。		

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
本論で示された、本学の看護学研究科博士後期課程における臨床志向型研究について理解し、実践の科学としての看護学の循環的発展の必要性について理解できる。また、自身の看護学探求の方向性を母子看護学、成人看護学、高齢者看護学、在宅・地域看護学のいずれかから示すことができる。	学生の課題発表レポートの作成・発表方法・討論への参加度・独創的な発想・他人の話を聞き、自己の課題に取り込み融合・統合させようとする言動および能力を総合的に評価する。	基本的に教授形式をとるが、学生同士の討論、プレゼンテーションも含まれる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7001	母子看護学特論	2	30	選択	1年 前期	岡本陽子・渡邉　満・ 山内京子・堀井順平

ねらい	「母子看護学」領域の臨床現場における実践の改善に結びつけられる高度な学識と行動力をもつ臨床志向型研究に取り組むために、「母子看護学」領域のヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するなど看護の効果効率的なあり方を「母性看護学」「小児看護学」の視点から「家族看護学」「家族社会学」も含めて総合的に発展させるための教育を行う。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	本論の教育概要の説明と母子看護学を「母性看護学」「小児看護学」「家族看護学」の中で総合的にとらえ、看護上の課題解決に発展させえるよう相互理解を深める。(岡本・渡邉・山内)	母子看護学領域における今日的課題を論じることができる。	使用図書・文献などは都度提示する。 『家族看護学』 『母子関係理論』 他適宜提示する。 山内―参考文献は適宜提示する。
	2	子どもの心身の成長発達理論(堀井)	母子看護学を家族の機能から論じることができる。	
	3	子どもの心身の発達と現代的課題(堀井)		
	4	母子関係理論と家族(堀井)	母子関係について理論的考察ができ、子どもの健全発達から論じることができる。	
	5	子どもの健全育成に向けた親役割(岡本)		
	6	母性性・父性性から見た子どもに関する文献学的探求(山内)		
	7	看護の視点から見た女性の生涯発達(山内)	我が国における生殖医療の今日的課題について論じることができる。	
	8	母性看護における今日的課題の文献学的探求(岡本)		
	9	国際社会における母子保健問題の動向に関する文献学的探求(岡本)	国際社会における母子保健政策について我が国のそれと対比して論じることができる。	
	10			
	11	少子時代の人口学的基礎(山内)	少子高齢化についての人口学的な理解から始め，育児や介護，看護などの私事化と，社会化・専門化のプロセスを辿り，ジェンダー論的な視点から、今日的な諸問題の正確な理解ができる。	
	12	少子高齢化のジェンダー問題(山内)		
	13	少子高齢化の家族と育児支援(山内)		
	14	講義概要の全体像から母子看護領域における検討課題の明確化(岡本・渡邉・山内)	講義概要の全体像から母子看護領域における検討課題を明確にできる。	
	15	まとめ 母子の健康に関わる諸要因・ケアの課題・ケアシステムの検討(岡本・渡邉・山内)	母子の健康に関わる諸要因・ケアの課題・ケアシステムの在り方の要点が理解できる。	
	16			

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	「母子看護学」領域のヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発などにおける検討課題を明確にすることができる。	学習到達度の科目のねらいに沿って独自に開発した授業チェックリストによるアンケートから評価する。 問題意識，課題の発見，専門書および論文の正しい選択と内容の理解，議論・発表時のプレゼンテーション内容等，総合的に評価する。	先行文献をおよび，内外の学術雑誌を読むこと，および平素から，母子看護学領域について問題意識を持って社会を観察することを期待する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7002	母子看護学特別演習	2	60	選択	1年通年	岡本陽子・山内京子 渡邉　満・御村ひさ子

ねらい	「母子看護学」領域の臨床現場における健康問題解決のための方策を、母子の成長・発達を家族という視点で捉え，自らの課題と健康問題解決につながるヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するための演習を行い、看護の効果・効率的なあり方を「母性看護学」「小児看護学」の視点から「家族看護学」「家族社会学」も加えた検討を循環的・発展的に文献学的検証・シミュレーションも含めて総合的に探求し、研究の進め方を理解できるような教育展開をする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～2	母子看護領域における健康問題の今日的課題を母子双方から討論を加え、学習者の課題を明確化する。（岡本・山内・渡邉・御村）	教育概要から母子看護領域の健康問題と自己の課題が明確にできる。	適宜，提示する
	3～6	母子の成長・発達における家族の視点および健康問題解決のための文献検索・具体的検討・シミュレーションする。（岡本・御村）	母子看護領域の健康問題に関連する文献検索が自身でできる。	
	7～10	母子看護領域の健康問題とその解決策についての具体的プログラム立案（山内・渡邉） 1. 母子の健康問題解決のための支援プログラムの立案（山内） 2. 国際的母子保健問題解決支援（渡邉）	起こりうる問題とその解決策が検討できる。	
	11～24	ヘルスケアシステムの構築およびケアプラン・技術開発のために具現化された健康問題解決に向けた研究のあり方（岡本・山内・渡邉） 1. 母子看護領域の健康問題に対するシミュレーション教育実践（岡本） 2. 母子看護領域の健康問題解決支援プログラムの実施・評価（山内） 3. 母子の健康問題の国際的支援活動（国内外におけるフィールドワーク含む）（渡邉）	健康問題解決に向けた研究方法が理解できる。	
	25～27	実施された課題解決の具体的実践例を「母性看護学」「小児看護学」の側面から「家族看護学」「家族社会学」も含めたケアシステムの在り方とその評価視点について検討を行う。（岡本・山内・渡邉）	具体的な実践例をケアシステムの在り方とその評価視点に基づいて母子看護学・家族看護学・家族社会学の側面から理解できる。	
	28～30	実証的になされた問題について論理的に文章化し、提出する。（岡本・山内・渡邉）	定められた期日までに報告論文が作成でき、提出できる。	

教育評価	最終到達目標	評　価　法	学　修　法
	「母子看護学」領域のヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するなど看護の効果効率的なあり方を「家族看護学」および「家族社会学」の視点から実証的に探求できる。	学習到達度の科目のねらいに沿って独自に開発した授業チェックリストによるアンケートから評価する。 一連の学修成果を関連学会にて発表。 出席状況，学修姿勢等，総合的に評価する。	学習法は問題解決のための思考訓練および実践のための、文献検討および実践的教育活動と多岐にわたる。最終的に課題の解決方法の計画・実践・評価し、論文を作成する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	成人看護学特論	2	30	選択	1年前期	前信由美・岩本由美・田村和恵 小林敏生・森山美知子・土肥敏博 廣橋伸之・樋田一徳

ねらい

「成人看護学」領域における実践可能な高度な学識と行動力につながる臨床志向型研究に取り組むために、「成人看護学」領域のヘルスケアシステムの構築およびケアプログラムや技術を開発するなど看護の効果効率的なあり方について教授する。特にICU・CCU・SCUなどの最先端医療における救命救急場面における対象のフィジカル・アセスメント能力の向上及び倫理的課題探究について「医学」「法医学」を加えての教育研究し、研究と実践の循環的発展を実践科学として実証的に可能とさせるための教育・研究を行う。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	本講義の授業目的及び授業概要の説明と看護実践能力を高める教育について学習者自身の見解の提示（前信・岩本・土肥）	看護実践能力を高めるための教育と看護実践について自己の課題が明確化できる。	
2 3 4	自研究成果及び諸外国における研究の動向と課題を明確にし、臨床における診断・ケア能力・倫理的課題に取り組める研究者の育成を可能とさせる教育指導を行う。（前信・田村）	成人看護学領域全般における健康問題解決につながる技術教育の在り方及び、看護実践力向上に向けた取り組みについて考察できる。	自研究論文及び関連図書は都度提示する。
5 6	最先端医療における脳卒中高齢者救命救急場面で看護専門職者が直面する問題を解決するべく技術を演繹的にシミュレーションし、リフレクティブシンキングによる帰納的な繰り返しの学習法を実践的にプログラムし、効果効率的な技術および教授法の開発を目指した教育・研究について論じる。（森山）	成人看護学領域及び最先端医療における看護技術の特性について脳祖卒中ケアを通して自己の見解を述べることができる。	『脳神経外科学大系5、脳神経外科救急』篠原幸人他 『脳卒中ガイドライン』菊池晴彦他『脳卒中看護実践マニュアル』
7 8	ICU・CCU など救命救急場面における看護実践の国際的動向、特にアメリカ合衆国における看護理論および実践について紹介し、自研究成果も踏まえシミュレーション教育を取り入れた救命救急場面における救命・外傷プロバイダーとしての看護実践能力を高めるための技術について教授する。（岩本）	救急救命場面における諸外国の動向について理解し、我が国における看護実践の課題について述べることができる。	自研究論文及び関連図書は都度提示する。
9 10	人々の健康問題把握には現代医療の複雑で高度な診断と治療技術が必要になる。本講義では「成人看護学」領域における健康ニーズを満たすために特に生命の危機的状況に陥りやすい癌、白血病、エイズなどの最先端医療の知識・技術を教授し、患者のQOL を高める看護スキルについて教授する。（小林）	臨床場面における医学的診断について理解し、看護診断との共通性が言える。	自研究論文及び関連図書は都度提示する。
11 12	Critical Careとは生命の危機的状況に直面した患者に対する全身的包括的ケアを意味し、生命の危機的状況に迫っているその瞬間から看護は始まることが多い。本論では救命救急に関わる基本的な概念・知識・技術教授し、高度先端医療に対応しえる看護専門職者育成とNPO等の組織的事業展開及びネットワークシステム構築などについて教授する。（廣橋）	救命救急に関わる医学の基本的な概念・知識・技術を理解し、看護問題解決のための具体的方策が言える。	自研究論文及び関連図書は都度提示する。
13 14	生命危機状況場面で引き起こされる人々の生命の問題を基礎医学の立場から、科学的に検証し、生きることの意味を追究し人の尊厳に関する問題を看護の視点に置き換えて繊細に且つ幅広く教授する。（樋田・田村）	看護の立場から、生きることの意味と人間の尊厳について理解できる。	自研究論文及び関連図書は都度提示する。
15	教授された内容から成人看護学領域及び救命救急の看護実践及と教育に関する自己の課題解決に向けた方策を研究的に論述した最終レポートを完成させ、提出する。（前信・岩本・土肥）	救命救急及び看護教育に関して課題を明確化し、研究に取り組む準備として明らかに述べたレポートが作成できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
成人看護領域における人々の健康問題解決あるいは ICU・CCU・SCU などの最先端医療における高度な知識・技術の修得及びフィジカル・アセスメント能力を高めるための知識・技術が修得できる。 加えて、救命救急における看護技術の教授法と看護職への教育プログラム開発の視点が持つことができる。	評価は基本的に学則に準じ，学習過程において文献考察・発表・討論内容・提出された報告書などから総合的に評価する。	主として教授によるが、他者との対話，自己の研究課題解決に向けては関連図書及び学術研究」報告書などの文献学的検索及び考察・発表・討論・提案方法などを修得し、研究に結び付ける。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	成人看護学特別演習	2	60	選択	1年通年	前信由美・岩本由美・田村和恵 小林敏生・森山美知子・土肥敏博 廣橋伸之

ねらい	この演習では、「成人看護学」領域及び ICU・CCU・SCU などの最先端医療における救命救急場面での看護実践能力を高めるための知識・技術修得・技術修得のための教授法及び教育プログラム開発を目指した探究を実証的に行い、加えて救急救命場面における健康問題解決のための援助法について探究し、研究と実践の循環的発展を促す臨床志向型の方向性について実践的に検討できるようにする。

	授業概要			授業到達目標	使用図書等
教育内容	1		授業概要の説明と成人看護学領域及び ICU・CCU・SCU などの最先端医療看護者の責務についての討論 (岩本・前信・田村)	本授業の目的が理解でき、成人看護領域における看護者の責務について考えることができる。	必要図書及び参考文献は適宜紹介するが、関連文献探索は自身でも積極的に行うものとする。
	2～5		成人看護学領域で看護専門職者が実際に直面する問題の明確化 明確化された問題の解決に向けた支援法・教授法・教育プログラムの立案 立案した支援法・教授法・教育プログラムの報告と検討 (岩本・前信)	救命救急場面で生命危機状況からの回復に向けた適切な看護法・教育プログラム・教授法についての検討ができる。	
	6～8		1.学部が実践している，問題解決型教育・探求型教育とシミュレーション及び「反省的思考」教育への参画及び評価 2.諸外国における救命救急技術教育の動向との対比において看護実践能力を高めるための技術及び教授法の再構築 3.成人看護学及び ICU・CCU など救命救急場面における看護実践を演繹的な教育プログラムの再構築 (前信)	救命救急場面で生命危機状況からの回復に向けた適切な看護法を実践的に探究し，実践的な看護法が創意・工夫できる。	
	9～26		上記 1.2.3 の教育・臨床実践的探究(岩本) 1. ICU・CCU などにおける救命救急場面への参加・観察・実践[外国の病院でのフィールドワー含む](廣橋/3回) 2. 対象者の健康問題アセスメント(森山・岩本/2回) 3. 実際の医学診断過程と看護診断との整合性及びフイジカルアセスメントの妥当性について医学診断・治療の側面からの検証 (前信・小林/2 回) 4. 心身の苦痛・緩和に向けた看護を実践的に探究 (前信・土肥/2回) 5. 生命危機状況から回復に向けた適切な援助法の創意工夫 (岩本/2回) 6. 援助に対する看護者の実践的・倫理的課題の探究(田村・小林/2 回) 7. 自己の立案した援助法・教授法・教育プログラム再評価 (前信・岩本/2 回) 8. 関連する国内外のワークショップ・セミナー・学会への参加 (岩本/3回)	救命救急場面への参加によって得られたことを理論的に解釈し，回復に向けた援助法の創意・工夫できる。 実際の医学診断過程と看護診断との整合性について論述できる。 自己の立案した技術・教授法・教育プログラムが効果効率的であるかの再評価及び倫理的課題への評価ができる。 国内外の動向及び文献との対比において自己の課題をさらに探究できる。	
	27～28		実践的に探究した援助法・教授法・教育プログラムをより発展的にさせ、看護実践能力を高めるための看護技術及び教授法の開発を目指した発表・討論を行う。 (前信・岩本・田村)	看護技術及び技術教育の方法について自己の実践を知に置き換え，論理的に討論ができる。	
	29.30		本演習で得られた知見を論理的な報告書を作成する。 (岩本・前信・田村)	本演習に直結した論理的な報告書が作成できる。	
			報告書の提出	期日までに報告書が提出でき、関連学会に報告できる。	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	最先端医療における救命救急場面での看護実践能力を高めるための技術修得のための教授法及び教育プログラム開発を目指し、救命救急場面における看護師としての実践行動を構造化し、研究の方向性が示せる。	学則の評価基準に準ずる。 出席状況，議論・発表時のプレゼンテーション内容，課題探究状況等，総合的に評価する。	講義・演習・ディスカッション フィールドワーク・ワークショップ・セミナー学会参加による探求。 文章化、プレゼンテーションなどを通した実証的な総合学習

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7011	高齢者看護学特論	2	30	選択	1年前期	奥田泰子、棚﨑由紀子

ねらい	諸外国の高齢者看護制度・ケアシステムと看護活動の動向及び研究の動向を理解する。高齢者の健康に影響する諸問題のアセスメント方法・ケア実施の分析方法・ケアのアウトカム測定方法やケアシステム、ケアプログラムの開発などの要点を教授し、臨床志向型・問題解決型研究、および実践と研究の循環的発展を可能にする研究の進め方の基本的な概要を理解できるようにする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1 2	高齢者看護における諸外国の制度・ケアシステム・看護活動の実際と高齢者ケア研究の動向 （奥田）	高齢者看護における国内外の研究動向の国際比較ができる	・ Joseph J. Giallo et al,:Handbook of Geriatric Assessment 5th. Jones & Bartlet Publishers, 2018. ・高齢者総合的機能評価ガイドライン:長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班,2008. ・新老年学(第3班):東京大学出版会 ・看護のための最新医学講座(第2版):中山書店,2005. ・臨床・研究で活用できるQOL評価マニュアル、医学書院(2023)
	3 4 5	高齢者看護現場のケア現状と課題の明確化、アウトカム測定を含むケアの評価方法・研究的介入方法・ケアシステムの構築・改善の進め方についての概要 （奥田）	ケアのプロセスと評価の概要を理解できる。 介入研究の倫理的課題と研究の進め方の概要を理解できる。	
	6 7 8	高齢者の心身機能のアセスメント方法、 介入研究による現状分析、および生活の質拡大に向けたケアプログラム （奥田）	加齢による身体的機能低下が生活に及ぼす影響を理解し、QOL の拡大に向けたケアプログラムの開発方法を理解する。	
	9 10 11	認知症高齢者の健康ニーズのアセスメント方法 ・ケア実践の分析とケアプログラム開発 ・現場への介入研究と改善方法 （奥田）	認知症高齢者に対するケアプログラム開発と評価方法を理解できる。 現場ケアの改善と研究の相互発展的過程が理解できる。	・先行研究論文
	12 13	日常生活における活動のアセスメントと転倒予防 高齢者の身体機能の維持・改善に向けたアクティビティプログラム、現場への介入研究とアウトカム評価 （棚﨑）	高齢者の活動能力のアセスメントから能力の維持・向上のためのケアプログラム開発方法を理解する。	・先行研究論文
	14 15	高齢者の栄養に関する諸問題へのアセスメントと食の改善、アウトカム評価 （棚﨑）	高齢者の栄養状態のアセスメント・ケアプログラム・アウトカム評価を理解する。	
	16	まとめ 高齢者ケアの課題、ケアプログラムの開発、アウトカム評価方法、現場ケアの改善方法についての考察 （奥田・棚﨑）	上記全体を通して高齢者の健康ニーズをアセスメントし、ケアプログラム開発、アウトカム評価の要点を理解できる	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	「高齢者看護学」領域における臨床指向型・問題解決型研究について理解し、高齢者看護における臨床現場での課題の循環的発展に向けた自己の研究的視点をもてる。	1)学習目標到達度について授業チェックリストによる学生アンケートにより評価する。 2)学生の課題発表・レポート作成、討論への参加状況と独創的な発想などで評価する。 3)授業内容を自己の研究課題に活用する能力を評価する。	1)科目の到達度をチェックリストアンケートにより学生と教員で 3 回評価し、学生個々の不足点を補充する。 2)学生の課題レポート作成・発表・討論により、自己学習方がより確実に進められる方法を修得する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7011	高齢者看護学特別演習	2	60	選択	1年通年	奥田泰子、棚﨑由紀子

ねらい	「高齢者看護学特論」の講義を踏まえ、臨床志向型研究を具体的に進めるための基盤となる内容を教授する。研究例を演習教材として用い、シミュレーションやフィールドワークをとおして研究の進め方が理解できるようにする。実践と研究の循環的発展を体現することで、アセスメント方法・ケアシステムの開発、アウトカム評価など研究の一連のプロセスを理解する。学生は、課題分析力・レポート作成力・発表力の飛躍的向上を図る。これらによって学生が自己の研究課題について研究デザインと研究を進める基盤とする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～10	1) 看護活動現場からみた高齢者看護の現状と課題分析 2) ニーズ分析とケアプログラムの開発 3) 研究例「認知症高齢者の尊厳性に関する家族対処行動と支援システムの構築」の現場活用法 4) 高齢者ケアシステムの構築と現場活用法 以上について、シミュレーションやフィールドワーク（奥田）	研究事例とフィールドワークにより、高齢者看護学領域における現状分析及び課題のとらえ方を理解できる。	各教員の自研究論文その他関連論文は適宜紹介する
	11～16	研究例を教材とした、加齢に伴い低下する高齢者生理機能に対応した安全な日常生活活動のための実験計画法・システム開発・システムの検証 「高齢者の安全性を保持した効果的な入浴システムの開発」 シミュレーション・フィールドワークを含む（奥田）	加齢に伴う生理機能の変化を生理学的に評価する方法を理解する。 実験計画法の立案・実施・システム開発・検証によりシステムの現場活用プロセスを理解する。	
	17～20	認知症高齢者の症状悪化予防のためのケア環境（人的・物的環境）改善プログラムの開発（奥田）	認知症高齢者の残存機能を生かしたケアプログラムの開発を理解する。	
	21～27	1)研究例を教材とした、高齢者の転倒予防のケアプログラム開発方法とアウトカム測定方法。 2)高齢者の摂食・嚥下障害の評価方法・ケアプログラムの開発、食改善策 1)、2)ともにシミュレーションやフィールドワークを含む現場への介入研究と改善方法（棚﨑）	高齢者の健康を維持するための転倒予防・誤嚥予防ケアプログラムの開発と現場活用法が理解できる	
	28 29	高齢者の「生きがい」の分析とサポートシステムの開発、現場への介入とアウトカム測定方法（棚﨑）	高齢者が生きがいを持って生活できるようなサポートシステムの開発の方法を理解する。	
	30	まとめ（奥田・棚﨑） 家族介護者を含む高齢者の健康ニーズに関連する諸要因、ケアプログラムの開発とそのアウトカム評価方法、現場ケアとケアシステムの改善方法について考察する。	上記全体を通して、家族を含む高齢者の健康ニーズのアセスメントとケアプログラム開発、活用と評価についての要点を理解できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	「高齢者看護学」領域において、臨床志向型・問題解決型研究を展開するうえで、高齢者及び家族介護者を対象として、実践データ収集からケアプログラムの開発・実践への適用と評価を通して、循環型発展を可能とする研究の進め方が理解できる。	1) 学習目標到達度について授業アンケートから評価する。 2) 学生のレポート作成・発表・討論への参加状況から評価する。 3) ケアシステムの開発方法と現場活用法およびアウトカム測定方法の理解度を評価する。 4) 実践と研究のつながりと循環的発展研究方法の基本的な理解度を評価する。	1) 到達目標・到達度評価をチェックリストにより、学生と教員で評価を3回実施、不足点を補充する。 2) 実践と研究がセットになっている実例資料からリアリティを高め修得しやすくする。 3) 学生は課題についてレポート作成・発表・討論から自己研究の課題がより明確になり、進め方について理解できるようになる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7016	在宅・地域看護学特論	2	30	選択	1年前期	塩谷久子・中村　哲

ねらい	地域で生活する人々の健康に影響する諸要因と健康の問題発生予防・改善のためにアセスメント方法・ケア実施の分析方法・ケアのアウトカム測定方法、およびこれらに基づくケアプログラム開発方法・ケアシステムの構築や改善方法の要点を教授し、臨床志向型・問題解決型研究法、および実践と研究の循環型発展を可能にする研究の進め方の概要を理解できるようにする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～5	国内外の在宅看護学分野、地域看護学分野における看護サービスの改善・改革及び地域ケアシステムの構築に向けた研究的取組の動向。（塩谷） 在宅ケアのアセスメント、看護ケアの課題の明確化、看護サービス利用者へのケアの評価方法、ケアシステムの構築と評価方法についての概要を理解の基に、看護サービス・看護ケアの改革を目指した研究的介入方法の課題の理解（塩谷）	在宅看護学、地域看護学及び地域ケアシステムの研究動向の国際比較ができる。 自己研究に文献を適切に活用できる。 ケアのプロセスと評価システムの概要を理解できる 介入研究の倫理的課題と研究手法の概要を理解できる。	資料は講義前に都度紹介する。
	6～9	疫学的な視点から高齢者健康ニーズと疾病予防・機能低下の予防方法およびその評価方法（塩谷）	健康ニーズに応じた予防ケアと評価の疫学的な研究法を理解できる。	
	10～11	認知症者を含めて在宅ケア対象者の心身機能低下予防と転倒予防などのケアプログラム開発方法とアウトカム測定方法、現場への介入研究と現場ケアの改善方法（塩谷）	在宅ケアにおけるプログラム開発と評価方法を理解できる。 現場ケアの改善・向上と研究との循環的発展過程が理解できるようにする。	
	12～13	健康の疫学的とらえ方とデータ収集・分析および評価方法の要点（中村）	健康の疫学的なニーズ分析方法と課題抽出方法の要点を理解できる。	
	14	真菌や寄生虫および他の微生物の健康への影響と問題改善の方法 （中村）	真菌や寄生虫あるいは他の微生物の人間の健康への影響と改善方法を理解できる。	
	15～16	まとめ（塩谷） 在宅・地域における臨床志向型研究により、研究と現場の循環的発展を可能にする科学的な方法とプロセスの整理	在宅・地域における臨床志向型研究により、研究と現場の循環的発展を可能にする科学的な方法とプロセスが整理できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	健康問題発生の予防・改善・解決と実践の向上をめざして健康ニーズ分析方法・アウトカム測定法・ケアプログラム開発方法・ケアシステムの改善・構築方法について概要を理解できる。	1) 学習目標到達度について授業チェックリストによる学生アンケートにより評価する。 2) 学生の課題発表・レポートの作成・討論への参加度・独創的な発想などで評価する。 3) 授業内容から自己の研究課題に活用する能力を評価する。	1) 科目の到達度評価をチェックリスト・アンケートにより学生と教員で評価を 3 回実施し。不足点を補充する。 2) 学生の課題レポート作成・発表・討論により、自己学習法がより確実に進められる方法を修得する。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7017	在宅・地域看護学特別演習	2	60	選択	1年通年	塩谷久子・中村　哲・松原みゆき

ねらい	「在宅・地域看護学特論」の内容を基盤にして在宅地域看護における臨床志向型研究を具体的に進めるための基盤となる内容について教授する。研究例をシミュレーションし、教材として研究の進め方を理解できるようにする。実践と研究の循環型発展方法をトライアルとして演習に組み込み、フィールドワークし、レポート作成・発表・討論形式で進める。レポート作成力・討論力の飛躍的向上を図る。これらによって学生が自己の研究課題について研究デザインと進め方を探求する基盤になるようにする。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～13	1）在宅看護の現場活動と研究からみた現状の分析方法と課題のとらえ方 2）ニーズと実践分析からケアプログラム開発方法 研究例(1)「要介護高齢者の自立支援プログラム開発と評価方法」「ケアプログラム開発方法」と現場での利用方法 研究例(2)「在宅終末期ケアにおける対象別・時期別ケアプログラム開発と評価方法」と現場での利用方法 3）ケアマネジメントの実態からみた効果評価 4）在宅ケアシステムの構築の要件とその評価方法 以上についてのシミュレーション・フィールドワークを含む。（塩谷）	1）在宅看護現場活動と研究から現状分析方法と課題のとらえ方を理解できる。 2）ケアプログラム開発・評価方法を理解できる。 (1)軽度要の介護高齢者の自立支援を教材として研究的進め方が理解できる。 (2)在宅終末期ケアを教材として研究的進め方を理解できる。 3）ケアプログラムの現場への利用方法が理解できる。 4）ケアマネジメントの評価方法 5）在宅ケアシステム評価とシステムの構築方法の基本的理解ができる。	資料は講義前に都度紹介する。
	14～20	自己研究例・他の研究例を教材としてケアマネジメント評価法、訪問看護ステーションのサービス評価と費用対効果分析法（塩谷）	ケアマネジメント実施の評価方法が理解できる。 サービス評価と費用対効果分析法を理解できる。	
	21～26	自己研究例を教材として健康高齢者の生活自立維持のための運動プログラム開発と評価方法。うつと認知症者の悪化予防の方法。「住民の主体的参加の工夫に関する研究」を含める。 年代別健康ニーズのコホート研究例示による健康を高める計画と実践方法の検討（松原）	健康高齢者の健康維持と生活自立支援、うつと認知症者の悪化予防方法と評価方法を理解する。 コホート研究法と健康を高める方法を理解できる。	
	27～29	自己研究例・他の研究例を教材として健康ニーズの疫学的分析方法・疫学データの収集法と解析。研究結果を現場に活用する方法。ケア効果の分析方法。 母子保健研究例を用いて討論　（中村）	疫学研究法のプロセスと手法を理解できる。	
	30	まとめ 健康ニーズ分析方法・ケアプログラム開発方法・その実用化と効果評価方法および研究と現場の循環的な発展方法の整理　（塩谷・中村）	ニーズ分析に基づくプログラム開発・実用化・評価方法を理解できる。 研究と現場の循環的な発展方法を理解できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	在宅地域看護実践について臨床志向型研究の進め方において、実践データからケアプログラム開発方法・実践への実用化のための適用方法および効果評価方法からアウトカム測定方法を学び、研究と実践の循環型発展を可能にする進め方を理解できる。	1)学習目標到達度について授業アンケートから評価する。 2)学生へのレポート作成・発表・討論から評価する。 3)ケアプログラムの開発方法とその現場適用方法およびアウトカム測定方法を理解する。 4）実践と研究のつながりと循環型発展をめざす研究方法の基本的な学習度を評価する。	1)到達度目標・到達度評価をチェックリストにより、学生と教員で評価を3回実施。不足点を補充する。 2)実践と研究がセットになっている実例教材からリアリティを高め修得しやすくする。 3)学生は課題についてレポート作成・発表・討論から自己研究の課題がより明確になり、進め方について理解できるようにする。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7021	特別講義Ⅰ （人体構造機能・薬物代謝）	2	30	選択	1年 後期	小林敏生・森田克也
ねらい	本論では、人体構造機能と薬物代謝についての高度な知識を教授し、看護実践におけるフィジカルアセスメント能力向上及び人々の健康ニーズの問題解決能力を高めると同時に、本論での学びを発展的にとらえた臨床志向型研究ができるよう教授・研究する。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	授業概要説明 「人体構造機能学と人間の行動理解」 1. 神経単位の構造と機能 （小林）	ニューロンの基本構造と機能が理解できる。	使用図書、文献などは都度提示する。
	2	2. 中枢神経系及び脳神経の概要 （小林）	中枢神経系及び脳神経系の基本的構造と発生学的関係を理解できる。	
	3	3. 大脳の基礎構造と機能及び運動のメカニズム （小林）	大脳皮質と諸核と働きの概要を理解し、運動と筋組織の構造機能とメカニズムを理解できる。	
	4	4. 感覚情報と行動及び視覚機能と錯誤 （小林）	感覚機能の詳細と視覚的錯覚のメカニズムを理解できる。	
	5	5. 視床下部と下垂体によるホルモン調節の支配 （小林）	ホルモン調節機構と神経からの支配が理解できる。	
	6	6. 呼吸・循環系の調節機序と相互関連 （小林）	呼吸循環系の調節機序と適応について理解できる。	
	7	7. ストレスの機序と生体反応・対処 （小林）	ストレスの発生機序と生体反応、およびストレスコーピングについて理解できる。	
	8	「薬物代謝学」 （森田） 8. 薬の体内動態	薬が吸収されてから排泄されるまでの動きを説明できる。	
	9	9. 薬物の生体膜透過 （森田）	薬物の化学的性質と生体膜の特質を説明できる。	
	10	10.薬物の吸収(Absorption) （森田）	薬物の投与経路と吸収のしくみを説明できる。	『臨床薬物動態学』
	11	11.薬物の体内分布(Distribution)と臓器クリアランス （森田）	特定の部位に分布する薬物と、その臨床応用を説明できる。	
	12	12.薬物の代謝(Metabolism) （森田）	薬物の代謝に関与する酵素を挙げ，説明することができる。	
	13	13.薬物の排泄(Excretion) （森田）	薬物の主な排泄経路を挙げることができる。	
	14	14.薬の動態理論 （森田）	コンパートメントモデルで薬物動態を説明できる。	
	15	15. 総合セミナー （小林・森田）	これまでの学習について総合的に考察する	
	16	研究課題ごとのレポート提出	本論での学びを看護に発展的に考えられたレポートが作成でき、期日内に提出することができる。	

	最終到達目標	評価法	学修法
教育評価	「人体構造機能」と「薬物代謝」についての高度な知識を通して看護を発展的に考察することができ、看護実践におけるフィジカルアセスメント能力向上及び人々の健康ニーズの問題解決能力を高める研究に関連づけることができる。	学則の評価基準に準ずる。 出席状況，議論，課題探究状況等，総合的に評価する。	「人体構造機能」では視覚講義資料と講義、モデル標本及び人体解剖観察実習による実践的学習 「薬物代謝」では、学習者が主体的に与えられたテーマに沿って探究、プレゼンテーリョン・討論形式で授業を展開する質問に耐えられるよう担当部分を十分に調べておくことが必要である。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7022	特別講義Ⅱ（放射線環境・住環境）	2	30	選択	1年後期	金澤　寛　・小林敏生　・岡　隆光

ねらい

看護学の教育研究を深めるために，環境に関する中で特に放射線環境と，住環境について講義する。
【放射線環境】医療技術の進歩に伴い放射線診断技術が次々と開発されている。また，放射線汚染事故により被爆の問題もクローズアップされている。患者や住民の不安に応えるためにも，看護職者自身の被爆防御のためにも，放射線環境の知識は重要である。この放射線環境では，放射線についての知識を授け，放射線の利用とリスク回避について述べ，放射線の遮蔽計算の基になっている放射性物質のコンピュータによる輸送計算について述べる。
【住環境】住環境では，建築物環境と健康・住環境の構成要素・ユニバーサルデザイン・安全にかかわる事柄について学ぶ。建築物環境の健康に及ぼす影響や環境基準について理解すると共に、安心安全な住環境を創造し，維持していくためにはなにが必要かを知り，考察を行い，その方策を修得する。

教育内容

	授業概要	授業到達目標	使用図書等
1	自然放射線と人工放射線（岡）	放射線についての知識を得る。	参考文献 ・Monte Carlo Neutron and Photon Transport Code System (CCC-200A/B) ・「看護実践に役立つ放射線の基礎知識」医学書院
2	放射線の物理的性質（岡）	透過と吸収など放射線の物理的特性を理解する。	
3	放射能汚染（岡）	放射線汚染の特徴を理解し，汚染から逃れるための知識を得る。	
4	放射線伝搬の輸送計算(1)（岡）	モンテカルロシミュレーションを用いた輸送計算の原理を理解する。	
5	放射線伝搬の輸送計算(2)（岡）	原爆放射線量推定方式(DS02)を理解し，放射線拡散などの知識を得る。	
6	放射線の種類と健康影響　および医療への応用（小林）	放射線の種類と被ばくによる健康障害の発生機序および診断と治療について理解できる。	参考文献 ・Generic Procedures for Assessment and Response during Radiological Emergency (IAEA-TECDOC-1162) ・Monte Carlo Neutron and Photon Transport Code System (CCC-200A/B) ・Reassessment of the Atomic Bomb Radiation Dosimetry for Hiroshima and Nagasaki - Dosimetry System 2002 -(RERF) ・「看護実践に役立つ放射線の基礎知識」医学書院
7	医療被曝と放射線看護（小林）	医療現場・公衆における放射線被ばくと防護，リスクコミュニケーション，看護職の役割について理解できる。	
8	建築物環境と健康（小林）	建築物環境への適応の概念と健康への影響について理解できる。	
9	建築物環境の基準（小林）	一般生活環境基準と建築物環境基準について健康影響の立場から理解できる。	
10	建築物環境の要因別理解と健康影響（小林）	建築物環境と健康への影響について要因別(物理・化学・生物学的要因)に理解できる。	
11	住環境を構成要素の特徴（金澤）	住環境を構成する基本的な構成要素である構造および材料の特徴について学び，考察できる。	参考図書 「健康をつくる住環境」健康をつくる住環境編集委員会編・井上書院 「普通鋼制振ブレースせん断抵抗材の開発とその既存建物補強への適用に関する研究」金澤寛著 その他関係する文献等を提示する。
12	住環境における安全で健康的な材料（金澤）	滑りにくい・静電気を防ぐなどの怪我を防止するための材料や抗菌剤のような健康的な材料について考察できる。	
13	住環境と都市環境（金澤）	都市環境の抱える諸問題と住環境とのかかわりについて，考察できる。	
14	住環境設計（金澤）	ユニバーサルデザインのような住環境を改善するための工夫・設計について学	
15	安全な住環境（金澤）	人命を守るための安全な住環境を構築する技術について学び，考察できる。	

教育評価

最終到達目標	評価法	学修法
・放射線の人をはじめとする生物への影響・医療利用・リスク管理を学び，輸送計算を通して，放射能汚染の広がりなどを把握できる。 ・建築物環境が健康に及ぼす影響について要因別に述べることができ，環境基準についても説明できる。また，住環境の安心・安全を確保するための工夫や技術について知り，快適な住環境の方向性を探ることができる。	学則の評価基準に準ずる。 レポートを中心に評価し，議論・プレゼンテーションも評価に加える。	予習・復習は必要である。ここに関する諸問題は，新聞・テレビ等のマスメディアでも取り上げられている日常的な問題も含まれるので，平素より問題意識を持ち，情報収集を含めた探求する姿勢が望まれる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7023	特別講義Ⅲ (栄養代謝・生体物質科学)	2	30	選択	1年 後期	中村　哲・中村瑞子

ねらい	本論では、「栄養代謝・生体物質科学」の学問分野と人々の健康問題について論じ、人々の健康ニーズについての問題解決型研究の学際的・総合的研究の可能性を探る。特に「栄養代謝」では、健全な栄養代謝機能と異常状態について論じ、「生体物質科学」では、健康な身体の形成に必要な栄養素や生物学的活動に必要なエネルギーの生産過程あるいは恒常性の維持に係わっている微量な生体物質について理解を深める。また栄養障害と感染症の観点から途上国に残る寄生虫疾患と人の健康との関係についても理解を深めることができるよう教授する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1	看護の場での代謝・栄養学の位置づけ(中村瑞子)	代謝・栄養学を自然科学の一分野として位置づける	自研究他関連文献は都度提示する。
	2	身体の成長・発達を促す5代栄養素と代謝(中村瑞子)	5代栄養素の身体内での代謝について理解できる。	
	3	栄養代謝機能の異常と健康問題(中村瑞子)	代謝異常がもたらす疾病について理解できる。	
	4	疾病の予防に向けた看護活動(中村瑞子)	疾病予防について栄養代謝学的な視点から論じることができる。	
	5	栄養代謝学における研究法(中村瑞子)	栄養代謝学における科学的研究の方法について理解できる。	
	6	栄養代謝学に関する国内の動向(和文)の解説(中村瑞子)	栄養代謝学関連の最新情報の中にある問題点が解説できる。	
	7	発生学, 遺伝学, 分子生物学における栄養代謝の位置づけ(中村瑞子)	生物の発生や遺伝子の発現と栄養代謝との関係について理解できる。	
	8	途上国の栄養と寄生虫感染症との関わり（中村哲）	顧みられない熱帯感染症と栄養との関連について理解できる。	学修に関わる文献・資料等は適宜配布する。
	9	寄生虫の分類と疾患Ⅰ. 原虫類（中村哲）	原生動物とそれによる疾患の種類について理解できる。	
	10	赤痢アメーバ症とマラリア感染症（中村哲）	熱帯地域住民の死亡に関わる代表的な疾患の重要性を認識できる。	
	11	寄生虫の分類と疾患Ⅱ. 線虫類（中村哲）	寄生線虫類とそれによる疾患の種類について理解できる。	
	12	ヒトフィラリア症と媒介動物（中村哲）	媒介生物としての節足動物の役割と線虫症の疫学が理解できる。	
	13	寄生虫の分類と疾患Ⅲ. 吸虫類（中村哲）	吸虫類とそれによる疾患の種類について理解できる。	
	14	住血吸虫症とその病理（中村哲）	住血吸虫の感染メカニズムとその病理像について理解できる。	
	15	寄生虫の分類と疾患Ⅳ. 条虫類（中村哲）	条虫類とそれによる疾患の種類について理解できる。	
	16	「栄養代謝・寄生虫感染症」における健康問題と看護との繋がりについて考察した課題報告書の作成と提出（中村瑞子・中村哲）	「栄養代謝・寄生虫感染症」における健康問題と看護との繋がりについて報告書が作成できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	「栄養代謝」および「寄生虫感染症」における講義を踏まえ、各学問領域が人々の健康問題に及ぼす影響から健康問題解決に向けた看護ケア及び看護学の発展的研究、すなわち、臨床志向型研究と関連づけて考えることができる。	授業内容が理解できて，探求心に発展していくことが重要である。 授業の取り組み，文献の調査方法，レポートのまとめ方等により総合的に評価する。	文献学的学習と得られた知見を積極的に探究し、授業が理解できるように熱心に取り組まなければならない。学修したことをもとに、授業の終わりに課題が提示され、レポートとして提出する。同レポートは次の授業に活用される。また、レポートは全体として看護研究課題報告書としてまとめられる。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7008	看護学特別研究Ⅰ	2	60	選択	1年通年	岡本陽子・小林敏生・前信由美 奥田泰子・塩谷久子

ねらい	臨床現場の課題についての高度な学識と行動力を持ちながら臨床志向型研究を「母子看護学・成人看護学・老年看護学・地域看護学」領域の健康ニーズの予防・改善・解決のためにケアシステムの改善・構築、ケアプログラムの開発及び技術の開発的研究を行う。加えて、看護学の発展的研究に取り組むために、学際的教育として設置された看護学近接科学の学問を取り入れた研究も推進し、研究と実践の循環的発展を目指して実践の科学を追及して自立した研究者としての能力、かつ独創的な研究計画が立案できるよう指導する。

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～30	独創性のある研究課題を明確にするために、関連する文献の検索を行い、適切な研究法を選択、研究計画書を作成する。	独創性のある研究課題を明確にし、適切な研究方法が選択できる。	関連文献は自身で検索する。
		（1）1年次10月に研究論文の中間発表に参加し研究計画の審査を受け、研究が具体的・かつ研究の質が高められるようにする。	研究計画が立案できる。	
			中間発表が適切にできる。	
		（2）約1年次以内に研究倫理委員会に提出して倫理審査を受けられるようにする。または倫理委員会審査結果を受け取ることをめざす。	倫理審査委員会に申請書を提出する。または、審査結果を受け取る。	
		（3）博士につながる副論文の作成準備と論文投稿（原著）・学会発表準備を計画的に進める。	博士論文につながる副論文について関連学会への発表ができる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	自己の研究課題解決に向けた独創的な研究計画書が完成する。 倫理審査委員会に申請書を提出する。 博士論文に関連した副論文作成を準備する。	研究課題に即した研究法、研究計画書、学会発表、中間発表、副論文などから総合的に判断する。	フィールドワーク、参考文献検索、文献クリティーク、討論、策定した研究の推進、副論文の作成、学会発表、学内中間発表など。

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
x7009	看護学特別研究Ⅱ	2	60	選択	2年通年	岡本陽子・小林敏生・前信由美 奥田泰子・塩谷久子
ねらい	研究内容は「母子看護学・成人看護学・老年看護学・地域看護学」領域の教育研究内容に沿って策定された研究計画に従って研究を推進する。その研究は、「成人看護学」領域において独創性があり先駆的で原著論文となりうる臨床志向型研究を進め、丁寧なデータ収集とそのデータの分析を進め、副論文を完成させる。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～30	（1）研究計画に沿って研究のデータ収集を丁寧に行い、できる限りデータの分析を進める。2年次でデータ分析は終了している。	データ収集とデータの分析ができる。	
		（2）2年次10月に研究論文の中間発表を研究計画とデータ解析法について教員と学生などからコメントを受けて、研究の進め方を見直す機会とする。	研究論文作成と中間発表ができる。	
		（3）博士論文につながる学会発表を行い、副論文の作成と投稿を終える。	副論文の作成ができる。	
		（4）看護学の博士論文審査に合格できる内容と水準であることを常に心がけて研究を進める。	論文審査に合格できうる水準の論文が作成できる。	

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	自己の研究計画に即した丁寧なデータ収集とその整理、データの分析を進める。 副論文が完成できる。	データの収集から分析、副論文の内容と学内中間発表などから総合的に判断する。	研究の推進、データの収集・分析、データ分析内容に即した副論文の作成、学会発表、学内中間発表など

教科目No.	教科目名	単位数	時間数	必修・選択別	開講年次	担当教員名
	看護学特別研究Ⅲ	2	60	選択	3年通年	岡本陽子・小林敏生・前信由美 奥田泰子・塩谷久子
ねらい	研究内容は「「母子看護学・成人看護学・老年看護学・地域看護学」領域の教育・研究概要の目的に沿っており、独創性があり先駆的で原著論文となりうる臨床志向型研究を完成させる。					

教育内容		授業概要	授業到達目標	使用図書等
	1～30	（1）博士論文の作成と予備博士論文の提出 2年生次に行ったデータ解析に基づいて本格的に博士論文作成に取り込み、3年次9月中旬（当日が休祭日においてはその前日まで）12 時を期限として博士論文3部を阿賀キャンパス学生課に提出する。その際に本人が中心となって作成した副論文として原著論文1編、印刷済み、または論文掲載証明のある論文、その他、参考論文として2編（原著論文・筆頭著者でなくても可）各3部を提出する。	博士論文予備審査のための論文作成ができる。	自己の研究に関連する参考文献他 適切な時期に課題に応じた図書を提示あるいは推薦する。
		（2）博士論文の予備審査 論文審査においては看護学各分野の教育目的の到達度を審査基準とする。 3年次 10 月－12 月に予備審査を行う。博士論文の指摘を受けた事項を修正し、1月 20 日（当日が休日の場合は前日の 12 時）最終論文として学生が同学生課へ再提出する。一方再提出時に主査・副査の3名の教員による予備審査終了と博士論文最終提出許可証を主査が論文審査の教員2名のものをまとめて同学生課に提出する。	博士論文の予備審査に合格できる。	
		（3）論文審査 論文審査においては「成人看護学」領域の教育・研究概要の目的の到達度を審査基準とする。 臨床看護学分野の学習目的および「成人看護学」領域の教育・研究概要の目的に沿って看護学の博士論文にふさわしい内容と水準で独創性があり、先駆者的な研究であることを審査論文提出の前提条件とする。	博士論文の最終審査に合格する。	
		(4)博士論文最終発表会を行う。		

教育評価	最終到達目標	評価法	学修法
	1.各研究分野の教育・研究概要に沿って独創性があり先駆的で原著論文となりうる臨床志向型研究論文を作成させる。 2.博士論文の予備審査に合格できる。 3.最終博論文審査に合格できる。	1) 本学大学院論文審査基準に則って審査委員会及び研究科委員会の判定による。 2) 研究科委員会では論文に対して賛否の投票を行い、2/3 以上の合格投票により博士(看護学)を授与する。	1)臨床志向型研究の過程と方法を修得する。 2)論理的・分析的思考に基づいた論文作成